

史料編  
**巡礼と「道中日記」の諸相**

塚本 明・近藤浩一・胡 光

文政三庚辰年十一月日  
信州諏方郡下之原村

禅宗慈雲寺（印）

はじめに

一〇一三年度「四国遍路と世界の巡礼」公開講演会ならびに公開シンポジウムでは、日本ならびに中東の様々な巡礼についての報告が行われた。特に日本の巡礼については、多方面からの巡礼者による「道中日記」と巡礼者をめぐる諸史料が多數紹介され、四国遍路の新たな一面だけでなく、他の巡礼と比較した時の特徴も明らかとなつた。これだけの巡礼関係史料が一堂に紹介されることは稀有であり、初公開のものも含まれている。そこで、今後の四国遍路研究や巡礼研究のみならず、近世交通史研究などに資するため、ここに収録する。（胡）

一 道中日記と巡礼に関する諸史料

（塚本）

★【1】【2】は塚本所蔵史料。信濃国諏訪郡西山田村（現・岡谷市の一部）の覚兵衛と作太郎が旅に出た時の文書。往来手形と道中日記がセットで残されている。往来手形では「西国四国順礼」の名目を掲げているが、実際には四国滞在はごく短時間であった。

【1】「往来一札」（文政三〔一八二〇〕年）

往来一札

一、当寺檀那西山田村覚兵衛并作太郎右両人此度志願二付西国四国順礼二罷出候、諸国海陸御関所罷出無相違御通可被下候、若行暮候節者止宿等之義急度頼入候、又者途中ニ而病死等致候共國元江不及御届、其所御定法御取置可被下候、為後日依而往来一札如件

【2】「西国道中覚帳」（文政三〔一八二〇〕年）  
(表紙)  
〔文政三庚辰年 西国道中覚帳 十一月日 原覚兵衛〕  
(前略)

大晦日

一、岡山泊り 溝口屋藤兵衛殿

日々十一り

是より備前一宮吉備津之宮并備中ノ一宮吉備津大明神参詣、岡山よりにわせ江武り半、是より早しま江一り半、あまき江一り半、是よりゆが山江一り半、是より下村

江上り

正月朔日

一、夜舟 下村油屋藤右衛門殿

日々九り

此宿片旅籠三而五里、夜舟二而參、塩干故二日九ツ時丸亀江着、此所御城下也、御領主京極能登守様六万石也、是より金比羅山□□き表迄百五十丁、七ツ時参詣、

是より丸亀江帰り、風波舟不出

二日

丸亀泊り 福嶋屋 文十郎殿

三日四ツ時出船、風波故三り乗、与嶋江舟入

三日

諸国海陸

御関所御役人衆中

村町役人衆中

一、与嶋 泊り

日々三り

四日五ツ半時此所乗出し、九ツ時下村江着船、藤右衛門殿方ニ而片旅籠ニ而出立、

あまき江三り、早しま江壱り半（後略）

一、西白方より多々津へ五十丁

弥谷寺ニこうぼう大師ごまどうは八丈しきのいわやあり、其外古跡参り所多し、  
是より白方へ廻り申候、奥白方へ帰りて参り候

一、剣五山弥谷より奥白方へ五十丁

一、奥白方より西白方へ五十丁

★陸奥国白川郡宝坂村（現・福島県東白川郡矢祭町宝坂）の古市源藏（二十九歳）  
が著した道中日記。丸亀へ渡る船の料金システムや金毘羅山・善通寺など訪れた  
寺社について記している。

【3】「西国道中道法并名所泊宿附」（『矢祭町史研究（二） 源藏、郡藏日記』）

〔安永二（一七七三）年七月〕

一、高砂より四国さぬきへ海上三拾壱り、丸亀御城下迄也、十九日はん米や賀右衛  
門所三泊、此所三面舟ちん米木錢一切を仕切銀拾弐両二面、海しやう三十壱り  
乗、其外入用出し不申候

一、丸亀よりこんびらへ百五十丁

此所御城下領主京極能登守御知行六万五千石なり、此所あみや為次郎所廿日より  
廿五日まで泊り申候、皆せんとうのまかないなり

一、金毘羅大權現へ参詣

本堂奥院共ニ結構成普請也、ふもとハ能町なり、是よりせんずう寺へ参りてよし、  
こんびら別当ハそうず山金がう院寺領三百石なり

一、金毘羅山より善通寺へ百丁

善通寺ハ四國八十八所の札所也、こうぼう大師誕生所也、がらん多し、是より  
亀へ帰り泊ル

一、普通寺より丸亀へ七十丁

寺領三百石、是より丸亀あみやため次郎所に泊り申候

一、丸亀より多々津へ五十丁

一、白方より弥谷寺へ五十丁

屏風が浦海岸寺太しどう有、大しうぶたらいうぶゆいとゆてかけまつあり

一、多々すより丸亀へ五十丁

一、丸亀よりびぜんの国小嶋（後略）

★陸奥国磐城郡泉崎村（現・福島県いわき市平泉崎）の大馬金藏が同行五人で旅

に出た際の道中日記。大馬金藏がどのような人物かは分からぬ。四国の遍路道  
についての記載が認められる。

【4】大馬金藏『伊勢參宮道中記』（いわき地域学会図書15）

〔天明六（一七八六）年〕

一、松尾町ヨリ 善通寺江 壱り半

此善通寺ハ弘法大師開基也、東西南北二大門有り、五重塔建立不請始りより今  
年迄式拾三年ニ成と申事、今以出来仕廻不申候、大師御堂より御手判御影其外  
出申候、開帳仕拝見仕候、此合ニ遍ん路道ト申追分沢山御座候

一、善通寺ヨリ い屋谷江 壱里

此山者弘法大師十六歳之時御開被成候山也、上り半道ニ王門より六町間、岩ニ  
作り付諸神諸菩薩地蔵五輪环沢山御座候、次ニ奥院ハ八丈鋪之大岩谷也、是ハ  
ミロク菩薩地蔵尊其外諸菩薩多御座候、大師之御學問所護摩堂皆岩屋也、此山  
一日一夜御開被成候ト云、是より屏風ヶ浦江半道、此所浜辺ニ而式間四面堂一  
ツ有、大師産レ給ふ時産湯被成候たらい斗御座候也（後略）

★下野国都賀郡西水代村（現・栃木県下都賀郡大平町）の田村林七が著した道中

日記。栃木県立文書館所蔵。金毘羅山の賑わいを詳しく記している。

【5】「伊勢參呂井西國順礼道しるべ諸所名所付」（栃木県立文書館・田村家文書）

〔天明六（一七八六）年〕

一、高砂江 半道

此所より四国さぬき江渡ル、つりや伊七郎所より壱人前丸々ツゝ、但し船賃雜用共何日掛り候共舟頭まかない、三月朔日の晩舟二乗、翌二日雨天にて高砂舟二居申候、翌三日室津迄参り申候而、則此所ニ泊リ、翌四日七つ半時迄風ふき遅滞、夫ら乗出五日朝五つ時丸亀江付、夫らこんひらさん江町口迄五十丁道三り

一、金飛羅山江少々上り坂十四五丁、御本社左り地主觀音堂、此堂ニ色々絵馬天狗めん等并太刀等上り有、二重之塔其外拝所多シ、仁王門の入少し上り神馬有、寺茂沢山ニ相見へ申候、町も吉、坂口ニ泊りや茶屋吉、女子共茂沢山ニ相見へ申候、夫ら普通寺江半道の通ル

一、普通寺江 五十丁道堀り半

院りう丹生院、此寺者弘法大師たんしやうの所也、五重之塔只今もつそうち清也、其外諸堂多ク大師堂浦御たん生所立石有、夫ら丸亀江通ル

★出羽国秋田郡大久保村（現・秋田県淵上市昭和大久保）の肝煎役、源八（三十四歳）が著した道中日記。文人を含む近隣の四人と同行した。丸亀への船、金毘羅山から善通寺、弥谷寺、海岸寺の様子を詳細に記している。

【6】「西国道中日記」（『出羽路』一一五、秋田県文化財保護協会）

〔文政一〇（一八二七）年〕

高砂町江 壱里

石宝殿曾根見物終、宿二帰り風呂二入、夕飯給候而出船待居也、金毘羅山迄片船五匁、往来九匁也、ふとん壱ツ百文ニかし、片賄百拾文也、閏六月廿六日暮過より出船、廿七日廿八日之四ツ頃丸亀江着岸、船中賄一汁一菜也、丸亀迄三十六り也、菜ノ物才覚してよろしく候

丸亀江 船路三拾六里

閏六月廿八日四ツ頃着岸、宿二而昼食遣、暫く休ミ金毘羅山江参る

金毘羅山江百五十丁

麓町五百軒斗も有之候、町幅く茶や宿や多く大家斗也、はん昌之町也  
麓町より登十八丁之坂、坂形茶や商人も多有候、十八丁登候得ば右之方ニ大堂突当り、講堂大がらん両方石灯籠沢山也、夫より御本社江石壇ニ而四五丁登、御本社細工誠ニ結構、見晴よし、末社絵馬堂大堂有、坂の中辺ニ御本坊有、御札金次第三被下候、閏六月廿八日麓町泊、翌廿九日朝又々参詣仕候

普通寺江 一里半

此寺大師誕生之所、五重塔念佛堂其外諸堂数多し、町家茶屋有、はん昌之所也、八十八所ノ内弥谷江行ニ登十二丁之峠有、難義也、此間左ニ八十八所札所有、芋畠之古跡有、歌に

月見よといもの子とものねいりしを おこしに来たか何歟高しき

弥谷寺江 一里半

此所大師幼少之御学文之岩屋有、開帳拾貳文、此所八十八所札所なり、參所数多し、山ノ上より田畠開たる所見へる、誠ニ靈地の所、屏風浦江廿丁下り坂難義也

屏風浦江 廿丁

海岸寺といふ寺有、奥ノ院有、此所も誕生之所と申て、産井同産盥衣かけ等之古跡庵并御堂式三ヶ處有、奥ノ院より海岸寺迄之間海辺ノ松原海青嶋々見へて誠ニよき景也、弥谷よりかけ越坂難所

多度津江 廿丁

此所船着町中ニ川有、石垣夥し、大船も川より出入仕候湊也、丸亀と同様也、丸亀迄平地、此間にも八十八所札所有

丸亀江 四十丁

閏六月廿九日八ツ過ニ帰る支度して、備前下村江出船侍る、夜の五ツ過より出

船、船賃壱人二七十五文、風波悪く田ノ口ニ船着、船路七り（後略）

奉納西国三拾三ヶ所 為一世安樂 同行武人  
巳二月吉日 大ミしま明日村住人 おとた

★陸奥國閉伊郡田野畠村（現・岩手県宮古市）近辺の同行二十人が旅をした際の道中日記。作者は田野畠村七瀧の久兵衛だと思われる。金毘羅山近くの宿で、精進料理と魚付き料理の一通りの料金体系があつたことを記している点が興味深い。

【7】「伊勢參宮並諸國神社仏閣礼拝道中記」（『田老町史 資料集（近世四）』）

〔安政五（一八五八）年五月〕

九日

一、丸亀 海上卅六里

京極佐渡守様 五万五千五百石

式百廿文 万や太兵衛

金毘羅大權現 平地三里

堂々かずかず、美麗結構かぎつくしかたし

但し善通寺へハさや橋の手前より左の方へ入るなり、追分あり、私ともハ不

参、参詣相済直ニ帰り途中ニテ中飯致候、宿太兵衛方へ参候處、番所の首尾

合錢トして四拾八文づゝ壱人ニ付相出し候、尤モ右宿ニテ中飯いたし候へば、重県指定文化財。尾鷲組十四か村を束ねる大庄屋役所に伝わった古文書群で、原精進ニテは百七拾二文、魚付候てハ式百廿四文ニ相定り居候由、左候へは右ノ四拾八文ハ不出とも宜し、又室津への運賃式百五拾文ニ定、はたごハ一飯壱人分五拾文づゝニ定、十日ノ八時ニ丸亀を出帆仕り十一日ノ八ツ時に室津へ着仕候む。

★【8】～【10】は、熊野街道沿いに位置する熊野市大泊町の若山正亘氏所蔵史料。若山家は江戸時代後期から明治前期に掛けて、善根宿を営んだ。これを利用した巡礼たちが御札に渡した納札を、若山家では災難除けとして保管してきた。

【8】「若山家善根宿納札23—73」

天明四年 伊予松山領越知郡

奉納西国三拾三ヶ所 為一世安樂 同行武人  
巳二月吉日 大ミしま明日村住人 おとた

【9】「若山家善根宿納札72—5」

嘉永七年九州豊後国海部郡

奉納 四国西国秩父板東百八十八ヶ所順拝

寅二月吉日 佐伯領分蒲江村鉄藏

きく

【10】「若山家善根宿納札41—51」

天下太平国土安穩 越中国新川郡

（梵字）奉順礼西国三十三所 南無大慈觀世音菩薩二世安樂

風雨順時 五穀成就 釈迦堂村源右衛門

★【11】～【21】は、尾鷲市中央公民館郷土室が所蔵する尾鷲組大庄屋文書。三合錢トして四拾八文づゝ壱人ニ付相出し候、尤モ右宿ニテ中飯いたし候へば、重県指定文化財。尾鷲組十四か村を束ねる大庄屋役所に伝わった古文書群で、原状で冊子約一万冊、一紙文書は一万三千点を超える。そのなかには尾鷲で客死した巡礼の往来手形や、尾鷲から旅立つた者の記録も残される。【14】～【21】で採録した「組割帳」は尾鷲組の算用記録で、十八世紀半ばから幕末までの七十五年分約二百冊が残る。熊野街道を辿る貧しい旅人たちへの救済記事を七千件近く含む。

【11】「尾鷲組大庄屋文書」〔文化一〇（一八一三）年〕

往来証文之事

□（拙カ）寺末庵妙栄尼、此度上方罷登、靈地□（仏カ）閣參詣仕度奉存候間、依之御闕所御通し被下度奉願候、若於途中変等も御座候ハ、其御國御作法之

通り御取扱被下置度、為後日寺請狀如件

奥州津軽青森淨土宗 正覺寺（印）

諸國御闕所御役人衆中

辰八月  
(中略)

指出申一札之事

私姪さん並さん母、さん娘きく三人、連ニ而當正月十八日西國順礼心懸ケ国元罷出候處、当八月十八日當御村方罷通り候處、さん母數日之雨湿三疲候故歟同立候付、盲人之義老人ニ而ハ歎ケ敷、私共も跡より追かけ、親子三人ニ罷成諸國拝礼仕修行候所、去冬より娘共兩人とも風邪ニ而尔々無御座、御当所江罷越候て逗留養生仕、御藥も申受御厄介相成養生候、妙栄尼儀極大病ニ相成終病死仕候、御村方御苦勞ニ罷成御取置被為下、難有仕合ニ奉存候、私義看病仕二付、聊申分無御座候、依而口書御礼申上候、以上

天保三年辰正月十七日 妙栄母西方尊（爪印）

妙栄妹さやう（爪印）

尾鷲宿権六（印）

明和九壬辰年十一月四日 紀州牟婁郡おあせ寺町さん叔父義兵衛印

右同所村役人

年寄 八左衛門印

阿部豊後守様御領分武州足立郡吹上村名主組頭衆中（中略）

【13】「尾鷲組大庄屋文書」〔明和九（一七七二）年〕  
(前略)

当月十八日昼時、豊後守領分武州足立郡吹上村往還端ニ順礼躰之女行倒相果同道之女并小兒罷在候段、所之者見付訴出候三付、相糾候處、紀伊國おあせ寺町之者ニ而親金助夫左衛門致病死候付、当正月十八日、母并小兒ヲ連国元出立順礼ニ出候處、途中ニ而母病氣ニ付吹上村往還端ニ為休候處、暮時分相果候由、同道之女さん申之、相果候女者六拾壹歳、さんハ式拾歳、小兒ハさくと申三歳ニ成候由ニ付、親類等之義相糾候處、おあせ寺町ニ伯父儀兵衛罷在候段申候ニ付、所之寺院江坂埋ニ致し、さん并小兒ハ其所ニ留置申候間、死骸ハ其俟葬候哉、儀兵衛并其所之役人江御尋、さん并小兒ハ可引取旨御申渡、否被仰聞候様仕度候、以上

銀拾五匁八分五厘遣し申候  
一、ゆき死骸葬り候寺ハ淨土宗吹上山勝龍寺と申候、右寺へ布施并廻向料として

私姪さん並さん母、さん娘きく三人、連ニ而當正月十八日西國順礼心懸ケ国元罷出候處、当八月十八日當御村方罷通り候處、さん母數日之雨湿三疲候故歟同立候付、盲人之義老人ニ而ハ歎ケ敷、私共も跡より追かけ、親子三人ニ罷成諸國拝礼仕修行候所、去冬より娘共兩人とも風邪ニ而尔々無御座、御当所江罷越候て逗留養生仕、御藥も申受御厄介相成養生候、妙栄尼儀極大病ニ相成終病死仕候、御村方御苦勞ニ罷成御取置被為下、難有仕合ニ奉存候、私義看病仕二付、聊申分無御座候、依而口書御礼申上候、以上

八日夜中少々之内相煩往還端ニ而病死仕候由、早速御村方御役人中御立合之上忍御役所様へ御訴被成、御役人様方御見聞之上、さん方よりハ口書等御取被遊、母死骸ハ御村方勝龍寺へ仮埋被仰付、さん并母子儀ハ御村方江御預置被遊、其段江戸御屋敷様より紀州御屋鋪迄御問合被遊候由ニ而、私共江細々被申付、早々当御村方江罷越候様被申付候ニ付罷越候處、早速右兩人之者御引渡被下、忝慥ニ受取申候、長々厚御世話ニ罷成、殊ニさん儀夏中着用之便ニ付衣類所持不仕候付、木綿綿入壹、帶壹筋被下候段恭仕合ニ奉存候（中略）

一、右組頭金左衛門内々ニ而申候ハ、右さん義当村江差置候義相成申間敷哉、若

シ御指置被成遣候義ニ候ハ、勘弁之上取斗も致度旨申候ニ付、私共返事ニ右ハ

我々一存之取斗ニ難相成段申聞候

一、十一月五日さん并女子とも召連私共吹上村出立、同六日江戸着仕、翌七日御

中屋敷御会所江罷出、右兩人之女召連帰候段并吹上村ニ而差出し候書付写シ村

役人名前世話仕候者名前謝礼金勝龍寺ヘ布施等之義、夫々書付指上申候、其節

さん願申ニハ、母墓所茂有之義ニ御座候間、何卒吹上村ニ御差置被下候様叔父

儀兵衛とも相頼、吹上村ニおゐても世話仕候權助夫婦共右之品儀兵衛ヘ申候由、

彼是無拠義一通り御会所江御窺申上候處、相調ヘ可申間旅宿へ罷帰り差控候様

被仰付候（中略）

一筆申入候、然ハ先達而申越候阿部豊後守殿領分武州足立郡吹上村領二行倒相果

有之候女并同所ニ残居候女共之儀御吟味有之候處、右相果有之候女ハ奥熊野尾鷲

組南浦儀兵衛与申者之姪ゆきと申者ニ而、残居候女共ハ右ゆき娘并孫娘之由、右

三人之者共同道いたし当春山中筋ヘ茶摘働ニ參候由申居村を出候處、右之稼も無

之ゆヘ報謝いたし西国順礼ニ相廻り候義と存候由右儀兵衛申出、（中略）然ル所右

女吹上村ニ罷有候内野辺江罷出作方手伝等いたし殊之外能相勵候由ニ而、宿之者

ハ不及申所之者共迄宜者之由申之右女ヲ何卒吹上村江御差置被下候様村役人迄も

一等ニ相望、尤右女罷有候宿權介と申者ハ村方之小遣ニ而暮方も相応ニハ宜敷い

たし罷在候処、夫婦とも別而養子ニ貰申度由望申に付儀兵衛義茂差遣し申度、勿

論右女同所ニ罷在度旨相願候間何とぞ右願之通御聞届被下候様村役人代八左衛門

内々願出候旨役所より相達候付（中略）

十一月廿九日

齋藤勘左衛門印

夏目次郎兵衛殿

〔14〕「尾鷲組大庄屋文書・組割帳」〔享和一（一八〇一）年四月一八日〕

一、老匂八分三り 北浦弥助

此錢貳百文

是ハ予州松山水口町覚次并三恆留三郎兩人四月十八日及暮入込、難渋ニ付一宿

願出、無拠趣ニ相聞、一宿賄遣候

一、八分六厘 南取かヘ 此錢貳百文

〔15〕「尾鷲組大庄屋文書・組割帳」〔文政七（一八二四）年閏八月三日〕

是ハ閏八月三日親子六人連ニ而前浜ニ野宿いたし候体見請候ニ付相糾候處、遠州之者右六人連ニ而西国順礼ニ罷出候處、道中ニ而病氣相煩少々之貯路用も遣切大勢之儀乞食いたし参候由、折節其夜ハ雨模様ニ相見ヘ甚歎敷、無拠木賃合

力いたし遣ス

〔16〕「尾鷲組大庄屋文書・組割帳」〔文政一三（一八三〇）年五月一〇日〕

一、五拾老匂老厘 同取かヘ 此錢五貫七百卅七文

内

六拾四文 喜十郎親子三人

是ハ一宿料遣ス

壹貫貳百文 惣廻り次助

是ハ右之もの親子三人次助方ニ而病氣ニ相成、同人三人一宿貳百文ツク

宿賃取計遣ス、尤五月十日迄十五日迄六泊

五拾文 なわ老匂

貳百四十八文 たわら四十枚

三匁六分 元一六本代

九分

杉皮半束

百五拾文 人足賃壹工

是ハ右之もの病氣ニ付養生木屋ひつらい木屋かけ入用

五百文

川島玄好

是ハ薬十四ふく薬礼二遣ス

武匁

百文

竹丸太  
板壠間

百五十四文

むしろ代  
釘三匁代

百十八文

是ハ右もの村継送出し駕こしらい入用

壱貫七百六十四文

是ハ右ものへ病中飯米惣廻り次助へ遣ス、尤一日米武升ツゝ五月十六日

より同廿八日迄十三泊リ

是ハ京都新間町いせ屋十郎親子三人つれニ而諸國順礼ニ罷出、当所ニ而病気付、国元へ送帰シ諸入用高如此

【17】「尾鷲組大庄屋文書・組割帳」〔安永八（一七七九）年一二月一三日〕

一、拾壹匁八分武厘 同所取かへ

内

六匁三分八厘 米壹斗五升代

五匁四分四厘 錢五百五十三文

是ハ信州伊奈郡波合村平吉同人女房男子親子三人連にて西国順礼ニ参候処、右

平吉病氣にて北浦はな方にて養生いたし候処、養生相叶不申病死いたし、亥極月十三日より同廿三日迄養生之内飯米代、廿三日病死之節金剛寺へふせ料諸入用とも相談之上払遣ス、尤右五百五拾三文入用左之通

百五拾文 酒樽壹つ代

百武拾文 酒壺升代

百文 金剛寺へ布施

五拾文 酒五合代

是ハ平吉病中之内肝煎弁之右衛門立合之節、病人へ遣ス

百武拾六文 是ハ平吉ヲ葬候節何角買入、残錢ハ同人女房へ遣ス  
ペ銭五百五十三文

百武拾六文 是ハ平吉ヲ葬候節何角買入、残錢ハ同人女房へ遣ス  
ペ銭五百五十三文

【18】「尾鷲組大庄屋文書・組割帳」〔天保一四（一八四三）年一二月一九日〕

一、五匁三分八厘 林浦取替 此せん六百文

是者十二月廿九日他国者坂場道三行たをれ死失有之、惣廻り共取扱死人相調候得共往来手形無之何国之者共相分不申、無宿者取調取置致遣諸方之通取置惣廻り共へ遣ス

【19】「尾鷲組大庄屋文書・組割帳」〔文政一三（一八三〇）年七月一四日〕

一、壹匁三分三厘 野地取替 此銭百四拾八文

是ハ予州無高郡西嶋村せき年廿四才、右之女西国ニ罷出難渋付壹宿願出候付、取計ニおよび候処、其夜安産致シ候付、右者余内宿賃共惣廻り次助願出候付、取計遣ス

一、四匁六分七厘 同所取替 此銭五百武拾四文

是ハ右之女安産いたし候処、尔々無御座相煩、十四日迄廿日迄七日分宿賃惣廻り次助願出候付、取計遣ス

【20】「尾鷲組大庄屋文書・組割帳」〔文政五（一八二二）年四月〕

一、壹匁壹分武厘 同所取かへ 此銭百武拾四文

是ハ四月廿八日夕、越後蒲原郡之女五人西国順礼罷出候処、壹人道中ニ而相煩、何れも路用も元も乏者共之儀、及暮難渋之旨一宿願出候ニ付、大勢之儀容易難及取斗相糾候処、米ハ少々所持いたし有之候旨申ニ付、本行之通木賃として遣

ス

【21】「尾鷲組大庄屋文書・組割帳」〔文政六（一八二三）年二月〕

一、壹匁七厘 同所取かへ 此せん百廿四文

是ハ二月廿二日越後国蒲原郡の女五人西国巡礼二出候処、壱人相煩難済願出、  
壱宿取斗遣ス

## 二 北陸からの四国遍路と西国巡礼

(近藤)

「道中小遺留帳」(史料番号三、浮田家(二)日記)は、富山市郷土博物館所蔵の「浮田家文書」に含まれる道中日記で、一七・七×一二・五センチの横半帳、全八〇丁となっている。浮田家隠居が天保一四年(一八四三)に西国巡礼・四国遍路をした際の記録であり、出立日の二月二九日から帰着日前夜と見られる八月二八日の宿泊先までが記されている。

浮田家は、加賀藩領の越中国新川郡太田本郷村に住居した十村分役である奥山廻り役を代々務めた豪農であり、収納代官職も兼帶して三〇〇〇石の格式となつた。また、宗旨は真言宗、文政一一年(一八二八)に建てられた住宅は、昭和五四年、国指定重要文化財に指定されている。十村とは、郡奉行や改作奉行に属し、年貢収納や農事等について数十ヶ村、多ければ百ヶ村以上からなる組下村々を支配した百姓身分としては最高の地位と権力を有した役職だつた。他藩のいわゆる大庄屋に相当する。浮田家が務めた奥山廻り役は奥黒部の国境警備や加賀藩が指定した七木の管理を担い、新田才許役等とともに十村身分並に扱われたことから十村分役と呼ばれた。

さて、この記録を残した「浮田家隠居」は、この「道中小遺留帳」に旅をした理由等を一切記していないものの、記載を読み解く中で妻が同行していたことは判明する。ただ、この隠居自身が浮田家の誰なのか、『浮田家文書目録』(富山市郷土博物館『富山市郷土博物館史資料集二三 浮田家文書目録』富山市教育委員会、二〇〇一)から年代・史料の発給先等を突き合わせると、一〇代目当主・善左衛門が候補として考えられるが、あくまでも可能性の一つであり確定には至っていない。記載内容は一般的な道中日記とはやや性格を異にし、道中での感想

といった類の記述は非常に少なく、まさに表題通り日々の支出状況を淡々と書き記したものである。

それではこの旅の概要を紹介しておこう。加賀藩支藩である富山藩城下から南東一里強に位置する太田本郷村を出発し、北陸街道に入る。途中、加賀の金沢や中山湯で二泊ずつしているが、その後は旅を進めていき、近江に入ると竹生島へ渡つた。明記されていないが、西国三〇番宝厳寺を訪れたものと見られ、ここから西国巡礼が始まったのだろう。次に美濃の三三番華厳寺、再度近江に戻つて札所を巡りながら京都へ向かい、京都東部方面の札所を参拝し終えると伊勢へ歩みを進めた。しかし、伊勢到着の直前に同行する妻が足を痛めたため、櫛田宿で八泊の逗留を余儀なくされる。妻の回復後は無事に伊勢参詣を果たし、その後は熊野街道を経由して一番青岸渡寺、田辺へ抜けて紀伊・和泉・河内・大和の札所に

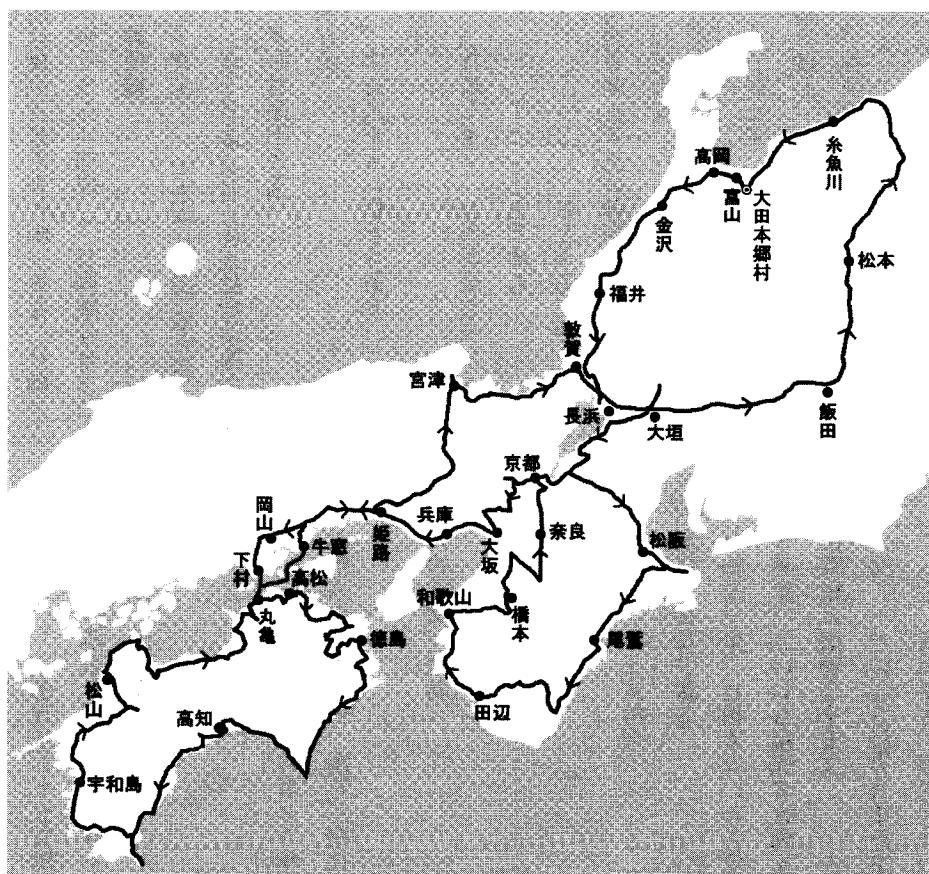
加え、高野山も巡つて京都へ戻つた。そして山城の残りと摂津の札所を巡拝して大坂で二泊した後、山陽道を西進していく。ここまでで西国一・二・三・四・三番札所を巡つたことになる。五月一八日に備前の下村から丸亀へ渡り、ここから二ヶ月にわたる四国遍路が始まつた。四国遍路の状況については、本誌掲載の拙稿を参照していただきたい。七八番郷照寺を打ち始めとして七七番道隆寺で打ち納め、七月一九日に丸亀を出立して備前の牛窓に到着、ここから山陽道を経由して残つていた播磨・丹後の西国二五・二九番札所の参詣を済ますと、敦賀を経て中山道に向かい、善光寺へと歩みを進める。そして、善光寺参詣を終えたことで目的はすべて果たせたようで、あとはどこへも立ち寄ることなく直江津方面へ抜けて越中に入り、太田本郷村へ帰着となつた。これが旅の全行程である。

「道中小遺留帳」には、日々における費目ごとの支出金額を書き連ねており、先述したように感想が皆無とまでは言わないが非常に少ない。旅の当初は天候や道程が書かれることもあったが、すぐに見えなくなる。表紙裏・最終の一丁・裏表紙裏といつた余白部分が、道順や船の乗り口といった情報の記載に充てられている程度である。推測にすぎないが、もしかすると「道中小遺留帳」とは別に本来の道中日記として書き記した帳面があつたのかもしれない。

また、「道中小遣留帳」は後日に淨書したものではないと見られる。地名等の固有名詞を中心に、当て字というか音を聞いて書いた口述筆記のような表記が看取され、この点からも道中の臨場感が感じられる。幾つか例を挙げると、「半野うら」（飯浦）、「すい上」（春照）、「まみさけ」（豆崎）、「なり」（奈半利）、「とうなへ」（床鍋）、「ほしか」（拳川）、「上るうり寺」（淨瑠璃寺）、「堀り山」（祝山）、といった具合であり、道中記といった旅行案内書の情報に頼ることなく記された“生”の記録といった様相を呈している。

このようにいわゆる道中日記とは性格がやや異なるが、何より大きな特徴は日々の支出を事細かに記している点にある。書き洩れもまま見られるが、諸経費を克明に記録していることは注目に値しよう。宿泊代、納経帳の朱印代、米代、副食や茶菓子代、酒代、草鞋代、船賃、髪結い賃、諸雜費といった多種多様な日々の支出、他にも必要不可欠な路銀の用立て（二朱金と錢の両替）や接待についての記載も書き留められている。

東国人による四国遍路の道中日記自体がまだあまり多く見つかっていない中、西国巡礼の様相も併せて伝える「道中小遣留帳」が、今後の四国遍路・西国巡礼研究に活かされることを期待したい。



【図】浮田家隠居の旅の経路

(表紙)

メ二百三十六文

きうし僧え包代九十六文

入三月朔日ノメニ而引事

「天保十四歳

道中小遣留帳

高岡出立

一、三文 あら又ノ茶やニ而払

一、百銅 きうし僧え包代九十六文  
二日

五日も天氣ニ相成申候

千石村平治郎ち受取

卯二月廿九日浮田隱居持

一、拾文

干たら昼飯さい

朔日夜申ちあめふり候、夫ち一日朝ちう  
き西そうちニ相成、三日同断ゆきまじり

六日昼夜たひる泊り武ツ夜具代四十六文  
又十八文泊り代式文湯ちん

(表紙裏)

「金沢天徳院様ニ而光善様ト相尋申事利

一、五文

茶代

二御座候

老升代六十三文買申候

田ノほうす子成

一、拾五文

くりから茶屋ニ而餅代払  
同はんニ而

一、廿文 大上寺ニ而御僧え包

一、山中湯え罷越候、泊り

大坂ちあまさき西宮びをこう

一、甘文

大ひノはなニ而

一、六十三文 酒四合代着等布市茶やニ而

一、百銅當る 天徳院ニ而深光様包

赤しやうたかさこう

一、百七拾四文 竹橋ニ而宿料

内壱升白米 米代

一、武百六十壱文  
代五十四文 メ武百六十壱文

一、武百八十文 松とう泊り

四国渡り口覚

一、三拾五文 今町ニ而たんす代等

三月朔日 同日

一、武百七十文 金沢ニ而こづり一ツ

一、八拾六文 同断

舟ちん七十五文

一、武拾三文 昼飯たへる、酒代

松とうふじや もとめる

一、武百七十文 金沢ニ而こづり一ツ

一、武拾八文 さい代

方はこう八拾文

一、廿三文 同所ニ而するあめ壱合酒

同四日朝ち天氣ニ御座候

一、武百七十文 金沢ニ而こづり一ツ

一、武拾八文 さい代

而まち合候、願海寺ノ茶屋休モ茶代三文

一、拾文 同所ニ而津田之茶ノ分払

一、三拾文 麦川舟ちん

一、武拾八文 あほう町ニ而昼飯たへる

一、武拾八文 あほう町ニ而津田之茶ノ分払

払、三文小杉東ノはなミ上せんやニ而か

一、拾三文 金沢卯辰觀音様ニ而

一、武拾八文 あほう町ニ而昼飯たへる

一、武拾八文 あほう町ニ而津田之茶ノ分払

一、二月廿九日朝六ツ時ニ出立、追分ニ

一、廿三文 同所ニ而するあめ壱合酒

同四日朝ち天氣ニ御座候

一、武拾八文 あほう町ニ而津田之茶ノ分払

而まち合候、願海寺ノ茶屋休モ茶代三文

一、拾文 同所ニ而津田之茶ノ分払

一、三拾文 麦川舟ちん

一、武拾八文 あほう町ニ而津田之茶ノ分払

払、三文小杉東ノはなミ上せんやニ而か

一、拾三文 金沢卯辰觀音様ニ而

一、武拾八文 あほう町ニ而津田之茶ノ分払

一、武拾八文 あほう町ニ而津田之茶ノ分払

一、武拾五文 昼飯さい御時代茶代とも

一、四文 大門はし代払候

同廿九日ばん高岡ニ而

一、武拾五文 昼飯さい御時代茶代とも

一、四文 当る

代三百八十四文

一、武拾四文 小松ニ而泊り宿料

一、武拾四文 といわら村ち八丁計下り候

メ四百八拾八文

野田屋喜右衛門方ニ

一、武拾四文 而酒屋有、酒壠合計のみ候

又 拾六文 白米三合代、夕飯代

同二日

一、武拾六文 かみゆいちん

同七日はん

晦日朝ち

一、三十六文 朝飯昼飯代、五合代

代百九十式文

一、百四十文 丸岡ニ而泊り

一、六拾四文	白米八合代	一、八文	そうこし代	十一日はん	一、拾八文	すい上二而もち代等	同
一、十武文	わらし壱束代	同	一、八文	酒代さはなみ三而	一、百廿八文	半野うら泊り	同
ペ武百拾六文払		同	一、拾九文	酒壱合代等	一、七十武文	白米九合代	同
八日	一、五拾五文 ふくい二而手はん代払	同	一、三十武文 酒式合代	一、七十九文	酒式合代	一、百廿八文	半野うら泊り
八日	一、三十武文 同所三而昼飯たへる	同	一、三十四文 いましよとう下三而	一、三十四文	いましよとう下三而	一、拾四文	ふし川二而昼飯たへる
さい代等		同	一、三十四文 餅代	一、三十四文	いましよとう下三而	十四日ばん	とうふ代
八日	一、四拾武文 あそうつ茶や二而	同	一、武拾八文 いその村二而ちり紙等	一、武拾八文	いその村二而ちり紙等	一、百拾文	赤さか宿泊り
	武合酒にしめ等	同	一、武拾八文 増田村二而酒代	一、武拾八文	増田村二而酒代	一、七十武文	米九合代
布市所代、文珠寺所代、大岩所代	一、百三十文 二ツ屋宿泊り	同	一、三十文 たにくみ村茶や昼飯たへる	一、三十文	たにくみ村茶や昼飯たへる	一、甘五文	道ノ茶や二而
ペ三人右茶や三而御見ニ懸り内方え、大	拾五文 わらし壱束	同	一、百拾文 早崎村二而泊り	一、百拾文	早崎村二而泊り	ペ武百三十七文	
暑ニ而参り候様御申続可被下候	七十武文 白米九合代	同	一、八十文 米一升代	一、八十文	米一升代	一、百文	新田村二而泊り
八日はん	十八文 酒壱合代等かしまかり村ニ而	同	一、三十六文 杉野村二而酒代等	一、三十六文	杉野村二而酒代等	一、甘五文	道ノ茶や二而
一、百三拾文 水をち二而泊り宿ちん	武拾五文 山ノ下ニ而	同	一、百文 新田村二而泊り	一、百文	新田村二而泊り	十四日ばん	とうふ代
ペ武百五十九文	しやうちやう五勺代	同	一、甘三文 たにくみ村茶や昼飯たへる	一、甘三文	たにくみ村茶や昼飯たへる	一、拾四文	ふし川二而昼飯たへる
十日はん	ペ三百六十一文	同	一、百廿八文 ちくふし嶋渡ス舟ちん	一、百廿八文	ちくふし嶋渡斯舟ちん	一、百廿八文	半野うら泊り
		同	一、百廿八文 みやかし	一、百廿八文	みやかし	一、拾四文	すい上二而もち代等
二ト付、手ばん代	一、三十文計 みやかし	同	一、七十武文 米九合代	一、七十武文	米九合代	一、百廿八文	赤坂宿ニ而かみゆちん
同九日	一、百武拾文 しきた宿ニ而泊り候	同	一、武百六十三文 代八百十六文	一、武百六十三文	代八百十六文	一、六文	そうこし
一、十六文 わらし壱束代	一、五十文 白米九合代	同	金武朱うり	金武朱うり			
同	一、十文 わらし一束代	同	ペ三百四十毫文	ペ三百四十毫文			
一、拾文 鮫代	ペ百八十文	同	一、六拾三文 米七合代	一、六拾三文	米七合代	一、廿三文	長はまニ而泊り賃
同	四ツ屋ニ而昼飯たへる、しきた古塩津迄	同	一、廿廿文 赤坂宿ニ而かみゆちん	一、廿廿文	赤坂宿ニ而かみゆちん	一、廿三文	長はまニ而わらし式束代
六里り半、塩つよりじごくさか越半ぬう	同十四日	同	一、廿文 赤坂宿ニ而かみゆちん	一、廿文	赤坂宿ニ而かみゆちん	一、六文	そうこし
ら迄壱里、はま廻りればしやうば廻りと							
一、六文 くしかき等							

同	一、八文	わらし	十七日はん	一、八拾文 石寺村ニ泊り候	同	一、十六文 昼飯たへる	同	一、武百文計 明し小遣へ	
同	一、廿九文	野かりの村、わらしニ束代	十八日はん	一、八十一文 米九合代	同	一、廿二文 酒代等	同	六角二 <small>(マコ)</small> 篠しろト明光寺、をくろ 新四国、北ノ天神迄廻り	
同	一、拾文	くわし代	十九日はん	一、十五文 武百八十式文	同	一、廿文 石山寺明し	廿一日はん	一、三百文 北野天神泊り	
同	一、廿九文	せきヶはらニ而昼飯たへる	二十日	一、十五文 ふきかへニ付指上候	同	一、十三文 わらし武束せたいニむらう	廿二日はん	五百文	
同	一、百廿八文	かし原泊り	二十一日	一、四文 むにをうこし中ほうとニやくし堂有ニ而	同	一、三百四十文 せゝノ宿ニ而泊り	廿三日	五百七十五文	
同	一、三十式文	しゃうちやう代	二十二日	一、百十六文 長命寺様え舟ニのり候	同	一、三百四十八文 武朱売申候、代八百十式文受取	廿三日	五百七十五文	
同	一、八十壹文	米九合代	二十三日	一、百七十八文 昼飯たへる	同	一、百廿八文 京西六条通	廿三日	五百七十五文	
十七日はん	一、廿五文	高宮ニ而昼飯たへる	二十四日	一、三十文 長命寺様ニ而明し	同	一、百廿八文 大野や喜助	廿三日	五百七十五文	
同	一、廿文	わらしニ束代	二十五日	一、十四文 八万村ニ而茶屋ニ而	同	一、百廿八文 にほうニ而泊り	廿三日	五百七十五文	
同	一、三十文	酒壺合代、とりもとニ而	二十六日	一、三百廿文 にほうニ而泊り	同	一、百廿八文 同所泊り	廿三日	五百七十五文	
一、廿四文	万上三ツ代、あい宿ニ而	二十七日	一、四百九十九文	同	一、百文 小遣え候	同	一、百文 昼飯たへる小遣へとも	廿三日	五百七十五文
一、廿式文	酒壺合代等	十九日	一、六十四文 同所舟ちん	同	一、百文	同	一、百五十文計 昼飯たへる小遣とも	廿三日	五百七十五文
はんば宿すりはりとうけニ	一、百文	やすい川舟ちん	廿一日	一、百九十文 米式升代	同	一、百文 石部ニ而泊り	廿五日	五百七十五文	
而、四人ミるいニ出合申候	廿一日	廿一日三算用仕候	廿一日	一、百文	同	一、百文	廿一日	五百七十五文	

廿五日はん	一、百文	くし田ニ泊り	一、廿一文	壹合五勺酒肴代	一、百文	くし田松田屋忠吉方ニ	
一、七十三文	七八かへ米代	同	一、百文	白米壹升代払	一、六文	くわし代	
廿六日朝飯占	一、八百拾貳文	武朱壳候	同	一、廿四文	妻こうやく代払	一、廿三文	八丁計南安らく寺村天神様ニ
廿六日	一、百文	昼飯たへる小遣とも	同	一、八百廿四文	武朱代壳申候	同	妻足をいためくわんを懸ケ候
内はし錢六文	一、百文	昼飯たへる小遣とも	同	一、八百七十二文	くし田とうりやう	同	とうりやう仕候宿料
廿六日はん	一、百文	野崎村三而くも田宿ニ泊り	同	一、六文	九ツ過頃ニ泊り	同	同日
七十四文	米代払	廿九日	一、六文	す半合	一、百文泊りくし田ニ泊りとうりやう仕候	同	同日
ペ三百八十文	百文	廿九日	一、六文	す半合	一、八拾文	米八合代払	同
廿七日はん	一、百文	くも出宿ニ泊り	廿九日	一、六拾六文	安間ちん代	一、武文	御寺え明し
同	ペ百七拾文	廿九日ばん	一、五文	塩入紙代	三口ペ三百文	宿料代、三はん代	同
一、七拾文	米代払八合	廿九日ばん	一、百文	くし田ニ泊りとうりやう致ス	三日米代	米貳升六合	同
廿八日	同	廿九日	一、百文	くし田ニ泊りとうりやう致ス	三日米代	米貳升六合	同
一、廿六文	はし代払	廿九日	一、五文	塩入紙代	三日米代	米貳升六合	同
廿八日はん	同	廿九日	一、六拾六文	安間ちん代	三日米代	米貳升六合	同
廿八日	同	廿九日	一、拾六文	安間ちん	三日米代	米貳升六合	同
一、八百廿四文	武朱代壳候	廿九日	一、八拾文	御くすり武ふく代払	三日米代	米貳升六合	同
廿八日	同	廿九日	一、八拾文	御くすり武ふく代払	三日米代	米貳升六合	同
一、廿六文	はし代払	廿九日	一、八拾文	御くすり武ふく代払	三日米代	米貳升六合	同
廿八日はん	同	廿九日	一、八拾文	御くすり武ふく代払	三日米代	米貳升六合	同
廿八日	同	廿九日	一、八拾文	御くすり武ふく代払	三日米代	米貳升六合	同
一、廿六文	はし代払	廿九日	一、八拾文	御くすり武ふく代払	三日米代	米貳升六合	同
廿八日	同	廿九日	一、八拾文	御くすり武ふく代払	三日米代	米貳升六合	同
一、廿六文	昼飯たへる	廿九日	一、拾文	す代	二日分	ペ二百五十七文	同
廿八日	同	廿九日	一、拾文	す代	二日分	ペ二百五十七文	同
一、廿六文	はし代払	廿九日	一、十六文	しゃうちやう五勺代	二日分	ペ二百五十八文	同
廿八日	同	廿九日	一、十六文	しゃうちやう五勺代	二日分	ペ二百五十八文	同
一、廿六文	昼飯たへる	廿九日	一、十六文	しゃうちやう五勺代	二日分	ペ二百五十八文	同
廿八日	同	廿九日	一、拾文	赤紙壹枚代	三日	一、三文	三日
廿八日はん	同	廿九日	一、拾文	赤紙壹枚代	三日	一、三文	三日
廿八日	同	廿九日	一、四十文	酒代等、五勺しやうちやう	三日	一、拾文	安らく寺村天神様明し
廿八日はん	同	廿九日	一、四十文	酒代等、五勺しやうちやう	三日	一、拾文	安らく寺村天神様明し
廿八日	同	廿九日	一、四十文	酒代等、五勺しやうちやう	三日	一、武拾貳文	酒壹合五勺代

三日はん	一、百文	宿料	同	一、九文	わかれ茶や <small>タニ</small> 廿二丁下り	一、拾五文	見せ村ニ而酒壺合代
四日	一、八拾文	米八合代	六日	一、八十文	米八合代	一、百八十文	同
四日	ペ三百七十七文		四月七日	一、五百拾文	あま山一夕見ケふらニ而	一、拾武文	見せ舟ちん
四日	一、拾武文	半にやいん、みくし料	六日	一、五拾文	昼飯たへる	一、拾六文	かしわの村ニ而
四日	一、拾五文		同七日ばん	一、三拾文	外宮大神宮様へ明し	一、拾六文	式東わらし代
四日	一、百文	妻小遣 <small>ハシナカシ</small>	同七日	一、三百文	伊勢山田ニ而宿料	ペ二百六十九文	さき村ニ而泊り候
四日	一、百文	木わた代粉	同七日	一、四文	伊勢二而塙壺合代	一、四拾文	なかノま村舟ちん
四日	一、八拾文	宿料	同七日	一、四文		一、五百拾三文	三うら村酒壺合代
四日	一、三文	す代	同七日	一、拾壺文	くゝり式尺代	一、三拾八文	三うら村酒壺合代
四日	一、三文	す代	同七日	一、拾七文	香物つき壺本代	一、武拾文	三うら村酒壺合代
五日	ペ二百五十九文	酒三合代	同七日	一、九文	御はらい様代	一、九拾文	三うら村酒壺合代
五日	一、老貫四百四十式文		同七日	一、九文	とちはら村ニ而泊り候	一、甘武文	同所ニ而昼飯たへる
五日はん	くし田ニ而あわせ壺枚	とうふく壺枚代売申候	同七日	一、三拾文計	内宮様明し、あさ間山	一、拾七文	三うら村酒壺合代
同七日	一、三拾式文	あさ間山ニ而うどん代	九日	一、百文	米壺升代	一、百文	まぜ村ニ而泊り
同七日	二タ見うらい行わかれ茶屋		九日	ペ三百四十一文		一、八拾文	まぜ村ニ而泊り
同七日	一、十五文	あを鬼 <small>タマ</small> 村ニ而もち代	十日	一、百文	米壺升代	ペ二百二十七文	
同七日	一、武拾四文	同所めし代	九日	一、武拾壺文	同所わらし式束代	一、武拾壺文	同所わらし式束代
同七日	一、百文	宿料	九日	一、八百廿四文	まぜ村ニ而式朱壺候		

十一日	一、拾九文	このもとニ而酒壺合代	同	一、六文計	明し
十一日	一、九文	上り口ノ茶屋ニ而餅代	一、百文	にぎしま宿泊り	一、武拾壺文 小もとりむねノ
十一日	一、拾三文	わらじ壺束代	一、百文	米壺代	茶やニ而餅、酒代
十一日	一、五拾九文	をわしニ而昼飯たへる	一、八百廿四文	武朱壳申候	十四日ばん
十一日ばん	一、八拾文	をわし宿ニ泊り	一、四十八文	しゃうちう壺合代	同
十一日	一、百文	米壺升代	一、百文	米壺升代	一、百文
十一日	一、廿四文	かみゆちん 看代	一、十六文	わらじ壺束代	五百廿六文
十一日	一、四拾五文	かみゆちん	一、百文	なちさん山せん等申聞候	十五日
十二日	一、四拾五文	看代	一、百文	二付はらう	一、九拾文
十二日	一、拾五文	をわし宿ニ而	一、四十文	納京代	米九合代
十二日	一、拾五文	みき二而にしめ代	一、拾五文	明し等	一百四十九文
十二日	一、七拾文	みき宿ら舟ニちんそね迄	一、三十文	酒壺合半代	十五日
十二日	一、七拾文	わらじ壺束代	一、六拾文	をくもとり下り茶屋もち代	十六日
一、拾文	召仕太郎召仕しろとうけ	一、七拾文	一、百廿文	こくち村ニ而泊り	十六日ばん
一、拾文	二而くもし代	一、七拾文	米壺升代	一、九拾文	一、八百廿文 武朱壳候
一、拾文	召仕太郎召仕しろとうけ	一、七拾文	一、百廿文	同所とうりやう仕泊り	一百四十九文
一、三拾文	同所宮ノふた請取代	一、三十六文	米壺升代	一、八百廿文 武朱壳候	同
一、三拾文	二而くもし代	一、三十六文	一、百廿文	ゆせん代、壺人ニ付六文ツヽ	四月十五日
一、三拾文	召仕太郎召仕しろとうけ	一、三十六文	米壺升代	一、八百廿文 武朱壳候	十八日
一、三拾文	二而くもし代	一、三十六文	一、百廿文	わらじ武東代	十四日
一、三拾文	召仕太郎召仕しろとうけ	一、三十六文	米壺升代	一、七拾文 下り口ノ茶やニ而餅代	十四日
一、三拾文	二而くもし代	一、三十六文	一、百廿文	わらじ武東代	十八日
一、三拾文	召仕太郎召仕しろとうけ	一、三十六文	米壺升代	一、七拾文 しんぐう川舟ちん二人分	十六日
一、三拾文	二而くもし代	一、三十六文	一、百廿文	わらじ武東代	十六日
一、三拾文	召仕太郎召仕しろとうけ	一、三十六文	米壺升代	一、七拾文 しんぐう川舟ちん二人分	十六日
一、三拾文	二而くもし代	一、三十六文	一、百廿文	わらじ武東代	十八日
一、三拾文	召仕太郎召仕しろとうけ	一、三十六文	米壺升代	一、七拾文 しんぐう川舟ちん二人分	十八日
一、三拾文	二而くもし代	一、三十六文	一、百廿文	わらじ武東代	十八日

一、百拾文	たなへ宿三而泊り	十九日	一、百文	米壱升代	十九日	泊り米一升代	同
一、四拾文	酒武合半代	十九日	一、六文	わらし壱束代	廿一日	一、三文 こうじ二ツ代	廿三日
十九日ばん		廿一日	一、三拾武文	わらし壱束代	廿一日	一、三拾文計 こかわ寺様明し	廿三日ばん
一、百拾文		廿一日	一、百文	ゆあさ村三而	廿一日	一、百文 こかわ寺ニ泊り	廿三日
十九日	一、五拾文	廿一日	一、六文	岩せ渡し舟ちん	廿五日	一、百五十文 すゞ三れん	廿五日
十九日	一、三拾壹文	廿三日	一、三拾武文	いわせ三而昼飯たへる	廿五日	一、壱歩 すじ二ふさたま等 代壱貫六百文	廿五日
十九日	一、四拾文	廿三日	一、三拾武文	にしめ代			
十九日ばん							
一、百拾文							

一、百文	万とい上ケル明し酒代等	同	一、武拾七文	さかをり口茶や二而酒代	五月朔日ばん
一、百文		同	一、拾壹文	わらし壱束代	一、百文 米壹升代
廿五日はんも僧福院様泊り		廿七日	一、武拾五文	四ばん観音明し	一、百文 辻村三而泊り
ペ六百廿四文		廿九日	一、廿六文	わらし武束代	一、九拾文 米壹升代
二タはん泊り		廿一日	一、拾九文	酒わした子代	ペ武百八十九文
廿六日		廿一日	一、六文	やきもち三ツ	同
一、壱歩	泊り代上ケル	廿七日ばん	一、拾文	へろの茶や二而	一、百文
廿六日 代壱貫六百文		廿七日	一、百文	みつをち村ニ而泊り	一、百文
一、三百文	妻はち廻り人足ちん代	廿八日	一、百文	米壹升代	一、武拾七十三文
廿六日		廿九日ばん	一、廿文	酒壹合代、三ツやきもち	一、廿文
一、武拾文	わらし武束代、あまの村	廿九日ばん	一、廿四文	とうふ壱丁代、昼飯たへる	一、拾九文
次そういん迄百丁計中ほど二あまの村ニ	同	廿九日ばん	一、百武拾文	平田村ニ而泊り	一、拾九文
而明神様有り、天下ふしんニ御座候、ま	同	廿九日ばん	一、八拾五文	米壹升代	一、五拾文余り ならニ而明し
いりいくべし、じそういんニ而昼飯たへ	同	廿九日	一、三拾文	六はん観音様明し	ペ九拾九文
る、をかそうちらい候	同	廿九日	ペ三百拾壹文	一、百六十文 同所二人分	同
廿六日ばん		廿九日	一、八百拾弐文 武朱壳候	一、百六十文 同所二人分	同
一、六拾文 西川村ニ而泊り	同	廿九日	一、廿四文 かみゆちん	ペ三百廿文	一、百文
同	同	廿九日	六ばん観音様 明し	一、百六十文 同所二人分	一、百文
一、百拾文 米壹升代	同	廿九日	一、三拾四文 あへ中丸茶や二而	一、百六十文 同所二人分	一、百文
ペ百七拾文	同	廿九日	一、廿九文 わらし三束代	一、百六十文 同所二人分	一、百文
廿七日		廿九日	一、廿四文 かみゆちん	ペ三百廿文	一、百文
一、八百拾文 武朱壳候	同	廿九日	一、三拾四文 あへ中丸茶や二而	一、百六十文 同所二人分	一、百文
廿七日		廿九日	一、廿四文 かみゆちん	ペ三百廿文	一、百文
一、三拾六文 をいわけニ而飯代等	同	廿九日	一、武拾文 きす川舟ちん	一、百六十文 同所二人分	一、百文
廿八日ばん		廿九日	一、武拾弐文 わらし武束代	一、百六十文 同所二人分	一、百文
かすか村ニ而泊り		廿九日	一、武拾弐文 わらし武束代	一、百六十文 同所二人分	一、百文
一、三拾六文 をいわけニ而飯代等	同	廿九日	一、武拾弐文 わらし武束代	一、百六十文 同所二人分	一、百文
廿九日		廿九日	一、武拾弐文 わらし武束代	一、百六十文 同所二人分	一、百文
三日		廿九日	一、武拾弐文 わらし武束代	一、百六十文 同所二人分	一、百文

一、廿四文	小遣へ	くすかみ一丈、くわし代	一、拾四文	廿二ばんそうしん様 観音明し
三日		四日ばん	一、三百五十五文	安間ちん
一、廿弐文	(+か) 一ばんみむろとう明し	一、武拾八文	わらじ二束代	同
三日ばん		六日	一、廿五文	かつら田ニ而昼飯たへる
一、百文	下モたいとう泊り	同五日	一、拾六文	そうり壱束代
五月三日		同五日	一、五拾文	さとう
一、百文	同所米壱升代	同	一、三拾文	くろさとう
ペ弐百八十八文		同	一、三拾文	京都ニ而くわし代
同三日		同	一、百文	山城ともはた三而泊り
一、八百文	うじきんれ様ノ茶所ニ而 式朱壳候	同	一、百文	廿ばんよしみねさま明し
一、三箱	新高ミは茶代五百拾文	同	一、拾文	一、十三文
一、四ふくろ	同茶代百三十弐文	同	一、拾文	酒壱合代
一、武ふくろ	同茶代三十弐文	同	一、百文	一、十六文
ペ老貫四百七十四文		同	一、六文	そとし代
同四日		同	一、拾弐文	風呂ちん
一、百五文	上たいこう岩間寺參詣明し等	同	一、拾九文	夫ら(マニ)里り余上り下り坂
同四日ばん		同	一、三百廿文	茶やニ而壱合酒等
一、六拾四文	壺人分京都西本山前	同	一、二百九拾文	同
油小路越中屋		同	一、二百六拾五文	同
同		同	一、百拾文	くにみ村ニ泊り
一、六拾四文	妻分三之助方ニ泊り	同	一、五十九文	米七合代 九かへ
五月五日		同	一、五百十九文	同
一、九拾文	米壱升代	同	一、三拾九文	いたみ村ニ而三合酒代
京都二而中嶋村勝善寺殿		同	一、四拾六文	一、三拾文
カカリ		九日	一、廿弐文	茶やニ而餅代
一、三両弐歩		九日	一、拾六文	にしめ代等
六日		九日	一、廿弐文	廿四ばん觀音様明し
ペ五百十七文		九日	一、武拾弐文	わらし式束代
一、三拾弐文	らうそく一丁	同八日	一、武拾弐文	同所ニ而わらし式束代

九日ばん	一、三百四拾文 大坂はりまや	同十日	五百九拾三文
	権兵衛方ニ泊り		一、九拾文 米壺升代
五月十日	一、五百十五文	同十一日	一、七百九拾文 武朱壳候
			ペ三百三十武文
同十日	一、三拾文 黒さとう	同十二日	一、三拾文 あまさき城ヶ二而酒一合等
	梅干		一、拾文 となりみそう
同十日	一、廿五文	同十三日	一、八文 くわし代
	梅干		一、八文 くす紙代
同十日	一、拾四文	同十四日	一、八文 わらし壺束
	万しやう十ヲ		一、廿五文 昼飯さい代
同十日	一、六十一文	同十五日	一、八文 せしやうみま□□
	とうとんふりニ而しほい		一、廿六文 あい川舟ちん
同十日	一、廿六文	同十六日	一、九拾文 同所ニ而酒一合ニさかな
	酒壺合 こんにやく		一、廿五文 十三日
同十日	一、七拾文 うとん代	同十七日	一、三拾八文 同所ニ而酒一合ニさかな
			一、廿五文
同十日	一、八百五文 武朱代	同十八日	一、三拾文 すゝ三ツ代
			一、廿五文 十三日
同十日	一、武百七十文 はさめ壺丁代	同十九日	一、拾八文 めしノさい代
			一、廿五文
同十日	一、三十五文 せんへい、万しやう	同二十日	一、七文 餅一ツニこうノ物二タ切代
			一、七文
同十日	一、三拾文 しゃうちう壺合代	同二十一日	一、七文 わらし武東代
			一、七文
同十日	一、三拾文 へん付代	同二十二日	一、百拾文 まみさけ村泊り
			一、百拾文
同十日	一、三百四拾文 大坂はりまや	同二十三日	一、三百廿武文
			一、三百廿武文
同十日	一、五百十五文	同二十四日	一、廿九文 餅、さとう代
	わらし武東代		一、廿九文
同十日	一、五百十五文	同二十五日	一、三拾文 昼飯さい代
	わらし武東代		一、三拾文
同十日	一、五百十五文	同二十六日	一、七文 わらし壺束代
	兵庫ニ而武朱壳候		一、七文
同十日	一、五百十五文	同二十七日	一、六拾四文 いかるかし村ニ而
	米壺升代		一、六拾四文
同十日	一、五百十五文	同二十八日	一、六拾四文
	米壺升代		一、六拾四文
同十日	一、五百十五文	同二十九日	一、六拾四文
	米壺升代		一、六拾四文
同十日	一、五百十五文	同三十日	一、廿八文 二字村茶や壺合酒さかな代
	米壺升代		一、廿八文
同十日	一、五百十五文	同三十一日	一、廿八文 昼飯たへる、あらい村ニ而
	米壺升代		一、廿八文
同十日	一、五百十五文	同三十二日	一、廿八文
	米壺升代		一、廿八文

		昼飯たへる
同十四日		
一、八百廿文	手野村ニ而式朱壳候	
同十四日		
一、五拾五文	をつわ式本代	
同十四日ばん		
一、百文	竹嶋ニ而泊り候	
同十四日		
一、八拾六文	米壹升代	
ペ三百七十文		
同十五日		
一、拾五文	わらし壹束	
同十五日		
一、拾武文	舟ちん	
同十五日		
一、廿四文	三ツ石ニ而昼飯たへる、さい	
同十五日		
一、拾三文	わらし壹束代	
同十五日		
一、拾五文	茶やニ而餅代	
同十五日ばん		
一、百文	片上宿ニ而泊り	
同十五日		
一、八拾六文	米壹升代	
ペ武百六十壹文		
一、拾五文	たこう代	
同十六日		
一、六文	吉し川舟ちん	
五月十六日		
一、三拾四文	わらし三束代	
同十六日		
一、拾文	干いか一枚代	
同十六日ばん		
一、百文	ひ中宮内馬場町泊り	
同十六日		
一、十五文	ふとん	
同十六日		
一、八十四文	米壹升代	
同十六日		
一、拾文	風呂ちん	
ペ武百七十四文		
同十七日		
一、三拾壹文	朝飯たへる、さい代	
同十七日		
一、四拾三文	早嶋ニ而昼飯たへる	
同十七日		
一、拾五文	茶やニ而餅代	
同十七日		
一、十五文	わらし壹束代	
同十七日		
一、拾武文	もち代	
同十七日はん		
一、九文	わらし壹束代	
同十八日		
一、廿四文	餅代	
同十九日はん		
一、廿文	わらし二束代	
同十九日		
一、武拾九文	八十二番明し	
同十九日		
一、廿文	八十二番明し	
同十八日		
一、五百文	しちやう二タリねへ代	
同十八日		
一、拾文	七十八ばん參り明し	
同十八日		
一、四拾三文	早嶋ニ而昼飯たへる	
同十七日		
一、四拾三文	早嶋ニ而昼飯たへる	
同十七日		
一、四拾三文	早嶋ニ而昼飯たへる	
同十七日		
一、四拾三文	早嶋ニ而昼飯たへる	
同十七日		
一、四拾三文	早嶋ニ而昼飯たへる	
同十七日		
一、六拾八文	天王ノ茶屋昼飯たへる	
同十八日		
一、六拾八文	天王ノ茶屋昼飯たへる	
同十八日		
一、六十九文	米八合代	
ペ百九十八文		
五月廿日		
一、拾六文	八十三ばん一ノ宮様明し	

同廿日	一、十三文	くわし代	メ百六文	一、九拾八文	米壹升代	同廿四日
同廿日	一、十六文	八十四番之やしまノ明し	一、廿文	八十八ばん様え明し	メ百八十七文	同廿四日
同廿日	一、十六文	わらし二束代	一、廿一文	酒壹合三さかな等	一、拾四文	一ばん様ノ明し
同廿日	一、四拾文	むれ村水門屋藤右衛門方泊り	一、廿二日	同廿二日	一、拾五文	万しやう代五ツ
同廿日	一、七十三文	八合五勺代	一、拾七文	昼飯たへる	一、拾四文	二ばん様ノ明し
同廿日	一、壹合五勺	むらい候	入野山かしノ木村ニ而	同廿二日	一、拾五文	九はん様ノ明し
ペ百七十四文	一、七十三文	八合五勺代	一、四拾八文	西山村くり谷ニ而	一、拾五文	八はん様ノ明し
同廿一日	一、拾八文	わらし二束代	わらし四束代	五月廿四日	一、拾五文	みそう代酒とも
同廿一日	一、拾八文	八十五ばん様明し	同廿二日	同廿二日	一、拾三文	みそう代酒とも
同廿一日	一、廿六文	梅みい干し、大こん代	一、九拾文	白鳥山村泊り	同廿四日	五百らかん様
同廿一日	一、廿六文	梅みい干し、大こん代	ペ武百九十文	同廿二日	一、拾三文	五百ばん様之明し
同廿一日	一、六文	そうこし代	一、八十八文	米壹升代	同廿四日	六はん様ノ明し
同廿一日	一、三拾文	角村伝藏方三而泊り	同廿三日	同廿三日	一、拾三文	七ばん様ノ明し
同廿一日	一、三拾文	角村伝藏方三而泊り	一、拾五文	明し小遣へ等	同廿四日	七ばん様ノ明し
同廿一日	一、九拾武文	米壹升代	同廿三日	同廿三日	一、拾五文	十一はん様ノ明し
同廿一日	一、拾六文	わらし武束代	一、拾四文	わらし壹束代	同廿四日	十一はん様ノ明し
同廿三日	止宿仕候		同廿四日	同廿四日	一、拾武文	梅干代
同廿三日	一、三拾六文	そうめん代	同廿四日	同廿四日	一、九拾七文	同所ニ而茶やニ而米壹升代
同廿四日	同廿四日		同廿五日	同廿五日	一、廿四文	長とう安泊り
同廿四日	同廿四日		同廿五日	同廿五日	一、拾五文	餅代
同廿四日	同廿四日		同廿五日	同廿五日	一、拾四文	さい代

一、拾六文	朝飯時さい代	せちのかみ様式枚	一、廿文	わらし二束代	一、三拾文	二十はん様ノ安しつ二泊り
同廿六日			同廿八日		一、武拾文	ふとん代
一、十三文	わらし壱束代		一、八文	十八はん様ノ明し	一、拾五文	さい代
同廿六日	壳候		同廿八日	同廿八日はん	一、拾五文	さい代
一、拾四文	十二はん様ノ明し		五月廿三日	同廿七日	同廿九日	同廿九日朝
同廿六日			一、八百廿八文	十五はんノ御寺ニ而武朱	一、三拾文	二十はん様ノ安しつ二泊り
一、五文	かへくい		三はん様ノ御寺ニ而		一、九拾五文	十九はん様ノ明し
同廿六日ばん			武朱壳候		中角村ニ而泊り二人分	一、百五文
一、三拾文	平野村地蔵寺ニ而泊り		同廿七日	同廿七日	同廿八日	同廿九日
廿六日			一、拾文	十六はん様ノ明し	一、九拾五文	十九はん様ノ明し
一、百五文	米壹升代		一、四十六文	わらじ二束飯をかそう	一、三拾文	十八はん様ノ明し
同廿七日			同廿七日	同廿七日はん	中角村ニ而泊り二人分	一、百五文
一、武拾六文	わらし武束代		一、八百三十文	あわノ徳しま城 <sup>(ママ)</sup> ニ而	一、九拾五文	十九はん様ノ明し
同廿七日			同廿七日	同廿七日はん	中角村ニ而泊り二人分	一、百五文
一、拾武文下	十三はん様ノ明し		一、百廿文	□札受取、へんとうかえ候	一、三拾文	十九はん様ノ明し
同廿七日			同廿七日	同廿七日はん	中角村ニ而泊り二人分	一、百五文
一、八文上	一ノ宮ノ明し		一、十一文	わらし壱束代	一、九拾五文	十九はん様ノ明し
廿七日			同廿八日		米壹升代	一、百五文
一、二十文	十四はん三而昼飯たへる		一、十三文	きうりす代	米壹升代	一、百五文
同廿七日	茶やニ而		同廿九日		米壹升代	一、百五文
一、拾武文	十四はん様ノ明し		一、廿文	酒壹合代	米壹升代	一、百五文
同廿七日			同廿九日		米壹升代	一、百五文
一、拾文	十五はん様ノ明し		一、八文	きうりす代	米壹升代	一、百五文
同廿七日			同廿九日		米壹升代	一、百五文
一、廿文	大こん付買候		一、拾六文	酒壹合代	米壹升代	一、百五文
同廿八日			同廿九日		米壹升代	一、百五文
一、四拾八文	同所まぶり二ツ		一、拾六文	酒壹合トさい代	米壹升代	一、百五文

同二日	一、拾壱文	廿一はん様ノ明し	同三日	一、拾六文	くもし代等	一、拾五文	舟賃代	一、武拾四文 同所止宿料二人分
同二日	一、拾壱文	廿二はん様ノ明し	同三日ばん	一、三拾文	たちはなニ而泊り二人分	一、拾四文	わらし一束代	一、拾六文 酒壠合代
同二日	一、十六文	同所やきもち八ツ代	同三日	一、九拾文	米壠升代	一、廿四文	崎ノはまニ而泊り	同五日
同二日ばん	一、拾文	昼飯さい代	同三日	一、廿文	さい代	一、五拾九文	米七合代	同六日
同二日	一、廿四文	つきよ村ニ而泊り二人分	同三日	一、拾六文	峠ノ上下り口ニ而餅すり代	一、三拾文	三合五勺たくはち米	同七日
同二日	一、九拾六文	米壠升代	同三日	一、拾六文	つき峠上ニ而やきむち代	一、廿一文	米壠合等	同七日
同二日	一、廿四文	米貳合五勺代	同三日	一、廿三文	峠八ツ中ノ安すツうニ而	一、拾式文	さい代	一、拾文 香物代津のうらニ而昼飯たへる この前あなくり不動有
同二日	一、四文	さい代	同三日	一、廿四文	梅干、大こん代	○同六日	一、三拾五文 二十五はん様ノ明し等	同七日
同二日	一、四文	大師様明し	同三日	一、拾文	わらし壠東代	一、八百八文 武朱壳候	一、武拾五文 二十四はん様ノ明し等	同七日
同三日	一、拾文	廿三はん様ノ明し	同三日	一、三拾六文	せきこいうらニ而泊り	一、武拾七文	ミそう代	同七日
同三日	一、三十文	はたい入粉事	同三日	一、九拾文	二人分	一、武拾七文	わらし三束代	同七日
同三日	一、廿三文	わらし一束代	同四日	一、九拾文	米壠升代	一、百十五文	くろみ村ニ而泊り	同八日
同三日	一、十三文	わらし壠東代	同四日	一、武拾文	かみゆちん	一、武拾七文	香物代	同八日
			同六日はん	一、八拾四文	崎之はまニ而	一、拾四文	わらし一束代	同八日
				どうりやう米壠升代		一、三拾文	酒壠升代ニさかな	同八日
						一、拾七文	昼飯たへる、さい代	

二而昼飯たへるさい代	同十一日	一、廿五文	麦入粉
同九日はん	同十二日はん	一、三拾六文	あな内村彦一二泊り二人分
同九日	同十二日	一、六文	一ノ富国分寺明し
同九日	同十二日	一、五拾文	長はま二而泊り二人分
同九日はん	同十三日	一、廿五文	ちり紙代
同九日	同十四日	一、三文	なんば
同九日	同十五日	一、三拾六文	米四合代
同九日	同十六日	一、十六文	とうめん代
同九日	同十七日	一、五拾文	うさうら二而泊り二人分
同九日	同十八日	一、五拾八文	三十式はん様ノ明し
同九日	同十九日	一、五文	泊り二人分
同九日	同二十日	一、六文	大谷村かしや大蔵方三而
同九日	同二十日	一、七文	らうそく一丁
同九日	同二十日	一、七文	香物代
同九日	同二十日	一、八文	きうり三ツ代
同九日	同二十日	一、八文	すしやうゆ
同九日	同二十日	一、百拾五文	大谷村かしや大蔵方三而
同九日	同二十日	一、百拾五文	二十七はん様前ノ茶や
同九日	同二十日	一、百拾五文	二而そうめん代
同九日	同二十日	一、百拾五文	同觀音様ノ明し
同九日	同二十日	一、百拾五文	二而そうめん代
同九日	同二十日	一、六文	二十九はん様ノ明し
同九日	同二十日	一、六文	梅干代
同九日	同二十日	一、五文	酒壺合代
同九日	同十三日はん	一、十五文	三十五はん様ノ明し
同九日	同十三日はん	一、廿五文	同所茶や二而わらし一束代
同九日	同十三日はん	一、廿五文	とのはま茶や

一、米四合	舟ちゃん	一、八百八文	一、拾式文	一、八文	一、八百八文	一、拾式文	一、八文	一、八百八文	一、拾式文	一、八文	一、甘文
同十四日		三十六はん様ノ明し	三十六はん様ノ明し	三十六はん様ノ所三而	三十六はん様ノ所三而	三十七はん様ノ所三而	三十七はん様ノ所三而	三十八はん様ノ所三而	三十八はん様ノ所三而	三十九はん様ノ所三而	三十九はん様ノ所三而
一、八文	舟ちゃん	舟ちゃん	舟ちゃん	舟ちゃん	舟ちゃん	舟ちゃん	舟ちゃん	舟ちゃん	舟ちゃん	舟ちゃん	舟ちゃん
同十四日		うさうら町ち横なミ村迄	うさうら町ち横なミ村迄	うさうら町ち泊り二人分	うさうら町ち泊り二人分	昼飯たへる、さい代	昼飯たへる、さい代	四万十川ノ舟ちゃん	四万十川ノ舟ちゃん	伊三浦弁治方二泊	伊三浦弁治方二泊
一、拾式文		はくはん飯一膳代	はくはん飯一膳代	米五合代	米五合代	米壱升代	米壱升代	香物代	香物代	上せんこゝでん代	上せんこゝでん代
同十四日		同所茶や二而	同所茶や二而	こう田村三而泊り二人分	こう田村三而泊り二人分	同十六日	同十六日	同十八日	同十八日	同廿一日	同廿一日
一、七拾文		舟ちゃん	舟ちゃん	一、三拾式文	一、三拾式文	一、百三拾文	一、百三拾文	一、武拾四文	一、武拾四文	一、百四文	一、百四文
同十四日		うさうら町ち泊り二人分	うさうら町ち泊り二人分	同十七日	同十七日	同十七日	同十七日	同十八日	同十八日	同廿一日	同廿一日
一、三拾六文		三合	三合	一、拾文	一、拾文	一、百廿文	一、百廿文	一、三拾文	一、三拾文	一、四文	一、四文
同十四日		三合	三合	同十七日	同十七日	米壱升代	米壱升代	米壱升代	米壱升代	米八合	米八合
一、六十三文		米五合代	米五合代	一、武拾文	一、武拾文	一、廿六文	一、廿六文	一、武拾文	一、武拾文	一、拾八文	一、拾八文
同十五日		同五合たくはち米	同五合たくはち米	同十七日	同十七日	同十九日	同十九日	同廿一日	同廿一日	同廿一日	同廿一日
一、拾五文		晉飯たへるさい代	晉飯たへるさい代	一、拾文	一、拾文	一、廿六文	一、廿六文	一、武拾文	一、武拾文	わらし壹束代	わらし壹束代
同十五日		わらし二束代	わらし二束代	同十七日	同十七日	同十九日	同十九日	同廿一日	同廿一日	同廿一日	同廿一日
一、武拾式文		わらし二束代	わらし二束代	一、八文	一、八文	一、三拾式文	一、三拾式文	一、八百拾六文	一、八百拾六文	○武朱壳申候	○武朱壳申候
同十五日はん		とこうなへ村二而泊り	とこうなへ村二而泊り	同十七日はん	同十七日はん	同十九日はん	同十九日はん	伊三浦弁治方二而泊り	伊三浦弁治方二而泊り	一ノ瀬村之安二泊り	一ノ瀬村之安二泊り
一、廿四文		二入分	二入分	一、三拾式文	一、三拾式文	大木村はなや岩次郎方二而泊り	大木村はなや岩次郎方二而泊り	一、九拾壹文	一、九拾壹文	一、廿八文	一、廿八文
同十六日		むらい候分	むらい候分	同十七日	同十七日	同廿一日はん	同廿一日はん	米七合代	米七合代	米七合代	米七合代
一、米九合				一、百三拾文	一、百三拾文	一、九拾壹文	一、九拾壹文	一、廿七文	一、廿七文	一、廿七文	一、廿七文
同十六日				米壱升代	米壱升代	米七合代	米七合代	酒壱合、三ツ餅しやうゆ	酒壱合、三ツ餅しやうゆ	酒壱合、三ツ餅しやうゆ	酒壱合、三ツ餅しやうゆ

一、四拾文	さい代	一、八文	わらし一束代	一、廿武文	わらし二束代	一、五文	上せん代
同廿二日		同廿五日		同廿五日		同廿八日	
一、五文	明し	一、二十文	同二束代	一、四十武文	二トノさい代	一、拾壹文	わらし一束代
同廿二日		同廿五日		同廿七日		同廿八日はん	
一、十五文	わらし二束	一、武十文	こゝてん代	一、廿三文	香物代	一、三拾文	東田ゞ村三瀬方ニ泊り
同廿二日		同廿五日		同廿七日		同廿八日	
一、十五文	わらし一束代、さい代	一、二十武文	みそう百目代	一、十六文	こゝろてん代	一、百文	米壱合 <small>(マツ)</small> 代
同廿二日はん		同廿五日		同廿七日		同廿九日	
一、九拾六文	米八合代、九十村儀兵衛	一、拾文	四十はん様明し	一、三拾武文	酒武合代	一、三十三文	昼飯さい代
同廿三日	とうりやう仕候九十村ニ而	同廿五日はん	かしハ村ゆくの助泊り	一、廿一文	かみゆちん代	一、四拾文	北たゞ村二人分
一、五十六文	米武合、麦五合代	一、三拾文	米壱升代	同廿七日		同廿九日はん	
同廿四日朝出立仕候		同廿五日		同廿七日		同廿九日	
同廿四日	わらし三束代	一、廿四文	わらし二束代、きうり代	一、八百五拾文	武朱壳申候	一、九拾四文	米九合代
一、廿六文		同廿六日		同廿七日		同廿九日	
一、三十武文	酒武合代	一、武拾文	とゝろてん代	一、十武文	こゝろてん代	一、廿八文	さい代
同廿四日		同廿六日		同廿七日		同	
一、廿四文	とうふ代	同廿六日	一、武拾武文	こゝろてん上せん代	一、八文	こゝろてん代	
「一、十八文	同廿四日三三十九はん様	同廿六日	一、武拾三文	こゝろてん上せん代	同		
同廿四日はん	参り寺山様」	同廿六日はん	一、武拾三文	さつまいも、をとし米	一、三拾文	成井村定吉方ニ泊り二人分	
同廿四日			同廿六日はん		同廿七日はん		
一、百廿文	小山村豊藏泊り米一升代	同廿六日	一、武拾三文	さつまいも、をとし米	一、八拾六文	米八合代	一、八百三拾五文
同廿四日			同廿六日		同廿七日		一、大す上ヶニ而ふるや豊治郎方泊り
一、拾五文	さい代	同廿八日	一、武拾八文	梅千代	七月朔日	一、武拾文	武朱壳申候
同廿五日		同廿八日	同朔日			同一日	
		同廿七日	一、武拾八文	みそう代			

一、武拾五文	香物代	同三日	一、九拾文	米壹升代	一、拾八文	五十ーはん様明し
一、六文	そうこうし代	同四日	一、拾八文	酒壹合代	一、八文	五十二はん様明し
同一日		同五日	一、拾五文	宿ニ而わらし二束代	一、十六文	こゝろでん代
一、八文	わらし一束代	同六日	一、拾九文	もゝ代	一、十六文	こゝろでん代
同一日		同六日	一、拾九文	さかな代等	一、拾文	酒代
一、十六文	こゝろでん代	同七日	一、武拾九文	さかな代等	一、武拾文	へんろニたらせる
同朔日		同七日	一、武拾九文	酒貳合代	一、武文	へんろニたらせる
一、四拾文	妻合羽つすりくり代	同八日	一、九拾四文	米九合代	一、武文	へんろニたらせる
同二日		同八日	一、廿武文	酒壹合三代	一、武拾文	へんろニたらせる
一、武文	舟ちん代	同九日	一、拾文	わらし一束代	一、武拾文	へんろニたらせる
同二日		同九日	一、九文	わらし一束代	一、武拾文	へんろニたらせる
一、三拾文	くろさとう	同十日	一、十六文	くまの町ニ飯さいそうめん	一、三拾文	大山寺村二人分弥作方ニ泊り
同二日		同十日	一、三拾文	上るうり寺村たぎ右衛門方	一、四十武文	米五合代
一、武拾文	昼飯さい代	同十一日	一、六拾八文	米八合代	一、十八文	ばく米三合代
同二日		同十一日	一、拾六文	はた川ニ而武束わらし代	一、八百三十文	上るうり寺村宿ニ而
一、三拾五文	すいくわ代	同十二日	一、拾六文	わらし一束代	一、拾武文	わらし一束代
同二日はん		同十二日	一、拾八文	はた川ニ而武束わらし代	一、六文	五十三はん様ノ明し
一、三拾文	造城井よき村伝太夫方ニ泊り二人分	同十三日	一、拾六文	四十五はん様ノ明し	一、八文	四十九はん様ノ明し
同二日		同十三日	一、武拾文	昼飯さい代	一、八文	四十九はん様ノ明し
一、米壹升	もらい候米	同十四日	一、拾六文	はた川ニ而御飯代	一、武拾文	四十九はん様ノ明し
同三日		同十四日	一、武拾文	はた川ニ而御飯代	一、拾文	五十はん様明し
一、武拾六文	わらし三束代	同十四日はん	一、百文	く万町ニ而泊り一人分	一、武拾九文	さかな代等
同三日		同十四日はん	一、百文	五十はん様明し	一、三拾文	ほう上ヶ町上や藤吉方ニ
一、拾文	酒代	同十四日	一、武拾文	酒貳合代	一、武拾文	へんろニたらせる

泊り二人分	同九日	一、六拾四文	米八合代	一、廿文	わらし二束代
泊り二人分	同十日	一、武拾七文	酒さかな代	一、六十四文	米八合代
泊り二人分	同十一日	一、廿文	かめゆへ代	一、四拾文	大町茶木やとら藏方ニ而泊り二人分
泊り二人分	同十二日	一、十文	餅代	一、六拾七文	米八合代
泊り二人分	同十三日	一、廿文	た子代	一、十五文	酒壺合代
泊り二人分	同十四日	一、廿文	香物代	一、拾四文	さい代
泊り二人分	同十五日	一、廿文	わらし一束代	一、四十三文	わらし四束代
泊り二人分	同十六日	一、廿文	同十二日	一、三十文	すゝ代
泊り二人分	同十七日	一、廿文	六十二はん様ノ明し	一、七拾武文	うとん代
泊り二人分	同十八日	一、廿文	六十三はん様ノ明し	同十二日はん	
泊り二人分	同十九日	一、廿文	六十四はん様ノ明し	一、三拾文	小林村国助方ニ泊り二人分
泊り二人分	同二十日	一、廿文	た子代	一、八拾四文	米壺升代
泊り二人分	同廿一日	一、廿文	すゝ、こゝろてん、た子等	一、武拾八文	夕朝ノさい代
泊り二人分	同廿二日	一、廿文	こゝろてん代	一、拾武文	わらし一束代

一、八文	とゝろてん、御飯さい代	くわし代	同十六日
同十三日	六十五はん様ノ明し	一、五文	同十五日
一、六文	六十五はん様ノ明し	一、拾文	餅代
同十三日	奥いんノ茶所ニ泊り候	一、八文	同十五日
一、廿四文	奥いんノ茶所ニ泊り候	六十七はん様ノ明し	同十七日
同十三日	一、七拾六文	米八合代	一、六拾文
一、七拾六文	米八合代	六十八はん様ノ明し	朝飯代
同十三日	一、八文	六十九はん様ノ明し	同十七日
一、拾文	奥いん明し	一、廿壹文	酒壹合代
同十四日	とゝろてん代	一、拾文	さと水代
一、八文	とゝろてん代	一、八文	同十八日
同十四日はん	六十九はん様ノ明し	一、拾壹文	香物代
一、三拾文	うんへい寺ノ茶所ニ泊り	せんこん宿ニ泊り	同十八日
同十四日	米壹升代	一、五十六文	同十九日
一、百八文	米壹升代	米七合代	一、九文
同十四日	一、九文	わらし一束代	七十七はん様ノ明し
一、拾貳文	さい代	一、六拾文	同十九日
同十五日	うんへい寺様明し	一、八文	同十九日
一、六文	うんへい寺様明し	同十七日	同十九日
同十五日	七十一はん様ノ明候 <small>(マミ)</small>	一、百五拾貳文	同十九日
一、武文	三十三丁下り候而安ニ明し	同十七日	同十八日
同十五日	同所ニ而香物代	一、八百文	一、七文
一、拾壹文	同所ニ而香物代	こんへら様ニ而	同十八日
同十五日	一、八文	かへ申候式朱代	同十八日
一、廿四文	うとん代	一、三百廿文	丸龜福嶋屋文十郎
同十五日	七十二はん様ノ明し	こんへら松尾町孫一方ニ	一、壹貫六百四拾文ニ壳申候
一、廿四文	七十二はん様ノ明し	泊り宿	一、武拾四文
同十五日	うとん代	同十七日	丸龜ニ而うとん代
一、八文	七十三はん様ノ明し	同十六日	同十八日
同十六日	一、八文	一、四文	同十八日
同十六日	酒壹合五勺代	餅二ツ代	丸龜福嶋屋文十郎
同十六日	同所ニ而香物代	同十七日	一、四文
同十六日	一、廿文	同十七日	丸龜福嶋屋文十郎
同十六日	一、八文	同十八日	丸龜福嶋屋文十郎
同十六日	一、廿文	同十八日	丸龜福嶋屋文十郎方ニ而

宿ちん

一、七十式文 米八合代

同廿五日

同廿六日はん

一、六拾四文 山口村万右衛門方ニ泊り

二人分

同十九日

一、十六文 とゝろてん代

二十七はん様ノ明し

同廿三日

同廿六日

同廿七日

同十九日

一、七十五文 一ばん代丸龜ニ而

女人堂とも

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三拾文 昼飯さい代

昼飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三十式文 酒壺合さい代

酒壺合さい代

同廿三日はん

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、九拾文 東うねニ而松尾屋常助ニ

わらし一束代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、八文 わらし一束代

飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、十三文 はしほこう代

せんまい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、十五文 くろさとう

くしかき代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三十六文 うとん代

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三十五文 酒壺合、さかな代

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三拾四文 そうめん代

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三拾四文 そうめん代

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三拾四文 一、廿四文

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三拾四文 わらじ二束代

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三拾三文 わらじ二束代

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三拾三文 わらじ二束代

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三百八拾文 治り代武人分

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、四拾文 すぐわ代

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三拾三文 昼飯さい代

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、三拾三文 御飯茶わん壺ツ

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、八文 らうそく壺丁代

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、百文 片上三而泊り武人分

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

同十九日

一、百文 そくわ代

古市ニ而飯さい代

同廿三日

同廿五日

同廿七日

片上三而泊り武人分

古市ニ而飯さい代

古市ニ而飯さい代

古市ニ而飯さい代

古市ニ而飯さい代

古市ニ而飯さい代

- 三〇 -

一、八拾六文	酒さかな御飯さい代とも	一、拾貳文	渡し舟ちん	同五日
同廿八日はん	二人分、野上村とうふや	一、武拾文	きれとのもん珠様根ろ	同朔日
一、九拾文	小兵衛方三泊り	一、六拾壹文	昼飯さい代酒とも	同三日
同朔日		江尻村之舟ちん		同五日はん
同廿八日		一、拾文	松の村三餅代	一、八拾文
一、六拾八文	米八合代	一、武拾文	きれとのもん珠様根ろ	泊り二人分
同廿九日		一、六拾壹文	江尻村二泊り二人分	三方村五郎右衛門方二
一、八文	わらし一束代	一、八拾文	同所勘兵衛方三泊り二人分	同五日
同廿九日		一、八拾五文	米壹升代	一、七拾文
一、五拾文	昼飯さい代	一、八拾文	同廿九日はん	一、八拾文
同廿九日		一、六文	渡ちん代	同朔日
一、拾五文	なし代	一、九文	さかな代	同一日
同廿九日	みそう代	一、四拾四文	きれとのもん十様ノ明し	同二日
一、十三文	万上代	一、四十七文	昼飯さい代	同三日
同廿九日	こうもり宿	一、三十六文	飯さい代	同四日
一、百文	喜兵衛方三泊り二人分	一、百文	をはま宿ひわこやニ	同四日はん
同廿九日		一、四文	泊り二人分	同四日
一、八拾文	米壹升代	一、四文	舟ちゃん代	同二日
八月朔日	昼飯さい代	一、十五文	昼飯さい代	同二日はん
一、廿一文		一、九拾文	わらし二束代	同二日
同朔日		中山村米屋喜二郎方二	わらし二束代	同二日
一、四文	きれとのもん珠様明し	泊り二人分	わらし二束代	同二日
同三日		一、八拾四文	米壹升代	同二日
一、四文		一、九拾文	中山村米屋喜二郎方二	同二日はん
同三日		一、十三文	干さは一枚	同五日
一、四文		一、六十文	米壹升代	同五日
同三日		一、拾貳文	九文名村大藏寺あん三而	同七日
一、四文		一、拾八文	米壹升代	同七日
同三日		一、拾七文	わらし壹束代	同七日
一、四文		一、拾七文	昼飯さい代	同七日はん
同三日		一、五拾六文	酒壹升代	同五日
一、五拾六文	堀り山村弥十郎方二泊り			

		米八合代	一、八拾九文	米壱升代	同十一日	一、廿六文	そうち渡し舟さん	同十三日	一、三拾六文	飯さい代
		一、せんこん宿 同所泊り	一、八百廿文	式朱壳候、せき原二而	同十二日はん	一、八拾文	ふしみ宿二而泊り二人分	同十三日はん	一、八拾文	打合ノ宿二而泊り一人分
		同八日	一、三拾四文	とゝろてん代	同十日	一、三拾文	すいくわ代	同十四日	一、九拾四文	米壱升代
		同八日	一、拾九文	木の本地藏様明し品々	同十日	一、廿文	昼飯さい代	同十四日	一、拾武文	御飯代
		同八日	一、拾文	昼飯さい代	同十日	一、五拾武文	飯さい代、壱合酒代	同十二日	一、拾武文	わらし一束代
		同八日	一、四拾文	酒壱合、そうめん壱膳半代	同十日	一、拾文	もゝ代	同十二日	一、拾壱文	昼飯さい代
		同八日	一、百文	野村弥兵衛方ニ泊リ二人分	同十日はん	一、十四文	さい代	同十二日	一、四拾壱文	こゝろてん、餅品々代
		同八日はん	一、七拾五文	米壱升代	同十日はん	一、八拾文	新ヶ野村吉藏方ニ泊り	同十二日はん	一、四拾八文	こわ飯二膳
		同九日	一、拾武文	わらし一束代	同十日	二分	大くて宿泊り二人分	同十四日	一、廿五文	わらし一束代
		同九日	一、武拾八文	せき原ニ而昼飯さい代	同十一日	一、六拾七文	米八合代	同十二日	一、四拾武文	壱合酒代、昼飯さい代
		同九日	一、十三文	わらし一束代	同十一日	一、廿四文	かみゆへ代	同十四日	一、八文	ぐわし代
		同九日	一、三拾八文	御飯さい代	同十二日	一、十四文	うとん代	同十四日はん	一、九拾文	大平村ニ而松本屋平藏方
		同九日はん	一、百文	赤坂宿ニ而泊り二人分	同十三日	一、拾三文	わらし一束代	同十四日	一、百文	米壱升
		同九日はん	一、三拾八文	御飯さい代	同十三日	一、八文	昼飯さい代	同十五日	一、拾文八文	わらし一束代
		同十一日	一、拾武文	わらし一束代	同十三日	一、八文	昼飯さい代	同十五日	一、拾七文	餅代
		同十一日	一、三拾八文	酒壱合さい代	同十三日	一、三拾四文	壱合酒、さかな代	同十五日		
		同十一日	一、三拾八文	赤坂宿ニ而泊り二人分	同十三日	一、三拾四文	壱合酒、さかな代	同十五日		

一、三拾四文 昼飯さい代	一、拾六文 昼飯さい代	同廿日
一、三拾弐文 壱合酒、こわ飯代品々	一、廿二文 干さかな代	同廿日
同十五日	一、三拾八文 昼飯さい代	同廿日
同十五日	一、九文 くわし代	同廿日
一、廿文 とのきひ、とゝろてん	一、十七文 うどん代	同廿日
同十五日はん	片桐宿二泊り弐人分	同廿日
一、百文 片桐宿二泊り二人分	一、五拾文 塩尻宿泊り二人分	同廿日
同十五日	一、十七文 うどん代	同廿日
一、八十六文 米壹升代	一、十三文 飯さい代	同廿日
同十五日	一、五拾文 塩尻宿泊り二人分	同廿日
一、八百三拾六文 片桐宿二而二朱壳候	一、三拾八文 酒さかな代	同廿日
同十六日	一、四拾八文 わらし四束代	同廿日
一、廿八文 わらし一束代	一、百廿五文 さなた帯弐筋代	同廿日
同十六日	一、七拾三文 昼飯さい代等	同廿日
同十六日	一、廿文 くわし代	同廿日
一、三十六文 一合酒、さかな代	一、八拾文 中原村三而綿屋源吉泊り	同廿日
同十六日	一、十七文 同断	同廿日
一、八文 もゝ代	一、八十文 米壹升代	同廿日
同十六日はん	一、三拾文 壱合酒、さい代	同廿日
同十六日	一、廿四文 酒弐合代	同廿日
一、八拾文 との村泊り二人分	一、五百六拾六文 行□くわし代	同廿日
同十六日	一、十六文 らうそく壹丁代	同廿日
一、七十四文 米壹升代	一、六文 そうこし代	同廿日
同十七日	一、百文 かりや原宿二而泊り二人分	同廿日
一、拾壹文 わらし一束代	一、廿五文 丹は橋川茶や三而もち代	同廿日
同十七日	一、八十五文 米壹升代	一、四拾弐文 明し、品々代
同十九日	一、廿文 かみちん	同廿一日
一、三拾弐文 酒壹合、そうば代	一、百七拾五文 すゝのたま	同廿一日



### 三 九州からの四国遍路

(胡)

筑後久留米三本松伏見やかつ、同十丁目竹やとら、同新町忠助内ろく  
二月廿二日立 朝曇、小星比カ小雨

初めて四国遍路の案内記を記した眞念や、初めて案内図を出版した細田周英などが畿内の出身であることはもとより、それらの版元も畿内にあり、これまでの四国遍路の歴史は畿内からの視点で語られることが多かつた。このことは、四国靈場一番札所が畿内に近い鳴門の靈山寺であり、周英の「四国偏礼図」が南を上部とした畿内から見た四国を描いていることにもよく表れている。

四国の西方にある九州や中国地方からも四国遍路を行う人々は、少なからずいたはずであるが、これまでほとんどその実態が紹介されてこなかつた。福岡県立図書館が保管する「佐治家文書」の中には、佐治家の一族が幕末に記したものと思われる「四国日記」(三一六号文書)が見出され、同館ならびに所蔵者佐治洋一氏の御理解を得て、初めて九州からの四国遍路道中記を紹介することとする。

佐治家の初代与助は、黒田長政に仕え、関ヶ原合戦などで活躍し、その後、筑前国津屋崎村に土着し、代々酒造業を営み、財をなした。

「佐治家文書・四国日記」[弘化二年(一八四五)二~五月と推定]

四国日記

右者旅中のありさま善悪ともにことく書記せしは誠に心覚にて、後年淋しきせつ取出し樂ミにもなり申べくと、おかしき事どもつたなく書のせ、独なかめて打笑ふのみなり、

同行連名

佐治徳左衛門母、伊東作次郎母、川崎幸助、安藤卯右衛門、  
横町新八、同正七

掛連同行

同日四ツ時出立、先氏神波折宮参詣、同宮にて同行待合せ、夫カ町内いとま乞、尚又所うち宮寺残りなく参詣おわり直ニ在付、金毘羅宮参詣拝殿に暫く籠カ候處、横町中酒肴持出し、出口町カも同く大師講中間中ミな夫カに送り酒迎ひ有り、手元カも酒肴すしなど持出し、本家カも同様、上西郷カも弁当参り、大勢腰送りの人拝殿通夜堂に重満し、扱も賑成事也、併此夕同宮通夜の積りなれとも余り切なく相見へ、夫故村乃様ニ参り、孫十殿隠宅ニカ其日同村嘉市殿方カ重「カ」有り、尤仕方カも同様段々取持二合、風呂などわき、當孫十殿カ同行江餞別も有り、大ニ世話ニなり、

宿△在自村 孫十郎殿隠宅

同廿三日 雨風

早朝カ起きしたり仕廻在自村立、須多田村通り、大石村觀音様参詣、夫カ奴山村大坂越しやくの谷通り、田嶋ニ至る、先第一宮参詣、次ニ經堂を拝し、夫カ川端二行、田丸屋ニ寄り、屏風山ちん國寺江参る、又少登り岩家不動様参詣帰りニ宝經院押(トヲ)を巡り、又田丸やに帰る、其時四ツ半頃、隠宅に暫く休む、此時雨風はげしく、故に段々留メられ、同所に留る、其日雨寸度降りやまず、道筋殊之外難儀致し候也、余り早留りにて長日暮しかね、終日旅入用の品不足の物など拵へ、同行中昼寝ともいたし居候也、当逗留中段々取持ニ預り申なり、

道二里 宿△川はた 田丸や与右衛門殿

同廿四日 朝曇 五ツ時カ雨風

同日早朝川端立、池田通りたる、見越し峠の下なる家にて休ミ、夫カ内浦天野通り、芳木村ニ至り、鐘崎や庭見物、大成棒松有り、牡丹花たん広く、蘇鉄計りの小庭も有り」「事也、其後高龍宮参」「手前小店にて中喰、又芳木の様ニ帰り、芦やに趣く、松原の間縄手道、雨風はげしく殊之外の難儀也、漸ぬか塚ニ着キはつれの家にて暫く休ミ、夫カ芦や迄松原長し、先仁武の社参詣、芦屋二つく事七ツ半時伝四郎殿手紙持、中小路に参り留ル、

道五里 宿△芦や中小路 米屋清右衛門殿

宵朝段々心切の取持也、其上亦七殿方まんちう武重見舞三参り立掛、宿残置候へ共、帰し申され候なり、

同廿五日 清天

朝川舟を借り、浅川船にて登る、船頭太七と言人也、但し舟賃十五匁、浅川中ほとて汐時あしく船不通ニ付、暫く待、爰にて中喰、夫お船通り仔嶋後になし、若松の様ニ趣處、風あしく上、ミち汐にて何分船ひま取、暮に成る故に黒崎の様ニ押しつけ、其夜は船にて夜を明し、何かと船頭の世話になる也、飯をたき新八殿と二人岡に上り、豆腐沓紙など買風呂二入帰る也、

船路三里余 宿△船

同廿六日 清天

早朝船お立、黒崎町を見渡し、小倉大官、尾鞍村通、大鞍茶やにて休ミ、白赤餅

有り、夫お少行、小倉に着く、入口清水町、下町金ナ田町通る、何れも土家也、

夫 筑前口御門這入、田町三丁目杉や徳藏方に参り、津屋崎弥平殿に逢、同人案内にて立川大門通り大橋渡り、船頭町藏本喜三郎殿方ニ着、老人百文宛出し切手代

船ふなちん相済、船に舞る、筑前原町同行衆一同に乗り合、下の関に着く事八ツ時、此

日昼ひ風立、振まきりにて大ニ難儀致し候なり、夫お佐伯屋理右衛門殿方に参り宿の

同廿七日 曇

事頼處、人つけ被下、稻荷町口大黒や弥兵衛殿方ニ留る也、先風呂三入、亀山八幡宮参詣、夫お阿ミだ寺ニ参り、所納三人にて出し合せ、平家御一門の画像開帳、安徳帝の御木像有り、御八才の御姿也、平氏一代の事襖に絵有り、土佐光信筆なり、ミなゑとき有り、此寺にも宝経とる有り、是を巡る、次に極楽寺参詣、次ニ圓明寺参詣、何れも能き御寺也、宿に帰る事暮六ツ時、夕飯仕処、稻荷町夜ミせ見物ニ参る、

道三里 宿△下ノ関赤間町

船路三里 大黒や弥兵衛殿

はたご百六十文

同廿七日 小雨、昼ひ晴る

同日雨天につき、又々下の関逗留、雨晴町内見物、なべの方おら観音崎、三百目角

に芝居有り、先永福寺参詣、左に大師堂有り、同所に札を納メ、夫お芝居に参る、札錢百廿文、半疊六十文也、座本芸子小雛にて、役者市川童右衛門、中山栄次郎、澤

村国三郎など其外芸子役者段々有り、面白き事也、其日箱根靈験いざり仇討なり、

暮比宿に帰る、

此日町内歩行二里計りも有べし 宿△同人 はたご同

同廿八日 晴天

朝下の関立、少行、田中の茶やにて休ミ、夫お暫く行也、ミふかを左に見渡し、よしみの茶やにて休ミ中喰、夫お少行、里井一軒家に休ミ、同所町を通り、店にて休ミ、夫お川棚湯町に着く、八ツ下り、

道六里 宿△川たな源右衛門殿

同廿九日 雨風

早朝湯二入、直ニ打立、少行、北村此所桜盛り也、夫お尾野村にて休む、此村至

而長し、夫およこ道峠越、おだけ山一の鳥居に着き休む、又峠をこし茶屋にて中徳帝の御木像有り、御八才の御姿也、平氏一代の事襖に絵有り、土佐光信筆なり、

喰、荷物預置、御山に登る也、此茶やぢ五丁急坂にて樹木茂し、石段登り御門有り、久留尊佛参詣、寺にて暫く休む、此所通夜人多きよし、ぐりに店有り、蕎麦切、田んかく其外あめくわし類有り、夫お麓に帰り荷物を取、むくろ村通る、此村大ニ長し、矢地の茶やにて休ミ、夫お西市のしゆくに着く、七ツ半時、

道七里 宿 西市宿

はたご百二十文 中村郡平殿

三月朔日 清天

朝西市宿立、少行、ならわらと言少の町有り、此町にてしゆ行初メいたし、一里

行、大川村爰三て休ミ、少行、百合野村通る、此所酒屋庭見物、五葉の松の大木  
有り、扱も見事成松也、故に写置く、

(松図)

門名小田屋也、

夫ち村々多し、すべて紙漉也、少行、俵山と爰「言力」所有り、爰にて中喰、夫ち  
少行、道ばたに谷川有り、瀧のことく面白き景色也、夫ち深川村大念寺参詣、禪  
宗の大寺也、寺内広く目も不及御普請なり、諸国和尚のつめ所有り、千人迄ハ居  
れ候よし、本堂ハ言に不及、くりぢ御門、但し唐門也、座禪堂迄ミなくわひろふ  
心也、大禪の大部様御つたい所にて御寄進もの多し、此所湯有り、入湯人段々有  
り、湯町右に見、夫ちかわら村にて休ミ、又々中喰、豆腐吸物有り、夫ち少行、正  
明市と言所に就く、七ツ時、萩往来也、道山坂多し、此所に宿取留る、

道六里 宿△正明市、忠右衛門殿

きちん五十六文、米六十二文

同二日 清天

正明市立、少行、千崎浦也、是ぢ少浜邊道、同湊後に見、白かた浦と言を見渡し、  
さわひ浦通る、夫ち少行、豊原村に休む、此所能き町也、夫ち三角之市と言を通  
り、中尾村にて休む、夫より少行、むねとふ茶やにて中喰、是迄三里余此所ぢ先  
きびしき山坂なり、くさりいたと言所にて休ム、是迄七曲りと言難所也、夫ち三  
見にて休ミ、又中喰、是ぢ先城下迄すへて山坂也、七ツ時、萩の御城下に着く、  
椿町に宿取留る、風呂に参る、から風呂風ウ也、

道七里十六丁 宿△萩椿町、田鍋与三右衛門殿

きちん五十文、米六十四文

同三日 朝小雨、昼夜清天

同日節句二つき、宿にてひし餅囁ひ、同行中節句の祝い初メ共致し、夫ち町内見  
物、椿町ぢ大橋を渡り、おもと町夫ち唐柵此所札の辻なり、夫ち田町、瓦町邊迄  
行、米屋町にて同所名物につき煙筒求め、かしばた通り帰る也、此萩の城下と言  
也、石灯籠金ナ灯籠手をつくしたる事にて、中にも吹上の手水鉢から金の龍の細

ハ軒数四万軒の所にて至て繁花の地也、御城海かいばたに垣御物見有り、てんし有り、  
城下の巡り大川にてよぶかひ一の名城也、大名こぶじなど江戸同様のよしなれ共、  
旅者は参る事ならず故に四ツ半比宿立、町はつれ天満宮参詣、至而寄麗なる御宮

也、夫ち大矢と言村を通り、かせが坂権現原打越、明ヲ木の茶やにて中喰、夫ち  
一升谷越し、斧切りと言所にて休ミ、中のたを落合通る、此邊峠の事をこなたをと言  
也、夫ち笛波に着く、七ツ半時、道ハ大官也、なれども山坂、

五十丁道四里 宿△笛波町、土山喜平殿

きちん三十六文、米六十二文

此宿近所に深切成、祖父殿有りて風呂をわかし、たんく世話ニ成る也、

同四日 雨天

早朝笛波立、板橋と言所を通り、長瀬にて休ミ、夫ち夏木原二件茶やにて中喰、  
夫ち一の坂きびしき難所也、暫く下り六軒茶やにて又休む、景色能く寄麗成る茶  
屋なり、此茶やにて、そは切名物あつきの大餅有り、夫ち四十八曲りの坂を下り山口  
に着く、先ツ大神宮様参詣、次に末社残りなく参り、茶やにて休ミ、社家にてけ  
んさき受也、夫ち参る道町中に川有り、左右すべて椀屋也、夫ち本丁通りに出見  
渡す處、萩の城下も不及つけつかふ成る所也、軒数貳三千も有るよし、夫ち町はつ  
れに大岩有り、是を重ね岩と言、夫ち二夕見村通り、段々村道ばたに多し、七ツ  
時ひいらきと言所に着く、先終大明神参詣、其前茶やに宿借り留る、風呂三入、  
かめ風呂也、余程なんき成る宿也、夜見など甚わるし、

五十丁道、四里半 宿△終村茶や、長井小左衛門殿

きちん四十文、米六十六文、此夜筑後の衆逢宿し、此所ぢ知る人になるなり、

同五日 清天

早朝終立、唱瀧さば山淨昌寺通る、此村至て長し、たおなる茶やにて中喰、そは切、  
てんか道、夫ち右田通り宮市に着く、先つ天満宮参詣、御宮けつかふなる事、中々  
書づくし難し、とふ門高く、くわひろふ有り、絵馬多し、左少はなれ大師堂有り、  
右に觀音堂御池有り、いつれも御札納る也、其外末社数々有り、石たん高く見事

工至而見事なり、此町山口同様にて寄麗成所也、夫ち少の坂を越し、富海と言所につく、八ツ時也、同所ち船借る筈になり、同町に留る、夜半此風立、天氣あしくなる故、乗込事成難く、朝に成りても雨降り船出し、かたきよしにつき此所船見合する也、

道三十六丁五里余り宿△とのミ宿之板村彦左衛門殿

きちん三十文、米六十八文

同六日 雨天

富海立、少行、椿たおと言有り、夫ち戸田池通り、同新町にて中喰、又少行、移かわに着く、此所町を通、衆家ち晦かけ、能き船便有るゆへに船借様すゝめられ、筑後同行衆五人も此家ち船借る筈之由、外ニ宮市の人二人一同に乗りくミ候筈相極め、其日爰に留る、終日雨降りやまず、同行中こんきうに及也、明七日日柄要しきにつき、此日船乗り初メともいたし、船賃四百文宛、尤船頭衆ハ此方のまかない也、萩之衆船ち出る、筑後一同に留る也、

道同二里半宿△福川、中村や源六殿

きちん四十文、米七十文

同七日 時々小雨

同日船受ヶ出し候ニつき、少雨の晴間に乗り込少行、何分風荒く登り兼、竹嶋と言所にかゝり、其夜同所にて夜を明す也、爰に掛る事九ツ時、此日雨ふり、甚難儀也、

同十一日 曇、昼ち小雨

△船 福川、船頭好五郎殿

竹嶋跡、船方弥左衛門殿

同八日 時々小雨

此日竹嶋こき出し、中の嶋と言所にかゝり日和を待、昼過ち天氣晴れ、大津嶋と言所につく、此時暮六ツ比、爰に留る、此所広き嶋にて家四五軒宛所々に有り、水を汲、茶呑に上る人も有り、唐いも多し、

△船 大津嶋泊り

(錦帶橋図)

五ツの橋すへて長サ廿間余も有へし、板のはき目は赤かねにて押へ、石垣の上ハ汐しつくいてぬり、石の合目ハ鉄のかすかいを打、諸事念の入たる事、中々書つくし難し、図の如く南方ニツ橋足なし、くミ上ケにて下タミな鉄金

大津嶋こぎ出し、瀬戸内嶋々見はらし、むろ積と言所を左に見通る也、此日一向風なく、時々帆を掛け、多くハこぎ船にて七ツ時過ぎ、上の関に着く、先町に上り、風呂入、町内見物、女郎町も有り、江戸や、金子やなどと/or、船つき家べつ宿、風呂やなり、夕飯たき、豆ふ吸物こしゆる也、船にてあんころもちを売る、夫ち夜に入、向ふなるむろ津と言所に船置く也、此所も上の関同様の所也、夜半比船出し、小松にて夜明る也、

△船 上の関、泊り

同十日 清天

早朝おはたけの瀬戸を落し、大烟を左に見渡し少行、同所の内幸しろと言所に船をつけ、汐時を待也、此所家に上り、髪さかやきとも仕、家内至てねんごろにと申候に付、礼に日薬置く、亭主ハ船頭也、夫ち船に乗り、夕暮方に岩国的新湊に着く、此所岩国様ちの御普請にて大もふなる波戸出来、新地家々ミな一両年に立し模様にて、色々の店、女郎家、芸子や、女太夫、何とてなきものハなし、御屋敷も垣、御番所ハ木屋がけ也、追々出来添る家々見事成普請にて賑敷事也、追々ハはんくわの地に成へき様子也、芝居も有り、夜二入、鏡山二タ幕見物に参る、まんちう、生くわし、やぶかん、餅、酒売者多し、地役者なるよし、いしやふ道具立能く、面白き事也、札錢六十文、此所にて夜五ツ比、地しんにあふ也、

△船 岩国、新湊泊り

未明ち起き、岩国御城下橋見物、此湊ち橋迄一里十六丁有り、入口少町有りて、

夫ち暫く士家也、家々の模様、筑前の家中も不及、能普請多し、夫ち門を這入、町家有り、暫く行、金帯橋に着く、此橋見事成事聞しにまさり咄にも成難し、日本一の橋なり、

具也、あらまし爰に写す、

橋の先うどんやに寄り、うどんを喰、まんちうも有り、絵図求る也、橋ぢ先ハ大身御家敷にて旅人ハ参る事ならず、夫お船に帰る、此道筋すへて田畠にて、くさいころしこへを遣う、匂ひ甚あし、汐時能く直ニ乗り出し、暫く行、宮嶋に着く、まわり七里の嶋なれば、めぐり遠し、町の下に船をつけ、先ツ宿を取、三人ハ上る、其余ハ船住居也、ミナ風呂二人、御宮参詣、汐時能く、鳥居をくづり参る也、鳥居楠の丸木にてまわり五かいほど有る也、誠に日本一の景色の宮にて、絵えもまさり見事成事也、絵図ハ求おく也、くわひらふ長く、画馬計り也、本社いつく嶋大明神、大成る宮いつきしま大明神なり、拝殿にかかりたる絵馬多く、古筆にて常信など画多し、金地にて横毫間式間位成画はかり也、此所くわいろふ□楊枝店段々有り、土産少求る、夫お千疊敷見物に参る、高き所也、からんも有り、夫お町内見物巡る也、楊枝店多し、又多きものハ鹿のしシ也、

(嚴島大明神図)

あらまし爰に写、甚くわしくハ絵すり求置也、夫お宿帰る、然処筑前御船参り居申二つき津口寄、八次殿、傳次郎殿宿に参る、能き便につき、土産物送り書状遣也、

楊枝向むかなる船津や源吉殿方かた求る、品よろし、

宿△宮嶋町、万速屋久兵衛殿  
きちゃん八十文、米六十六文也、

同十二日 雨天

此日宿の若亭主案内者に雇い、雨天故ちん錢百二十文、久留米同行衆同道にて御仙に掛る也、先ツ少登り、弘法大師の石佛有り、法花とふ有り、夫お火消しの不動有り、瀧の宮大明神社有り、祇園社有り、年徳神の社有り、逢善明王の堂有り、藥師堂有、又不動尊有り、白糸の觀世音、色糸の瀧有り、大師の御心也、夫お山を登り、中の堂に休ミ、暫く行、岩家の薬師有り、夫お登り千疊石有りて二王門に着く、此所三茶店有り、一とつまミなるもち有り、力餅と言、しゃく也、夫お登り、幕石有り、水掛け地蔵有り、奥に弁才天有り、夫お大日如來の御堂に着く、爰に札

を納メ、是これ巡る也、初にかくはん上人の石佛有り、上に船石有り、札乞乃弥陀有り、目洗の薬師有り、汐の満干の知る岩に穴有り、日輪月輪の尊像有り、夫お折ゑぼしの岩立てゑほしの岩地の神大明神の拝所鳥居有り、是宮嶋の外宮也、ミろく菩薩の堂有り、湯どの山権現の社道細き社なれとも天下普請なるよし、高野山四社大明神拝所鳥居垣六地蔵の堂有り、飛杉と言杉の木有、大木也、此杉切らねながら根をおろし、栄へ居る也、脇に切り株ハ有り、不思儀なる杉也、上に重ね石と言大岩有り、此上にてごま御たき被遊跡とふ有り、夫お下に十一面觀世音堂有り、女意輪觀音の堂も有、正直正傳の堂有り、白山権現の社有、岩家の不動有り、かな佛也、上に大師御つまミ出しの岩有り、岩屋の地蔵有、紋石有り、右の上に毘沙門天の堂有、かけ作りにして大そふなる普請也、夫お下り平の宗盛卿御建立の釣り鐘有り、文殊菩薩の御堂有、大徳明王の堂有り、伊勢大神宮拝所鳥居有り、地主こくうぞぶ菩薩堂有り、熊野権現の社有り、ゑんの行者の堂有り、三宝荒神の堂有り、夫お本堂に参る、能き程の寺也、本尊こくう藏くらばさつ、脇立十一面觀世音、左同千手觀世音何れも大師の御作也、右脇に飛ひ不動様有り、千年岩国火さいの節、御飛被遊、此所三御出有り、其後御帰たても又々御出被遊候よし、不思儀の靈像也、きゆうの木の薬師様、同不動様大師御作也、三みこふ石と言石佛はやり、右二タ品ハ開帳なくてハ拝む事ならず、くりの様成所ニ参り、三鬼神様拝所有り、尚又大神宮様両脇荒神様大黒様也、右の方に弘法大師御かち水有り、石いし吹出居申也、ひやうげのかやと言かやの木有り、大師御植被遊し木成よし、夫お本堂の内にて御茶をいたたく、此いろりの火葺大師様御たきつけ被遊しし此かた一向消へすして只今迄つづき有よし、仍て右炭受帰る也、夫より奥の院三鬼神權現様参詣三社也、此所拝しおわり御山下る、帰ニ座主坊の庭見物、雪舟の作成よし、大聖院と言、此寺内に不動様御堂有り、大師様有り、夫お宿に帰る、御山登り十八丁有る由、夫お昼飯仕廻風呂に入、又御宮参詣、絵馬ともゆるく見物し、夫お住吉大明神参詣町はつれなる大元様参詣、暮比宿に帰る、

道歩行一里ばかり有へし 宿△同人

同十三日 雨天

船出されす、又々同所に逗留、余りひま有りて、淋しさのあまり、船△荷物取寄、宿に少画を書き遣す、然處近所△段々見人多く、ミな唐紙持参り頼人多し、昼比迄墨画数々書く也、其内船津屋源吉と言人△右禮として見事の楊枝数々一包被遣候也、其後昼寝共致し、寝さめにおかしき事あんじ出し書附、亭主に見せ笑ふなり、

同十六日 清天

米六十四文、ふとん代廿文、

ミせん迄ももふてて、たれもまんぞくや、雨にはかりはあきの宮しま

宿同△

御仙に参りし事ハ同行中まんそくにおもへとも春雨ふりつゝき、こんきうにおよひ候ゆへにかく言しなり、宿の門名まんぞくやと言をもちて、

同十四日 清天

早朝宿立、船に乗り、風能く廣嶋を左はるかに見流し通る處、風かわく何分船登らず様ニ成り、野海嶋と言嶋につけ、飯などたき磯邊ニ上る、追風を待ツ也、爰につきし事五ツ比、今八ツ下りにもなり、あまり大見つにおよひ候ゆへ船頭に向い、

風ハなぎ日和は晴るゝ世の中に、何とて船ハ出さざりけり  
など言ひ、大に笑ふなり、夫より一向のなぎになり、おし船にて暮比おんどの瀬戸を落し、其夜ハ同所ニ留る月夜につき岡に上り、町内見物に参る、此所漁人わらなれとも中に大ふげん者五六軒見へ、たひそふ成る普請也、此内二軒ハ殿様御なりも有よし、御成御門などげんちうなる構へなり、真宗の寺有り、能き普請也、爰にも参る、出はなにハ御番所有り、其脇少はなれ、海の中に石かき有り、是則平の清盛公御基也、くるり玉垣にして石灯籠有り、橋を渡り、爰に参る、夫△船に帰る、

船△おんど泊り

十五日 清天

未明△おんとを出し、一向風なく暫く行、小嶋有り、一寸つけ休ミ、夫△少行、からおどと言嶋につけ休也、風まきりにて漸七ツ時伊与の国三ツヶ濱に着くなり、先問屋に上り、裏座敷を借り、風呂ニ共入、爰に留る、能き町也、

此夕福川船頭殿船△相渡、両替共致し、壱人前八十文宛出し、上り切手取也、國元立是迄廿三日ぶり、船中日和まんあしく九日かゝる也、

船路 宿△伊与国三ツノ濱、下松屋孫右衛門殿

福川△岩国宮嶋の様ニ巡り、凡五十里ばかり有り、

同十七日 清天

朝三ツの濱立、半道行、五十二番瀧雲山太山寺、初札奉納也、少の御山也、二王門有り、茶や七八軒もあり、寺も段々有り、本寺にて納経取也、御札所そばにも

御門有り、本堂至而大く、御本尊十一面觀世音、右に大師堂、稻荷堂有り、宝經とふも有り、左か茶堂也、此所に接待有り○赤飯にしめ也、此主北川原村政左衛門殿と言人也、○さかやきのせつたひ有り、○かふの物の接待有り、夫△下る道に大日堂地藏堂へ参る、夫△茶や二休ミ又半道はかり行、馬木村にて、五十三番須賀山圓明寺奉納なり、御本尊阿弥陀如來御門這入左ニ大師堂有り、宝經とふり茶堂有り、爰にもせつたひ有り○白飯にして干大根のにしめ也、同○さかや「き脱力」も有り、茶堂右の方に有り、夫△堀り江と言町を通り少行、濱邊也、夫△少山かゝりにしめ也、川原村△の持出し、夫△柳原と言を通り少行、北條夫△少し山を越、朝浪村に着く、七ツ時百姓家に宿借り留る、尤筑後五人、宮市三人一同也、夫△風呂をたく也、

道五里 宿△朝浪村、金左衛門殿

此日御札式枚、接待六ツ也、木△十五文、米六十六文、ふとん廿文、

同十七日 清天

朝浅浪村立、宮市同行少足いたむにつき跡に残る、少行、本谷村源藏と言人の方にて、

○赤飯、かふのもの、せつたひ有り、夫より濱邊行、道筋かわら焼き多し、夫△菊間の町藏元嘉右衛門殿、正七知る人なるにつき立寄り休む、段々所持なり故少御わけ、四國にてハ弁當中喰など申事ならず、御わけと言、是大師様御邊路の節△言ならわせ也、此所も町也、是迄三里、夫△たね村さがの町通り少行、道はたに大師堂有

り、此所を押し少行、大井新町にて休ミ御わけ、夫ぢ行、あかた村、**五十四番近見山延命寺奉納也**、本尊不動明王御門有り、左大師堂也、夫ぢ一里行、**五十五番別宮大明神奉納也**、是大三嶋の前札所也、脇に大師堂有り、宝經院とふ有り、前に松の尾の社摩利子天の堂有り、寺の内に金毘羅宮有り、夫ぢ今ばる御城下に参る道にて、来迎寺参詣、夫ぢむろ町に参り、せんこんに宿をもらい留る、七ツ時風呂やに行、戸棚風呂也。

道六里 宿△今治むろ町、山田や四郎右衛門殿

此日御札武枚、撰待一ヶ所也、米六十四文、能き宿なれとも夜具なし、ござかつミなど着、夜を明す也、

同十八日 清天

朝今ばる御城下町内見物、夫ぢ出、別宮の茶堂にせつたい有り○赤飯、かふの物也、野田村中の持出し也、夫ぢ一里武丁行、**五十六番小泉村金輪山泰山寺奉納也**、本尊地藏菩薩、大師堂一所也、夫ぢ今原村通るなれも、繩手大官也、そふさ川を渡り、**五十七番榮福寺石清水八幡宮奉納也**、本尊阿弥陀如来、少下り大師堂、寺有り、泰山寺ぢ十八丁也、此所少の急坂にて、夫ぢさ礼山に掛る也、此御山抜けわしく、登り廿丁有り、夫ぢ登り、寺の前茶堂にて御わけ、又暫く行、急坂也、**五十八番作札「山仙遊寺脱力」奉納也**、本尊千手觀世音菩薩、此道に大師御かちの水有り、御札「所脱力」に出茶や有り、うどん、あんころ餅有り、夫ぢ下向道、急坂を下り、**二夜村通**、松木村庄屋殿方に寄り休ミ、又少行、川土手に休む、此所にて桧濱正助殿追付也、夫ぢ少行、**五十九番金光山国分寺奉納也**、本尊薬師如来、此前茶やにて御わけ、あらめあきとふ吸物有り、能き御札所也、御門有り、右に釣り鐘堂有り、大師堂有り、大成木像也、夫ぢ半道余り行、桜井の町と言有り、爰に留る、七ツ時、此日筑後同行衆ハ国分寺ぢ先に参る也、

道四里 宿△桜井町、鍛冶屋嘉兵衛殿

御札四枚、撰待壱ヶ所也、きちんと十五文、ふとん廿文、米六十六文、

同十九日 清天

早朝桜井立少行、道端に茶堂有り、此所にて○焼米のせつたひ有り、并ニ〇さか

やきなり、長井村ぢ夫より少行、六軒茶やにておわけ、豆腐吸物あり、夫ぢ楠村通る処、寺に開帳有り、本尊薬師如来様也、寺内に段々見立細工の出しなど出来、芝居も有る模様也、夫ぢ村はづれに茶堂有り、其下に白井の水と言、大師御加持の水有り、むかし弘法大師御かぢの節、水中に諸佛御来迎ましく、五色の雲たなひきしよし、今に其跡残り、しづんと五色の御光ウあらわれ給ふ、誠に有難き事也、夫ぢ暫行、生木地蔵様参詣、楠の大木の中ニ大師御ぎざみ被遊、誠に靈現

あらたなる尊像也、此上少山にて福岡八幡宮と言、爰にも参詣、茶堂にて休む、焼もち有り、夫ぢ田野川通り、夫ぢ大戸川原通り、大戸の町にて御わけ、此時九ツ半比、未た早きにつき、此家に荷物預置、横峯山にかかる也、是ぢ百丁の御山也、急坂多く、七ツ半横峯寺に着く、此道之中ばかり前は家も少あて有り、餅など売る、夫ぢ先家地なし、御山九合目に出茶や有、ところてん、もちなど有、夫ぢ少登、**六十番横峯寺奉納也**、本尊大日如来、大師堂一所也、右手に宮有り、石鉄山藏王権現前札所也、両所ともに御札納め寺の前にて一寸休む、しん、もち有、夫ぢ急き山半分下り、日を暮し、ちやぶちんにて大戸の町に帰る、殊之外難儀也、夜五ツ比宿に着く、参りかけ、風呂夕飯頼置く、仍而直三風呂入、夕飯仕廻也、

道合て九里余り 宿△大戸町、中嶋や甚藏殿

此日御札壱枚、撰待武ツ也、きちんと十二文、ふとん廿五文、米六十六文、

同廿日 雨天

早朝大戸町立、壱里計り行、**六十一番梅檀山香園寺奉納也**、夫ぢ八丁行、小松の城下通り、**六十二番**一の宮奉納也、寺を宝寿寺と言、夫より新屋鋪村の町を通り、暫行、ひみ村、**六十三番密教山吉祥寺奉納也**、是迄七丁御寺寄麗成事也、御本尊毘沙門天、左に大師堂有り、何れも御札所脇に大師堂、茶堂有る也、一の宮茶堂によりき餅有り、此所茶堂に休御わけ店有り、正信すし、けんちやん吸物有、此村内少入込、大師御加持の水有り、先年大師様此所にて水を乞給ふ時近くに水なく五十丁ばかりの所ぢ水汲差上候女有り、其御札として此所ニ水をさつけ給ふ由、所の人乃咄に聞く也、故に一村一ヶ所の水也、夫ぢ少行、西泉之村通る、此所に大

師御管松の葉り茶のじやふ接待也、此家より遍路壱人に葉一粒宛遣し被申也、求候へ  
は一貼廿五納、夫ち少行、**六十四番**前神寺奉納也、寺を里寺と言、四国一の福寺成  
由、扱も寄麗成御寺也、御札所高き所に有り能き御宮也、是も石鉄山藏王権現様  
也、玉垣るる未た成就にならす、御宮近くに立し様子にて景色能くけつこふ成盡  
地也、大師堂ハ少下ニ有り、是迄廿丁、馬場有り、前に茶や段々有り、夫ち少行、  
須の村と言所有り、爰に大師様御むそふの水有り、此水にて風呂をわかす茶やあ  
り、入人多し、宿屋也、爰に不思儀有り、京都大佛の前常松と申いたり、此湯ニ  
入足立帰り候よし、車ハ御水堂に有り、夫ち庵仲村通り少行、大川有り、賀茂川  
と言、夫ち西条之内大町通る、入口にせつたひ有り○赤飯、かふのもの也、右ハ  
此町女中衆中の志也、夫ち少行、町はつれに宿借留る、八ツ時、  
当吉祥寺ニて筑後同行衆出合、又此方先に成也、

道三里半 宿△西条大町、澤屋新兵衛殿

此日御札四枚、接待葉共二ヶ所也、きちんと十五文、ふとん廿五文、米六十六文、

同廿一日 小雨

早朝宿立、八丁行、福竹村、夫ち暫行、芝山村、此迄一里也、此処にて御わけ、  
夫ち大正井村通り、しづけ川を渡り、素牛村茶堂にて休む、此そばに大成宝經院  
とふ有り、夫ち又川を渡り暫く行、角野村入口蔵右衛門殿方ニ寄休ミ、夫ち少行、  
石流川を渡り、船木村通る、是より道々茶や多し、関の茶屋にて御わけ、夫ち上  
野村、大師堂有り、爰にも参詣、夫ち土居村庵に休む、夫ち小林村茶堂にて六字  
之御名号、千枚札出る也、是ハ猶江戸ニ十三番ちゝぶ觀世音寺より日本國中の諸人  
江ほどこしのため被遣候也、此御札受夫ち少行、つね村と言處にせんごん宿有由、  
道端の家より教られ此所ニ留る、能百姓也、風呂をわかし入る也、かめ風呂、

道五十丁入六里 宿△常村、久兵衛殿

家内段々念比に申され候ニ付、画を書遣スなり、

此日御札、接待なし、米六十四文、

同廿二日 清天

朝、宿より干大根のにしめとも被下候ニ付、朝飯仕廻置也、此所立、同村の町を通り、夫  
ちおさだ村、夫ち豊田村ミナ大官也、此所茶やに休む、そは切有り、夫ち三ノ川村  
中の店、段々村多し、皆在町也、夫ち三角寺道、右に入込、中ミネ村、茶堂にて、

○唐豆、にしめ、接待有り、当庵より、夫ち暫く行、柏村茶堂にて御わけ、是迄  
在村段々有り、此所より山にかゝり暫く行、**六十五番**三角寺奉納也、右に大師堂有  
り、寺内廣く西国三十三所石佛有、唐かね入地藏尊有り、其外堂も段々多し、此

茶やにて御わけ、豆ふ、ちしやたし、吸物有、是より奥の院に参る道三拾丁ばかりきび  
しき急坂也、夫廿丁下り庵有り、出茶や有り、此所ニテ又御わけ、わらぢ、吸物  
有、もち有り、夫ち八丁至而急坂也、是を下り、○奥の院金光山御本尊奉拝也、

夫ちわらしをぬき、足を洗ひ、本堂に参る、入口くわひろふにして二階作り也、  
下タハさつせきのほきに石垣をしけ作りの御寺也、是弘法大師の御建立の由、  
寺の下より瀧の水落、谷深くして樹木茂り、せひくとして誠に不思儀の靈地也、

本堂の上に阿弥陀堂有り、本堂弘法大師様此所御在寺の時御年四十式才、紀の国  
高野山江趣給ふに御姿手つくりよきぞませたまひ、高野山ハ女人きんぜひなるに  
より、女ハ此所を高野とさため、諸人爰に詣る時は高野山へ参りし同ぜんたるよ

し、故に女高野と言、此時七ツ時、夫ち通夜致す也、墓所も廣き事にて何百人通夜

するとも差間なき様、世話人大勢かゝり飯をたき何か致し筈候也、風呂も立也、

此夜も七八百人の通夜にて賑しき事聞しまさりたる仕掛け也、毎夕御ゑんぎ有り、

其上大師様御木像開帳、扱も有難き事也、其跡にて御札を受る、當同行中ニ而御

膳上る也、此所寺内に米店有り、其外焚壳店有り、吸物持參り売也、

道五里半 △三角寺奥の院、金光山御通夜  
此日御札一枚、接待老ソ也、  
米ハ別の町にて買ゆへに六十四文、

同廿三日 清天

早朝奥の院立、八丁登り、茶屋にて御わけ、夫ち暫く下り、六軒茶やにて休ミ、  
夫ち少行、又茶やに休ミ、夫ち下山村之内、ひらきの茶やにて御わけ、こふ、とふ

ふ吸物有り、○もち有り、夫ろ下山村通り、暫坂有り、すへて山道なり、夫ろ雲邊寺の麓なる佐野村庵にて休ミ飯をたき、夫ろ御山に登る也、此御山登り、五拾丁下りも五拾丁也、殊之外急成坂にて漸ハツ下り御寺につく、すへて坊主山ニテ御札のあたりハ樹木しげし、**六十六番**巨鼈山雲邊寺奉納也、是カ讃岐の国なり、坂急にして至而長し、讃州一番の高山也、此所に御接待段々有り、赤坂かふのもの也○○武ヶ所有り○さかやきも有り、ミなはくち村ろの持出し也、此外三ツ四ツも有りしよしなれとも参り様おそくミな仕廻帰りし也、御本尊千手觀世音菩薩寺のそばに御堂有り、大師堂ハ少右に入込、茶堂釣り鐘堂など有り、夫ろ裏成下向道甚免坂を下り、暮比庵に着く、此所ニ宿借り留る也、風呂わき入也、豊後同行向ふの家ニ留る、

道六里 宿△栗井村大師堂

きちん十五文、米六十六文、夜具なし、殊之外難儀也、尚三角寺通夜ろ又筑後同行一所也、御札一枚、接待三ツ也、

同廿四日 清天

早朝庵立、少行村有り、大師堂の前にて接待有り○赤飯京芋の吸物也、同村中ろ也、夫ろ少行、**六十七番**小松尾山大興寺奉納也、御堂大にして大師堂ハ石たんの下に有り、本尊薬師如来左に茶堂有り、此所ニせつたひ有り○赤飯かふのもの也、廣地村ろ同○赤飯かふのもの也、辻村ろ同く○赤飯かふの物、汐井村ろ也、夫ろ二里程行、觀音寺の町を通る、至て能き町也、此所にて両替などし、橋を渡り、六十八番琴引八幡宮奉納なり、此宮見事成御宮にて景色言語に不及、暫休ミ裏なる濱邊に出、象が鼻と言岩有り、此邊高き所はて出茶やも有、下たハしら濱にて杉原也、爰にて瓦け投有り、夫ろ二丁下り、六十九番觀音寺奉納也、本尊正觀世音菩薩御寺かふくさん事にて奇麗成御普請中々書つくし難し、上に薬師堂有り、御堂大師堂ハ言に不及、右にミロく菩薩の御堂有り、濱下にみろく石と言石有り、是を開帳、其外堂も数々有、此所御開帳なり、御寺に上座御宝物開帳おひたゞしき事ニてミな夫々にゑとき有り、出しも有り、茶堂の脇に接待有り○赤飯かふの物也、同町入江彦右衛門殿ろ也、夫ろ町に下る道市立、芝居も段々有り、壱ヶ所

ハ藝子芝居、かるわざも二ヶ所也、壱ヶ所見物に参る、七才の男子也、前藝も有り、夫ろ此所立、扱も賑敷事也、壱里行、**七十番**七峯山本山寺奉納也、本尊觀世音菩薩、此所にて津屋崎跡連同行出合一所に成也、爰も能き御堂にて右に大師堂有り、至而大し、左ニ堂段々有り、御門有り、茶堂にて接待有り○赤飯かふの物也、大村註ろ持出し也、然處爰にて年比の女中一人せんごんにて宿貸し申し度よし被申ニつき同道致し参る、一里計り行田舎にて至而難儀成所也、ミなあばら家成故二十四人三軒にわかれ留る、

道五里 宿△下モ高野村、千歳殿、卯兵殿、小平殿

御札四枚接待五ツ也、此夜夕飯たかず、せつたいにて仕廻也、

同廿五日 雨風

同日朝下モ高野立壱里行、木地中村茶やにて休ミ夫より暫く行、高瀬村夫ろ落合通、此所茶堂に接待有○赤飯ごま塩也、庄内の内津の浦二ヶ所ろ也、一ヶ所も○同様大京成持出し也、夫ろいや谷御山にかかる、此道々石に佛の形段々切附有り、右ハ大師様御七才の時御遊事に切附為ふ由、御寺の当り五りんの形ちなと段々切為ふよし、御札所又高き所に有り、道々岩屋多ク不思儀也事多し、十王の堂有り、西国三十三所の堂有、夫ろ奥の院弘法大師様也、先上なる御本尊、**七十一番**剣五山弥谷寺奉納也、夫ろ奥の院わらしをぬき足を洗ひ上る也、此所大師御学文被遊候地成よし、先大師様拝し、御後になる岩家開帳、十二銅出る、此内御自信の御童像御両親様其外諸菩薩段々切附為ふ、誠に難有き靈地也、夫ろ少下り茶や有、爰にて御わけ、あけ、豆ぶ、こんふ吸物有、もち有、此道大成唐かね大日様御出来被遊由、段々道堂宮有り、夫ろ下る処雨風はけしく言語同断の難儀にて麓に下り少行、**七十三番**出枳迦寺奉納也、本尊大日如來、右に大師堂有り、夫ろ三丁下り、**七十二番**曼荼羅寺奉納也、本尊大日如來、右に大師堂有り、夫ろ少下り、寸度雨降り止ますゆへに此村に留る、跡連一同に也、ハツ時

道三里余 宿△吉原村吉次郎殿

此日御札二枚、接待武ツ也、きちん十五文、ふとん廿五文、米六十八文、風呂わりし入、

筑後同行も此村に留る、觀音寺らわかれ別也、

同廿六日 雨天後晴る

朝此村立、廿七丁行、**七十四番**香山寺奉納也、本尊薬師如來左りに大師堂有り、岩家の不動様有り、釣り鐘堂有り、茶堂に一寸休ミ門を出、石橋渡り十丁行、屏風ヶ浦**七十五番**普通寺奉納也、此所大師様御誕生の地につき御寺御建立有り、御寺けつかふ成事、中々書つくし難し、大師様御堂大にして右脇に御両親御木像有り、左りくり也、右に長き堂有り、数々佛様有り、茶堂有り、左に御影を写し為ふ、池有り、夫ろ御門を出、本堂の間暫く馬場也、御本尊薬師如來前に大からん有り、二里手前も見る、是四国一にて上方にも聞へしからん也、見事なる事書つくし難し、其外堂寺數多有り、此節ハ大師御入場の月也故市立、前後の茶や迄も賑敷事也、参詣多し、尚細き堂の内に大師御一生の画掛物にてかけ、ゑとき有り、扱も有難き事多し、寺の内にて接待有り○引わり飯也、備中の國ミな木村らの持出し也、夫ろ此町茶やにて休ミ御わけ、豆ふ吸物有、夫ろ金毘羅道段々茶や多し、尚又跡連同行衆ハ此日も先に遣す也、暫く行、金毘羅の町に着く、普通寺も一里半、入口すへて煮壳や也、爰に宿取荷物預置、御宮参詣町至而長し、大門の前坂にしてすべてあめや也、夫ろ前一町ミな宿やなり、中にも大成宿や多し、大門の這入暫く行、座主坊の前にて錢廿文宛、○接待有り、右備中國笠岡橋元や萬吉殿、紙屋茂吉殿、両人ら也、夫ろ雨晴事二つき、笠かつハ道はた玉垣にかけ置登る也、

同廿七日 清天

此節六十一ヶ年ぶりの御開帳にて扱も賑敷事也、大門、中門、御本社迄轍清道立続き何程と言數知れず、石壇、玉垣、石燈籠、金ナ燈籠數かきりもなく見事成寄進物多し、本社参詣、能次手有て金幣いたゞく也、御宮の下をくゝる、殿様御建立の品多し、此象頭山と言、御山の形か象の頭の如く成るゆへなり、左の方に観世音御堂有り、大して絵馬など段々有り、同絵馬堂有り、難船の画馬多し、夫ろ下に尚又堂宮数々有り、奥の院ハ十月十日の外参詣ならざるよし、下向道大成堂有り、数々佛様有、からん有、此縁に已然御神前かゝり居たるわに口有り、大サ枝に不及、夫ろ座主坊に至り御宝物開帳、足を洗、間内を通るなり、十二文宛出し、杖わ

らしハ預り、出口にまわし遣也、御宝物品おびたゞしく目も不及事成り、細ニ知書附求置也、其外見立、細工の寄進物多し、車こし拌、団扇尺丈鳥居などミな錢細工にて、間に壹歩小判、二朱銀などの類をもち、こしらへ奇麗成細工也、庭の方にハ竹垣をこしらへ、ミな錢の違垣也、尚金銀の色へきにつけ、此ひし垣にかけた有、おびたゞしき事也、傘の寄進ハ上にひしと釣り、何百と言数を不知、米炭薪等廣庭に積ミ、上ハ木屋掛也、夫ろ勝手玄関に巡り、御守を受る、御初穂百二十銅、夫ろ宿に帰り、暫く休ミ、芝居所ニ参る、かるわさ式ケ所有り、先大かるわざ元結渡り見物、前藝なり、面白き事也、又馬芝居見物中に女有り、至而上手也、狐釣り七ばけ珍敷藝也、其外見せ物なり、段々有、夫ろ宿に帰り其夕大芝居見物ニ参る、札錢銀四匁、内木戸壹匁五歩也、尚かるわざ、馬芝居ハせんこんにて見る也、宿の男子案内にて灯燈式夕張ともし、土佐の衆ともに入る也、入る也、此芝居大坂とふとんぼり火災ニ付、他国に参り不申役者段々参り、殊之外の評ばん也、先立役三升大五郎、市川團蔵、中山舎柳、女方山下金作など名高き名人也、其外能き役者段々下り、けいせひ忍の池稻田東藏と言ふたひなり、夜半過ぎ宿に帰る、

此町にかせや有り、大成る仕掛なり、見物に寄る、能き町也、夫ろ半道行、宇田津村、  
**七十八番** 佛光山道場寺奉納也、此寺高き所にして景色能き寺也、大師堂後に又  
高き所に有り、此前茶堂に○摂待有り、赤飯かふの物也、備前の国田の浦海老や  
松五郎殿、同國志輪「塙飽力」牛嶋平右衛門殿両人の持出し也、夫ろ此町に龜田やと  
言せんごん宿有る由聞、爰に参り留る、八ツ半比廣き所にて能き町也、裏座敷借り  
灸をすゆるなり、是迄しやく屋あまり不申處灸すへしる段々おこり申也、

道三里半 △宇田津町龜田や新七殿

此日御札三枚、摂待八品也、米六十六文、

此日とぶりに寺摂待数々有しよし、参る様おそく仕廻る分多し、

同廿八日 清天

朝又少灸すゆる也、五ツ比立少行、此町にて摂待有り○唐豆飯也、右者裏町中ろな  
り、夫ろさかいと言所を通る、此処塙濱多し、夫ろいじり村ニて休ミ少行、**七十九番** 崇徳天王寺奉納也、御宮崇徳院様也、大師堂左に有り、夫ろ前成る茶やにて  
御わけ、切干、吸物有、是ろ少きやくに打也、先少行、左に寺有り、金剛院と言  
能き寺也、本尊弘法大師、門の上に釣鐘有り、此寺大師様四十式の御年暫く御座  
被遊、其節山しんどふし大成石出たり、生石也、此石の上にてごま御たき被遊候  
よし、諸願此石にかくる也、夫ろ坂を登り白峯山にかくる也、此日しやく氣おこり  
殊の外難儀也、七八丁ハ甚急坂也、夫ろ登**八十一番** 白ミニね寺奉納也、此所古き御寺  
と見へ、大そぶ成御普請也、左りに御門有、此内大成御宮有り、白峯権現と申也、  
誠者崇徳院のミヤ御靈を奉祭たる由、御門参る道一の門、二の門有りよし、今ハ  
あと計り也、先の右兵衛の頭源頼朝公御建立なりし由、則御とふも有り、御山中  
英に下馬石有り、めやう成大名高家の人たりとも御宮近く乗り物ならず、御札所  
者高き所ニ有り、脇に大師堂有り、堂も段々多し、夫ろ寺の前茶やに休、夫ろ山  
を越、ねごろ寺にかゝる道、大師御水有り、暫く行、ちさき茶や有り、爰に荷物  
預置参るなり、すべて山坂にて漸七ツ比に着く、**八十二番** 青峯山根香寺奉納也、

本尊千手觀世菩薩、大師堂も有、石たん高くして景色能き所也、目下に高松の城

下を見下し、右にハ八嶋八栗嶺有りて、嶋々を見はらし、源平の古戦場なる故暫  
く見、夫ろ茶堂に休む、爰に摂待有○唐豆飯かふの物也、上才村の持出し也、夫  
ろ坂を下り、元の茶やに帰る、廿丁打戻り也、此所にて筑後同行女中三人に合速に  
わかれしよしつき、又々同行致し筈之様頼につき、是ろ同行となる、麓迄先に遣ス、此  
所にて御わけ、少にうめん有り、夫ろ一里ばかりけわしき坂を下り、途中にて日を  
暮し夜五ツ比国分寺村に着く、筑後同行先に下り、宿を取、飯をたき、風呂をわかし、  
道迄迎遣ス也、故に爰に筑後一同に留る、

道六里半 宿△国分寺村助藏殿

此日御札三枚、摂待式ツ也、きちんと十五文、ふとん廿文、米六十六文

同廿九日 清天

朝宿之少行、**八十番** 国分寺奉納也、本尊千手觀音ぼさつ、爰も大成御寺也、二王  
門有り、前成家にて休ミ、兩替などする也、夫ろ一の宮江参る道、中妻村にて接待  
有り○唐豆飯、かふの物也、同村ろ夫ろ暫行大師御水有り、夫ろ**八十三番** 神堂山  
一の宮奉納也、本尊正觀世音ぼさつ、大師堂右に有り、御堂の前に接待有り○赤  
飯、香の物也、○さかやきも有り、板本村ろなり、夫ろ前御宮なり、末社も段々  
有り、夫ろ仏生山参詣に参る、道々村多し、中にも至て大成百姓段々有り、名元  
を聞くに三木与市、別所八郎など言人也、夫仏生山手前町に参る、此日高松殿様  
仏生寺御仏參ニ付、茶や暫く待そふめん喰也、○当殿様御供弁當余りし由にて同行中  
に被下也、夫ろ殿様持む御供けんぢうにして御引馬ぬりミな三ツ葵の御紋附なり、  
夫ろ仏生寺参詣御門五重に有、御寺大そふ成事中く出つくし難し、御堂本堂奇  
麗にしてしやに仏の寝はんの木像開帳、それより茶やに帰り、林村など言所を  
通、北村と言所に着く、此村留る宿せんごんなり、風呂をわかし入、

道四里半 △北村次太夫殿

此日御札式枚、接待四ツ也、米六十四文

四月朔日 清天、朝少雨

北村立少行、春日川を渡り夫ろ新川渡り、道々茶や有、甘酒などうるなり、夫より

合引の塩濱通り、八嶋の麓なる片元村茶やにて御わけ、切干、とふ吸物有り、夫

より坂十八丁登、**八十四番**南面山屋嶋寺奉納也、本尊千手觀世音菩薩、馬場廣く

二王門有、堂も段々有、右奥に大師堂有り、茶堂に休ミ夫ろ打ぬけ坂を下り、潭

道壺里 △長尾町理右衛門殿

朝宿立、壺里修行、茶やにておわけ、夫ろ**八十八番**醫王山大建寺奉納也、本尊藥

筑前に毎度下り候由、是ろ直ニ博多の様に参り被申候ニ付、書状にても遣様ニと

の事にて手紙書遣也、夫ろ少下り松原に佐藤次信の御墓有、夫ろ潭の浦すさき寺

参詣、本尊正觀世音ばさつ、弘法大師の御作也、此寺ハ古き寺にて源平合戦の時

ろ有りし由、茶堂に休む、大師御腰掛の石も有り、夫ろ八栗坂登る也、是ろ三十

丁余り急坂なり、**八十五番**八栗寺奉納也、此所も山上にハ大そふ也御普請にて、

朝宿立、壺里修行、茶やにておわけ、夫ろ**八十八番**醫王山大建寺奉納也、本尊藥

物預置、夫ろ竹林様参詣、十八丁有、此日又しやく氣おこり、甚難儀也、此竹林和尚

と言人ハ去ル寛政年中に此所にて入場有り、故に竹林大ばさつと言、靈驗あらた

なる事多し、爰にて足立し、いさりも段々有由、持チ下駄など玉垣の間に上置た

夫ろ谷合をぬけ二保山と言處三觀音堂有、大師御作の御本尊也、前に大師の御腰

掛の石有り、此所茶堂に休ミ夫ろ与田山村通、段々川多し、夫ろ暫く行、白鳥村

御堂大にして右の向ふに大師堂有り、數々堂茶堂有、入口二王門にして右へ構

へ内御寺也、昔此所にて大しよくわん鑑定公海士を持、龍宮の玉を取せ給ふ、海

士の墓此所に有り、夫ろ町に参りせんごんにて宿をもらい留る也、此時七ツ半風

呂をわかし入る也、此所能き町也、

道四里 △志度の町扇屋嘉助殿

此日御札三枚接待式ツ也、米六十六文

同二日 清天

四国にて灸する事大師様御きらいなるよし、是を知らずゆへに前日夫ろ癪氣手強お

こり居と二付、昼過迄同所逗留、かゆなどこしらへ休むなり、外の同行ハ町内しゆ行に

参る、夫ろ立壺里行、**八十七番**長尾寺奉納也、本尊聖觀世音ばさつ、左に大師堂有、

門前ミナ宿や也、此町に宿借留、此道に茶や有、見事の藤棚、爰にも暫休、

山邊上り櫛木村通り少行、店に休ミ、夫ろむやの内秋の神と言處に暫く休ミ、御

此日御札接待なし、米七十五文

同五日 朝小雨、昼ろ晴る

早朝ひけた立、夫ろ濱邊通暫行、暮の浦御番所有り、日附を取、是ろ阿波の国也、

夫ろ内野村酒やにて御わけ、此邊すべて濱邊也、夫ろ鳥が丸と言處を通り、しや

く王谷と言處、濱邊の家にて御わけ、夫ろ又濱邊暫く行、すべて小石計也、夫ろ

道五里宿△長野村万左衛門殿  
此日御札接待なし、米七十五文

同四日 雨天

宿立壺里余行、道ばた家にて御わけ、雨ふり世話しき事なり、此前後村々すべて

砂糖を作る、夫ろ一里半計の間山坂谷合にて多きもの有、鳶時鳥也、至而難所也、

夫ろ谷合をぬけ二保山と言處三觀音堂有、大師御作の御本尊也、前に大師の御腰

掛の石有り、此所茶堂に休ミ夫ろ与田山村通、段々川多し、夫ろ暫く行、白鳥村

通少行、道は茶やに休ミ、まんちう有り、夫ろ半道計行、白鳥町茶やにて御わけ、

豆腐、干大、わらひ、吸物有、夫ろ白鳥大神宮参詣、能き御宮也、御門くわいらふ

有り、馬場長し、町も能き町也、夫ろ一里餘行、ひけたの町に着く、此時八ツ半

比雨風はけしきにつき、宿借り留る、ぜんごん宿也、二軒に別れ、筑後同行三人

ハ壺軒方ニ参る、千軒の所にて能き町也、

道五里余宿△ひけた町金光や源吉殿

此日御札接待なし、米七十五文

わけ、此所鳴戸見物に船借積なれども汐時あしく故に先に行、夫ら立少行、黒崎と言處に宿借とまる、内築後三人此方連武人ハ廣寺に留る、此所船着にて能き所也、道二も塩濱多し、宿うとんなり、七ツ半比風呂参る、

道五里

むや黒崎はりまや惣八殿

此日御札撰待なし、きちんと五十文、米七十文

同六日 清天

朝九人六十文にて船を借り、三ツ石と言處に附而此處みな塩濱にて廣キ事也、夫ら鳴戸の様子参る也、夫ら山を越、道もなき如き海邊を通る、殊之外難所也、大げと言所にて休ミ又山を越、半道計白濱なり、夫ら鳴戸手前家に荷物預置見物に参る、此日又癪氣つよくおこり大に難儀也、山を登り少下り又登り、鳴門の上なる平地殿様御しやふらん場有、爰にて見物、日本一の瀬戸にて嶋々の模様景色能所也、しかし小汐の上汐時あしくミち汐にて、格別の見物にならず、さりながら遠国らわさと見物に参る事ゆへに爰にあらまし写置く、

阿波の国、鳴戸満汐の景、左に印置く  
海丈計八段出来也、尚満汐の節ハ左りに流レ、干汐の節ハ右に引落ス也、

(鳴戸図)

夫ら元の家に戻り御わけ、此家普請有り、此日むね上の様子にて茶など出し被申候、夫ら濱邊傳へ一里行、土佐泊りと言處を通る、是迄在村段々有り、夫ら渡しを渡り、五文也、黒崎と言所を通、此所麁屋にて御わけ、生麁様々有り、夫ら少行、又渡し有り、式文、夫ら黒崎の町を通り、夫ら少行、四軒家と言所有り、此處町にて廣き事也、通り筋至而長し、夫ら町繞き木津と言處、金毘羅宮有、能き御普請也、夫ら少行、大城村、此道大官にて家続き茶やなど多し、此時七ツ過ぎ、此所に宿借り留る、せんごん也、

道四里半 宿△大しろ村文右衛門殿

御札撰待なし、米七十六文

同七日 清天

是ら十番御札迄十里十ヶ所と言、朝立少行、姫田村通り暫く行、東坂村通り、第一番笠和山良善寺奉納也、本尊釈迦如來御門有り、大師堂有り、此所に撰待有り、○赤飯、かるのもの也、大根村中ら是迄一里半余、馬場長し、手前茶やにて御わけ、豆腐、吸物有、夫ら十丁行、第二番日照山極樂寺奉納也、本尊阿彌陀如來御堂高き所に有り、景色能き御寺也、右に大師堂有り、石壇下に茶堂其外堂も段々有り、

御門ハ暫手前に有り、是ら打ぬけ廿五丁程行、極樂寺石燈籠旧跡連日行、書付有り、

夫ら第三番金泉寺奉納也、本尊しやか如來、唐門這入、右寺にて作り松など見事也、左り茶堂にして、向ふ御札所也、但シ大師堂所夫ら打ぬけ、此道大師あづき洗の池有り、水の色小豆洗し色也、夫ら第四番黒巖山大日寺奉納也、本尊大日如來、是迄一里此所五六丁程ハ打戻りにつき、道はた家に荷物預置参る也、道に大成からくねの地藏様有り、夫ら茶やに帰り御わけ、豆腐吸物有、夫ら十七八町行、五百らかん有、爰に参詣、御堂大にしてミナ瓦ふき也、外白かぶにて三所高き堂にして其間者長家心にて巡る也、其所にらかん佛木像ひしと立並へ、五百体の木像ミな人ほど有り、さいしき見事にて大そふ成事、中々咄にも成難し、高き所にハミろくばさつ、真ン中にハ阿弥陀如來、左にハ弘法大師、此御木像ハ三たいハ御居せい壱丈四五尺も有るべし、御堂一はい有り、上方にも是ほどらかんハなき由、凡日本一なるべし、夫ら少下により、第五番無盡山地藏寺奉納也、本尊地藏菩薩、御堂大にして寺も能き御普請也、此所茶堂に休ミ夫ら門前に出、少町也、ミな宿やなり、爰に宿取留る、七ツ半時、

道四里 宿△矢竹村本藏殿

此日御札五枚、撰待壱ヶ所、きちんと十五文、米七十文

同八日 清天

早朝立、暫行、鍛冶や原と言町に休ミ、夫ら又暫く行、第六番温泉山安樂寺奉納也、本尊藥師如來、大師堂一所也、御門入少馬場にて左り茶堂、爰にて御わけ、能き御寺也、是迄一里夫ら十丁行、第七番光明山十樂寺奉納也、本尊阿彌陀如來、夫ら少行高ミに地藏堂有り、此所にて御花の水をいたス也、歯のいたミを去ル、

楊枝出る、夫ろ少行、**第八番** 普明山熊谷寺奉納也、爰に入芦屋連三逢ふ、本尊千

手觀世音ぼさつ、是迄一里、此所門前に茶や有、爰に荷物預置、御札納る也、よ

ふ門有、暫く馬場にて左に大成からん有、夫ろ少行御堂高き所に有、大師堂有、

堂も段々有、寺能き普請也、夫ろ茶やに帰り御わけ、あけ、とふふ、こんぶ、吸物有

り、こんにやく、てんかくも有、夫ろ少行、道ばた茶堂に接待有り、○赤飯かふの物

也、○さかやきも有り、ミな柿の原村ろ也、夫ろ少行、**第九番** 正覺山法輪寺奉納

也、本尊釈迦如來、御堂大く右に数々佛像有り、爰に卯月八日の事成故、花ぶき

堂有り、御うぶ湯の茶をいたゝく、夫ろ廿五丁行、十番得度山切幡寺奉納也、本

尊千手觀世音菩薩、此寺茶やろ六丁の打戻りにつき、茶やに荷物預置参る也、道

に大師御加持の水有、夫ろ參御堂石たん高く大師堂右に有り、夫ろ帰り茶やにて

御わけ、夫ろ道々村多し、暫く行、大川有り渡し有り、先初に川を渡り少行、渡

しを渡る、此川芳の川と言、阿州一番の大川なり、渡しハぜんごんなり、夫ろ暫

く行、村続きなる故、段々宿借處一向宿なく漸暮比敷地村に宿借留る、暮六ツ時、

道四里半 △敷地村店五一郎殿

御札五枚、接待式ツ也、きちん廿文、米七十八文、ふとん廿文

同九日 清天

是方燒山寺迄百五十八丁打戻りにする也、早朝起宿に荷物預ケ八丁行、金ごふ山

**十一番** 藤井寺奉納也、本尊藥師如來、左に大師堂有、茶堂にて御わけ、夫ろ燒山

寺、坂にかかる、殊の外難所也、三十丁余り、坂を登り、茶やにて休ミ、まんちう

有、夫ろ又少行、同茶やにて休む、もち、まん中有、夫ろ暫く山を登り峠に一本坂

有り、家も有り、此所大師御休ミ被遊候所也、夫ろ暫く行、柳の水と言有り、大

師堂茶堂有り、此所大師御楊枝御立て遊し候處直様芽出、今ハ大木と成たるなり、

是迄藤井寺ろ四十丁、爰にて御わけ、夫ろ少行、坂廿武三丁程下り、茶やにて休

ミ、夫ろ御山登り、十八丁急坂也、本尊ごくうぞう菩薩、**十二番** 燒山寺奉納也、

大師堂一所、夫ろ少下り、道はた堂に休ミ、夫ろ元の茶やに帰り御わけ、わらひ、

吸物有、夫ろ急坂廿丁余り登り、下り坂も有、夫ろ下り元の敷地村に着く事、暮六

ツ時、是れ四国第一番の高山なり、

道六里十六丁、此辺五十丁一里也 宿△同人

此日御札式枚、接待なし、きちん米同、此宿蚊屋なく甚難儀也、

同十日 朝小雨、昼ろ晴る

此日少行、伊野村通り、夫ろ三地村、段々村多し、道ばた茶やニ休ミ、夫ろ暫く

行、山を越、又暫行、川を越、**十三番** 一の宮大栗山大日寺奉納也、本尊大日如來、

大師堂一所也、夫ろ御宮に参り、夫ろ茶やにて御わけ、あらめ、あげ、とふふ、吸物

有、鶴到而多し、夫ろ又川を越、少行、**十四番** 盛寿山常樂寺奉納なり、本尊弥勒

菩薩、右大師堂也、夫ろ手前茶やにて休ミ又少行、**十五番** 藥王山國分寺奉納也、

本尊藥師如來、右に大師堂有り、此所ニテ安産不淨よけ守出ル、此間十八丁、夫ろ暫

く行、**十六番** 觀世音寺奉納也、本尊千手觀世音ぼさつ、此所町也、御門入、右に

大師堂有り、左に茶堂有り、夫ろ前成茶やにて休ミ御わけ、そはやなり、又十八丁行、

**十七番** 井土村妙照寺奉納也、人ミな井土寺と言、本尊藥師如來、一二王門至而大く

大成御寺也、右に大師堂有り、左りに見事成作り松有り、夫ろ少行、川を渡り又

少行、宿詮儀それども宿なし、暮比鳴田村にぜんこんにて宿囉留る、

道五里余り △鳴田村 亀藏殿

御札五枚接待なし、米七十五文

同十一日 清天

朝八丁行御城下也、入口ろ段々家続きにて徳嶋町至而長し、広き城下也、町内見事成事、京大坂同様の由繁花の地也、爰に筑後同行の知る人有り故ニ参り留る、

此節同所に芝居有操なり、阿波路六之丞座太夫大坂ろ段々下り、中にも竹本政太

夫、豊竹津賀太夫、同橘太夫など面白き事也、昼夜ろ見物に参るかな手本忠臣藏

黒屋新蔵殿、芝居内にても握り飯を遣ス人有り、此宿源助なる家内にて風呂をた

き、多ク取持に逢ふなり、

道町内歩行共ニ武里計り △徳嶋内魚町紺屋銀兵衛殿

御札なし、接待毫ヶ所、米七十五文

同十二日 清天

朝徳嶋立、町はつれ金毘羅宮参詣見事成御宮也、高き所にあり、御宮ハ申に不及石たん玉垣など手をつくし念の入たる御普請也、夫ろ少行、少の渡し有り二文、ほつけと言町を通り、暫く行、前原村茶屋にて御わけ、竹の子、とふふ、吸物有、夫ろ川ニツ有り、桂川と言橋有、橋ちん壱文其取也、夫ろ道茶や段々有、少行、**十八番母養山恩山寺奉納**なり、本尊薬師如來、此所八日より此日迄開帳也故に大師様ハ寺の方に御直り遊し、見立細工の出しども有り、当十二銅にて本尊様江御膳上る、○爰にわらし錢乃撰待有り、西郎見村貞次殿也、夫ろ少坂を越、しやか庵に着く、此所大師御かミおき遊したる所也、御誕生の御姿出る、爰にも開帳有り、大まんだら大金也の佛様成、寺ろ撰待も有り、○とふ、豆、にしめなり、夫ろ行村に大師御むつき塚有り、夫ろ暫く行、**十九番橋池山立江寺奉納**也、本尊地藏ばさつ、此所四国一の御閑所にて、つミ深き者ハ此所ろ御札打得すして帰る者多し、同行中身を清め御札納る也、爰にも十二銅にて御膳上る、御堂近くに立ち模様にて奇麗成御普請也、本尊御姿開帳大師御作也、此所にて足立しいざり類多し、車も段々捨置たり、爰ニ撰待有り、○さかやき也、古津村勝平殿、当御堂御門入左大師堂有也、夫ろ門前茶やにて御わけ、奴とふふ、夫ろ道を急き武里余行、中つの村能き百姓隠宅をせんごんにて借り留る、**道六里余** △中津の村善作殿隠宅

此日御札式枚、撰待ニツなり、米七十五文

同十三日 朝曇、後清天

未明ち起き相仕廻、早朝立、半道行、桂川を渡り横瀬村店ニ荷物預置、鶴林寺奥の院成ル、慈眼寺に参る也、ゆわんしが瀧迄此所ろ六七拾丁山坂也、御山坂甚急にして五ツ時瀧の元に着く、此瀧水の中に日に一度不動の御来光まして火ゑんの形ち挾れ給ふ誠に不思議の御瀧なり、故に此水をいたき夫ろ又谷を登押し、堂に休ミ御わけ、夫ろ五丁登り庵有、慈眼寺と言、爰にて五拾五銅出し、白き十徳を借り、是ろ三丁上なる奥の院参、本尊千手觀世音菩薩、右の上に大岩有り、其間に穴有り、是を穴ぜん上と言、先はだかにかの十徳を着、はじこを登り穴に入る

也、壺人越に蠟燭を待、先達の言葉にしたがひ、せまき穴の内廿間余り通る也、右の内に不思儀の岩多し、瀧の岩、鳳の岩、唐の幡、色々の幡、ほら貝の岩、三石川ニツ有り、桂川と言橋有、橋ちん壱文其取也、夫ろ道茶や段々有、少行、**十八番母養山恩山寺奉納**なり、本尊薬師如來、此所八日より此日迄開帳也故に大師様ハ寺の方に御直り遊し、見立細工の出しども有り、当十二銅にて本尊様江御膳上る、○爰にわらし錢乃撰待有り、西郎見村貞次殿也、夫ろ少坂を越、しやか庵に着く、此所大師御かミおき遊したる所也、御誕生の御姿出る、爰にも開帳有り、大まんだら大金也の佛様成、寺ろ撰待も有り、○とふ、豆、にしめなり、夫ろ行村に大師御むつき塚有り、夫ろ暫く行、**十九番橋池山立江寺奉納**也、本尊地藏ばさつ、此所四国一の御閑所にて、つミ深き者ハ此所ろ御札打得すして帰る者多し、同行中身を清め御札納る也、爰にも十二銅にて御膳上る、御堂近くに立ち模様にて奇麗成御普請也、本尊御姿開帳大師御作也、此所にて足立しいざり類多し、車も段々捨置たり、爰ニ撰待有り、○さかやき也、古津村勝平殿、当御堂御門入左大師堂有也、夫ろ門前茶やにて御わけ、奴とふふ、夫ろ道を急き武里余行、中つの村能き百姓隠宅をせんごんにて借り留る、**道六里余** △中津の村善作殿隠宅

此日御札式枚、撰待ニツなり、米七十五文

此日御札撰待なし、米七十八文

十四日 大雨、昼ろ小降

此日朝棚野村立、鶴林寺御山にかかるなり、登十八丁甚急坂にして、**二十番鶴林寺奉納**なり、本尊地藏菩薩御堂ろ少左高き所に大師堂有、通夜堂納經所も有り、當御寺見事成普請也、何れも小板ふきにして殿様普請と見へ、末寺も段々有、夫三十丁計下り、麓にて御わけ、此所少し行、川有り中川と言、渡しを渡る、せんごん也、夫ろ一里山坂也、中にも十七八丁甚急坂にて**二十一番大龍寺奉納**也、本尊二くう藏菩薩御門入御寺大也、茶屋納經所も有り、石だん見事也、其上に大成からん有、左少行御堂也、右門有り、其奥に大師堂有、いつれも大そふ成寺也、此所も殿様普請と見へ、堂も寺も段々有り、夫ろ下る道樹木おひたゞしく茂り、日の目も見へざる處多し、四十丁程行、大師御行場段々有、岩家不動有、此所庵三て御わけ、夫ろ少下り、龍の岩家有、大成穴也、夫ろ下る山ミな雜木立急坂多し、麓にて一寸休ミ、又山を越、暫く行、荒田野村にてせんごんに留可申由申人有故に爰に留る、七ツ半時、

道四里余り △荒田野村儀作殿

山道也、御札式枚撰待なし、米七十八文、ふとん廿文

十五日 清天

朝立三同村の内、二十式番白水山平等寺奉納也、本尊薬師如来、御門入左りに大

師堂、不動尊、千体地蔵御堂有、十王の堂有、右段高く上に本尊御堂有り、何れ

も瓦ふきなれども奇麗成御寺也、茶堂など近く立し様子にて至而大し、夫ろ川を

渡り先山道にして暫く行、月夜村と言所有り、大師此所にて三日月を拝し給ふ

月夜村と言由、御かちの水有、暫く行、金内と言處茶屋にて御わけ、夫ろ暫く山

を行、道ばたの茶屋にて御わけ、夫ろ段々川を渡り、日和佐の手前なる出茶やに

休ミ、梅つけ有、夫ろ七ツ時日和佐の町に宿取、荷物預置、川を渡り、くり船なり、

少行、二十三番醫王山藥王寺奉納也、本尊薬師如来、此所も殿様普請にて石壇二

重へいなど見事也、御門二ツ、寺も能き普請也、此邊茶堂家段々有、夫ろ町帰り、

風呂三人、

道山坂計五里余り △宿 日和佐町豊後や正七殿

此日御札式枚、接待なし、きちん十五文、ふとん廿文、米七十六文

十六日 朝清天、昼小雨後晴

此日又々同所に逗留、湯かたじゆばんなどせんたく致也、当不足の御札として終

日休ム也、筑後同行衆正七四人ハ先に参る、

きちん米同 △宿 同人

十七日 清天

朝立、又くり船を渡り、山の谷合行事長し、大成峠を越、暫行家にて御わけ、夫ろ谷合川も段々多し、同日又癪氣おこり、小松村に暫く休ミ、薬呑、夫ろ少行、麦の

町にて宿取留る、八ツ時、御医者に参り、四角に切る也、  
道三里半宿 麦の町、利平殿

此日御札接待なし、きちん十文、ふとん廿文、米六十六文

十八日 清天

朝麦の町立、夫ろ浅川と言所迄、八坂八濱と言難所也、中ぼと茶堂にて休ミ、夫ろ暫く行、浅川と言處を通り、又山を越、茶やにて御わけ、夫ろ少行、めんきよ村と言有り、此所寺に大師堂有、大師御自作の木像也、故に参詣夫ろ少行、か給ふ村大川を渡り、二文渡し也、夫ろ先も山道也、暫く行、茶やにて御わけ、とぶ、

切干、吸物有、夫ろしき浦に着く、此所にて筑後同行正七二逢、夫ろ此方先ニ参る也、少行、阿州御番所有り、日附を納め、又山を越、土佐の国勘の浦に着く、

七ツ時往来を出し、御番所に御切手を取、此所茶やに留る、能き宿也、風呂二入、

道五里半宿 土佐の国勘の浦、若松屋茂右衛門殿

此日御札なし、

同日坂數十一程越也、是ち庄屋日附、きちん十六文、米八十文、ふとん廿文

十九日 朝雨、昼ち明る

同日少行、大成坂を越、又小き坂二ツ越、のねの町にて御わけ、にしめ、吸物有、

夫ろ大成川を渡り、御番所にて改を受、又坂を越、是ち先三里の間、飛石はね石

ごろく石と言荒磯を通る、殊の外難所也、あまり道に大くつし、爰に休ミて

筆掛て飛ひ、はねる気もなかりけり

眠るとしても、ごろくの石

など石に書附置也、夫ろ暫く行、中程に庵有り、此所二三年已前に立し模様也、立寄爰にて御わけ、夫ろ一里半行、濱つたへなり、夫ろ一里松原中通崎の濱と言

処ニ着、又川を渡り同所町にて宿取留る、七ツ時、暫く有りて筑後同行衆正七追

付、同此村に留る、

道六里 宿△崎の濱、傳七殿

此日御札なし、きちん八文、米八十文、至而難儀成處にて夜具なし、

廿日 大雨

此日さきの濱立、又濱道にて山のへりを通る所も有り、五里の間家地まれ也、椎名村と言所にて御わけ、夫ろ濱邊を行、さかしきかん石の中を通り、道もなき岩

の上を行、岩に穴有り、右之内にハ天照大神宮、左之内にハ七社権現也、夫ろ三

丁行、東寺前札所有り、此所茶やにて御わけ、此御山にハ女人参る事ならず故に

女達に別れ、七丁程御山を登り、二十四番東寺奉納也、本尊こくふそふぼさつ、

夫ろ下り、茶やにて休む、此所茶山中には大成寺にて二王門有り、左大師にて直二下納経所寺也、夫ろ半道余行、唐のつると言所に着く、七ツ時雨風はけしく、故に爰に留る、此所船つきにて能き所也、

道五里半 宿△唐の津呂浦、大西屋九左衛門殿

御札壱枚、きちん八文、米八十六文、ふとん十五文

廿一日 清天

半道行、津寺町有り、此所も湊にて能き場所也、寺の前茶やに荷物預置、**廿五番** 津寺奉納也、本尊地蔵菩薩御堂高き石たん有、大師堂ハ下ニ有、左に金毘羅宮細き社有り、此町はつれに川有り、前々よりの大雨にて水出、急ニ渡る事不叶、四ツ過迄茶屋ニ待合せ、夫ろ川を渡り、向にも町有り、夫ろ暫く行、西寺の道印有り、是より女札所は左り、本道ハ右也、故ニ此所も又わかれ右之様に行く、水早き川を渡り、西寺御山に登る也、此山登り四丁、**廿六番** 龍頭山西寺奉納也、本尊薬師如来、下に大師堂有、夫ろ寺一丁也、爰に参り納経取、裏道つたへ下向、又下成茶やにて女中連に岡田御わけ、にしめ、吸物有、夫ろ暫く行、大川有り、すへて濱邊つたへ也、細き川ハ段々多し、中にもきら川と言有り、爰も水出、七文にて、おひ渡し也、夫ろきら村通り、又先にも大川有り、此所 八文にて、又おひ渡し有、暫く行、羽根村茶や御わけ、豆腐、竹の子、きくらげ、味噌吸物有、此村はつれに又大川有り、渡人なし、新八殿はたかにて此所渡直也、夫ろ暫く行、山を越、麓の茶やに宿借留る、此時七ツ半、

道五里 宿△かりうご浦、佐七殿  
廿二日 清天

御札貳枚、きちん風呂有十二文、米八十五文、ふとん廿文、

朝少行、坂を越、此日も濱邊つたへなり、名はり村と言有り、少町也、此所にて日附を取、同所大川有、船渡し、十六文にて、渡り、夫ろ少行、又川有り、夫ろ田の浦入口茶やにて御わけ、豆腐、ちしや、吸物有、此所能き町也、夫ろ暫く行、大川有り、安田川と言、夫ろ安田町通り、とふの濱此所も神峯山に登少行、庵有り、此庵に荷物預置、但し預り貢式文も也、夫ろ三十余り急坂を登り、**廿七番** 竹林山神の峯寺奉納なり、本尊十一面觀世音、右ニ大師堂有り、奇麗成御札所なり、道々出茶やハ有り、爰にて御わけ、ミモ吸物有、夫ろ暫く行、茶やに休、又坂を越、又茶やにて休む、かやの葉もち有、夫ろ少行、いおふき村茶やに休ミ、又行大川有、

渡し人子供ニテ一文渡し也、夫ろ又川有り、夫ろ少行、あきの町入口に宿取留る、七ツ過ぎ、

道六里 秋の町、山川や重助殿

御札壱枚、きちん風呂有十二文、米八十八文、ふとん十六文、

廿三日 清天、七ツ比ろ大雨

早朝立、此町至而長し、能き町也、夫ろ松原少通り、濱道一里程行、やるれと言處茶やにて御わけ、とふふ、竹の子、吸物有、夫ろ山を越、赤の浦と言所を通る、爰も町也、夫ろ松原至而長し、わしきと言處茶やに休ミ又御わけ、夫ろ長き坂を越、てい浦にて休む、町也、夫ろ暫く行、きし元浦と言有、夫ろ上り松原少行、赤岡の町を通、至而能き町也、町はつれ、よねまん中有、爰ニ休、廣き所也、夫ろ少行、坂の下茶やにて御わけ、夫ろ坂を少越、田の中に道有り、暫く行、**廿八番** 大日寺奉納なり、本尊大日如来、小高き所に有り、爰も鶴多し、右大師堂、夫ろ下り、村を通り少行、大川有り、世の人是を物言イ川と言、恐しき川なり、水少出る時ハ渡り留る由、此所渡し、三文にて、渡り、天氣あしき上、七ツ時過ぎ成故に爰に宿取留る也、

道六里半 宿 戸板嶋村、藤七殿

宿立少行、松木村と言有り、夫ろ段々村続き、すへて縄手道にて壹里余行川有り、一文渡し也、夫ろ少行、**廿九番** 摩尼山国分寺奉納也、本尊千手觀世音菩薩田の中に二王門入左に茶や茶堂有り、此所にて御わけ、竹の子、三味、あけとふふ吸物有、夫ろ縄手道少坂を越所も有り、村段々有り一里半行、**三十番** 一の宮高賀茂大明神本尊阿弥陀如來一息山善樂寺奉納也、大成ニ王門有り、杉馬場有り、御宮大にして拝殿の上わらしならす、中門入右に釣鐘堂有り、大師堂ハ手前の寺の内に一の宮と言、夫ろ前成茶屋にて御わけ、とふふ吸物、ちしや有、又縄手少行、大官に出、夫ろ御城下迄わづかにつき、町内見物、此高知の城下と言ハ至而広き所に

て御城も高き所に有、夫ろ長き土手を通り入江有りて向ふに渡るなり、渡し四文、

爰を渡りりふこふ村と言所に着く、此土手にて百七に別るゝ也、此先筑後衆八人同行、

同人ハ城下修行に逗留致はづにて是古權嶋と言三参る、夫ろ八丁坂を登り、**三十一番**

五墓山〔竹林寺〕奉納也、本尊文殊ぼさつ、石だん高くして二王門有り、大成御堂也、

左に大師堂有り、上にからん有り、右にあいぜん明王の堂有、左にしゆろふ有、少下ニ茶堂、奥に寺有り、寄麗成御札所也、夫ろ四丁下り麓の茶やに宿借り留る、七ツ半過ぎ、此所庄屋ち差図なしにてハ宿借ず、きうくつ成所也、

道五里 宿△五墓山村、竹屋辰藏殿

御札三枚、きちん廿文、米八十三文

廿五日 清天

此所も渡しを渡り、三文也、夫ろ土手道暫く行、茶やにて休ミ、夫ろ少坂を越、暫く行、ぜんじやう寺坂にかかる八丁程登り、**三十二番**八葉山峰寺奉納也、本尊十一面觀世音菩薩、左り大師堂、此邊岩山也、少下に二王門有り、寺有、夫ろ下り茶やにて休ミ、夫ろ松原通、濱邊を行、又松原之入口茶やにて御わけ、干大根、こんぶ、吸物有、夫ろ松原至而長し、夫ろたね崎の町に着く、此所殿様御船場にて御船方ふち人衆多し、夫ろ渡しを渡る、三文也、三ませ浦と言所に着、能き場所也、此間湊也、此町よふかん、あんころもち類多し、夫ろ少行、長濱村、**三十三番**

少林山とふふく寺奉納也、本尊藥師如來、二王門有り、御堂左りに大師堂有り、

茶や茶堂有り、爰にきなこたんこ有、夫ろ川ばた傳へ一里行、西村茶やにて休ミ、

暫く行、川有り、三文渡し也、是を渡り夫ろ一里行、**三十四番**本尾山種間寺奉納也、

少高き所に有り、夫ろ下成出茶やにて御わけ、此所御本尊藥師如來、右脇に大師堂有り、爰も鶴多し、夫ろ又川端傳へ暫く行、林川村茶堂に休ミ、夫ろ川原に出、大川有り、二乙川と言、此所渡しを渡る、六文也、夫ろ暫行、高岡の町と言有り、此所に宿借り荷物預置き、是古廿五丁**三十五番**醫王山清瀧寺奉納也、本尊藥師如來、左り大師堂石たん高く下に二王門有り、御山ハ登り八丁急坂也、夫ろ宿に帰り、風呂二入、暮六ツ時、同町に筑前原町同行病人有りて逗留故に、昼宿二見廻、

其夕又原町同行内ろ二人見舞に見ゆる也、

道七里半 宿 高岡町、北地屋金右衛門殿

御札四枚、きちん風呂有十二文、ふとん廿文、米八十八文

廿六日 清天

朝原町病人見舞、夫ろ暫行、大成坂を越甚急也、夫ろ下り、出茶や二里いもこんにやく有、宇佐村と言町有り、夫ろ渡しを渡り、四文也、江の尻村家に荷物預置、青龍寺ニ参る、此所にて御わけ、是古廿五丁、大成山を越、少行、**三十六番**青龍寺

奉納也、本尊不動明王、寺ハ下ニ有り、二王門有りて、石たん高く大成御堂成左

に大師堂有り、奥の院ハとつこさんこの岩家と言、少入込也、夫ろ帰り船を借り、十五人にて壺人に、三十二文出し、三里半を乗る也、此所船をのこされハ土州第一

の難所八坂八濱と言、きひしき山坂を通る也、故に大師も船にめされし事度々なるよしにつき、此所ばかり船御免なり、夫ろ横浪と言所に着き、出茶や有り、爰

にて御わけ、香のにしめ有、夫ろ少行、大成山越、又坂を越、此坂不動坂と言、少

下り道はた石に不動の御姿せんとあらわれ、不思儀成石也、夫ろ少行、上田村

通り、繩手暫く行、坂を越、須崎の町に着く、七ツ半時、

爰にさぬき金毘羅の宿にて出合し人有り、故に寄參り、男三人ハ此家に留る、段々取待合

長きとて程有るものに、みゝず坂、

あまり長きハなにむしづかや

と道ばたに書附置、夫ろ下りとこなべ村一里行、かげ野村夫ろ少行、六反地村茶  
やにて御わけ、にしめにふ、夫川を渡、柿の木山村又毫里ばかり行、根之崎白川と  
言川を渡り、川ばたに宿取留る、七ツ半比日道半分ハ山坂也、

道七里余り宿 △根之崎村、弁藏殿

此日御札なし、きちん十文、米八十四文

廿八日 清天

朝少行、川に渡し有り七文也、夫ろ**三十七番**仁井田郡五社の宮奉納也、正面伊与大

明神本尊阿弥陀如来、左り今宮明神、聖宮大明神、本尊藥師如來、地藏菩薩、右  
今大明神、三嶋大明神、本尊觀世音、不動明王とも拝し終り、是ろ大師堂納経寺  
迄十八丁向ふ也、又元の川を渡り暫行、久保川村少の町也、此所の岡に納経所、  
大師堂有り、爰に参り夫ろ山道也、少坂を越、暫く行、斤丈村又少行、ミねのか  
ミ村茶やにて御わけ、そは切、心太有り、夫より又少行、大成坂有り、是を越、暫  
行、心の川村茶やに休む、正御すし有、此所山に大師御むそふの栗有り、年の内  
ニ七度なるよし有、くり昨貝とも店に有り、此邊川多し、川ひなたんく見る、  
ミな尻なしゆわれ有べき事也、夫ろ暫行、井よき村と言有り、此所田植なり、其  
内太鼓を叩き踊る男有り、扱も珍敷田植也、故に暫く見物、夫ろ又坂を越暫く行、  
佐賀村に着く、ハツ半比、此所も少の町也、爰に宿取留る、

此前日夫備後松永と言所の同行三人、壱人ハ福山の城下、以上四人女中衆荷持也、此連同

道此夜同宿致也、

道五里半余り宿△佐賀の町、勇平殿

きちん十二文、米八十八文

廿九日 清天

宿立、川を渡り少行、坂を登り、山の上暫く通り少濱を行、又坂を越磯邊暫く通  
り、白濱と言所で茶やに休ム、しんご、こんご有、夫ろ松山寺坂と言を越、伊田浦  
通り又少行、井川村茶やにて御わけ、ふき、竹の子、切干、にしめ有、夫ろ待チ王坂

と言坂を越也、昔高義親王さかミ入道に流され給ふ時、此坂にて所のおさ待受かくまひ申  
候由、夫ろして待王坂と言なり、夫ろ濱邊暫く行、松原に上り少行、入野村と言有り、  
少の町なり、此所店にて休ミ、是ろ先大官也、暫く行、大成坂有り、夫ろ下り道  
ばた、茶やにて御わけ、そば切、たんご有、夫ろ四十丁計り行、四万十川に着く、  
此川、廿文にて、渡しを渡る、是四国第一の大川也、両方家村多し、少行又少の渡  
しを渡る、二文也、暫く行、間崎村に宿借留る、七ツ半過、備後同行ハ別宿也、  
道六里半余り △間崎村弥平殿

きちん十文、米八十八文

(四) 五月朔日 清天

朝少行、村有夫ろ大成急坂有り、是を越少行、一の瀬村出茶やにて御わけ、夫ろ  
少行、庵に荷物預置、足すり山に趣く也、此所ろ七里打戻り也、少行坂を越、暫  
く山道繩手少通、下モのかや村家にて休ミ、夫ろ濱邊三出、少行、坂を越、山道  
行也、鍵掛村川を渡り山道至而長く、道ばた茶やにて御わけ、夫ろ暫く行、濱に  
下り暫く行、坂を登り山道也、九桃村茶やにて御わけ、しんご、たんご有、此所に  
筑前佐助殿に逢、少行大キ村暫行、いぶり浦、夫ろ磯邊を通り、夫ろ暫く甚難所也、  
山を登り、又下り、又登る事数を知らず、家はた家にて休む、竹の子、吸物有、少  
行、久保津浦通る、此所鯨場有、夫ろ又山を段々越少行、同村之内、津呂村道ば  
た家に宿借り留る、日暮前、

道七里 △津呂村元右衛門殿

きちん九文米、米八十八文

二日 清天

早朝立、是ろ尾札所一里半也、暫く坂を越、山を越、山を巡り、道の茶やニ休ミ、

たんご汁有、夫ろ少行、**三十八番**足摺山奉納也、本尊千手觀世音菩薩、大成二王門

有、右にからん有り、左に宮有り、奥二大師堂有り、門前に納経所有、茶や有り、  
此所七ツの不思儀有、故ニ寺ろ案内者取ことごとく参る也、先御堂の前両方の松、  
一本ハ天ちくろ年に一度十二月廿日夜燈明上る也、一本ハ同龍宮ろ燈明上る也、  
石三ツ有り、是ハ其夜汐満ツ時ハ濡ると言也、夫ろ少行、ゆるぎの石有り、高サ

四五尺にしてよこ壱間余り也、上に細き石、二タ重に有り、是石念佛真言のとな  
へ押立時ハたちまちゆるき上なる小石くるぐると動く事誠に不思儀の石也、中々

きちん十文、米八十四文、さい状七文、

二十人三十人にて押す共動くべき石にあらず、なれとも念佛光明真言大師御名号

のくりきにより指にて押す石冷たく動く事不思儀とも又有難き事也、夫カ少行、

大師一夜御建立の鳥居の下地有り、其先に高きほき有り、下ハ荒磯にして、立浪

岩に当りくだけ散る事恐ろしくなり、害々海の音耳をつらぬく如し、此上にて真

言念佛をとなへ、お龜さまムカシと呼時海中に大小の龜浮ミ出給ふ也、なかく荒

波の上高きほきなれば、人の聲海底に通すべくとも覺へす、是も念佛真言其人の

心に仍而此龜拌まれ給ふ也、不思儀とも中々咄にもなり難し、夫カ少行、かねの

石有、叩く音所々に違ふなり、夫カ帰り茶やにて御わけ、にしめとも有、暫く帰

浦少行、道ばたカニ入込参りがけ寄申家有り、竹の子多し、爰にて休ミ、夫カ暫行、

山を越磯を通り大キ村、又山を越茶やに休ム、此所馬のまき有り、しんニ、たんニ

多し、夫カ暫く行、濱を通り又山を登り暫く行、九桃村に宿取留る、七ツ半時、

道六里半宿△九桃村、傳吉殿

きちん八文、米七十六文、

一 四日 清天

朝少行、川有り、二文渡しを渡り暫く繩手道也、夫カ大官に出少行、」(抹消)

同三日 清天、昼過カ大雨

朝同所立、武里程行、一の瀬此所庵にて荷物受取、わけ、干大根、ふき、にしめ、夫より山道傳へ大成坂三ツ四ツ越、少谷合繩手を行也、道ばた出茶やの跡有り、爰にて御わけ、奥の家カ茶をもらふ也、夫カ坂を越、谷合森之内日も照らざる所を通る事暫く、出茶や有り、爰にて休ム、すし、こんぶ、にしめ有、夫カはしらく行、山を越此所にて夕立にあひ殊之外難儀也、漸麓に下り二三軒家有り、爰に宿取留る、ハツ時、

此家画書にてのほり上もだんク出来居申也、

道五里 宿△江野村、理右衛門殿

同四日 清天

朝少行、川有り、二文にて渡しを渡り暫く繩手道也、夫カ大官に出少行、三十九

寺山延光寺奉納也、本尊薬師如来、御堂左に大師堂有り、寺にて御わけ、是迄武

里余り也、此所にても又筑前庭内大工佐作殿に逢也、夫カ坂を越暫く行、川有り、一

文、渡しを渡り、すぐもの町を通る、此所能き町也茶やも段々多し、此所にて御

わけ、ふき、にしめ有、夫カ少行、急坂を越、芳木村又少行、飛鹿村又坂を越、

大ふか山、此所土州御番所有、日附を納メ少行、茶やにて休ミ、夫カ松大坂にかかる也、是伊予土佐の堺にて殊の外高山也、是を越に登り、五十丁きひしき大坂

也、峠ニ茶や有、爰にて休ミ夫カ下り暫く行、ひろミ村茶やに参る、是迄峠カ一

里半也、此家田植につき宿合カ成不申、別の家に世話頼留る也、七ツ過、此家隠宅也、明日節句につき、ちまきシラへ加勢カセどもいたし申也、なれども表の家内悪敷者カどもにて茶漬けも遣不申候也、

道七里内一里半ハ三十六丁也 宿△廣ミ村、角次殿

御札一組、きちん八文、米八十六文

同五日 曇時々小雨

早朝宿立、茶やに参り、荷物預置、節句二つき粽カタツムリども頼置、夫カ二里觀自在寺参

詣打戻り也、少行、坂を越、夫カ暫く行、城へん村川を渡り少行、平城村、四十

番平城山觀自在寺奉納也、本尊薬師如来、左に大師堂有り、寺有り、夫カ帰り、

平城村店にて御わけ、とふふてんかく、かやは餅有、夫カ元の道を帰り、廣ミ村茶やにてちまきを求める節句の祝初メどもいたし、又御わけ、干大根、こんぶ吸物有、

暫く休ミ、夫カ小笛道殊之外難所也、すへて山道にて土成坂たんク越、坂尾村夫カ小笛山麓の茶やニ宿借り留る、ハツ時、

あばらや也、向ふの間ニ備中の同行留りニ申し、風呂をわかし、かみさかやきともし申也、

道三十六丁道六里半宿△正木村、勇之丞殿

きちん十文、米九十文

朝御笠山にかかる也、此所迄登り、五十三丁至而高山也、坂急にして中程迄先樹木茂く道ふせうの上木の葉落重り、さも物すごき御山也、先寺に参詣、爰にて御わけ、景色言語二不及、夫迄三丁登り奥の院熊野三所権現の社有り、後ニ池の跡有り下ニも堂有り、此所にて土産の笠を受、夫迄下る坂三十七丁殊之外急坂也、川を渡り拂川村にて休ミ同行待合せ、夫迄廿五丁行、楨川村、此所庵有り、大師堂有り爰ニ参り、夫迄坂を越暫く行、三内村茶やにて御わけ、あらめ也、是迄廿丁又山道暫く行、半西村、少行、川を渡り、土手道此所にせん言宿有るよし、参り申處田植さい中にて留守の家多し、夫故暫く行、野井村に宿取留る、暮六ツ比、

道六里 宿△野井村、甚右衛門殿

きちん風呂有十二文、米九十文、

同七日 清天

朝宿立、少行、大成坂有り、登り下り半道余有り、是を下り麓の茶やにて休ミ少行、祝いの森と言村有、此所茶やに休ム、子安の地蔵堂有り、夫迄少行、安田村此邊山べ大官也、少行、宇和嶋御城下ニかゝる也、此道はだ酒店有り、土産絵多く求、夫迄宇わ嶋城下ニ着く、入口に御番所有り、切手改相済、茶やにて御わけ、吸物何分望次第也、町も能き町ニて中ほど侍町を通、夫迄土道村ニ多し、少繩手有りて、後子山邊道也、三妻村など有り暫行、小き坂有り、此所峠の茶やニ休ミ夫迄少行、四十一番 稲荷山龍光寺奉納也、本尊稻荷大明神、本地地蔵菩薩高き所也、右に十一面觀世音御堂有り、左寺有り下に大師堂、茶堂有、此前茶やにて御わけ、是迄五里、夫迄少坂を越暫く行、四十二番 佛木寺奉納也、本尊大日如来、左に大師堂有り、右に聖徳大師堂有り、大師堂有、寺有り、此時七ツ過、当所迄留メ人段々参り居申候ニ付、同所ニ宿取留る、

道五里廿五丁 宿△すなわち村、權吉殿  
御札武枚、きちん八文、米八十二文、  
同八日 清天  
朝少行、大成坂有り、五十丁余り、是を下り人川村茶やにて休、夫迄少行、開田村又少行、井の尾村、此村廣し、夫迄明ヶ石寺ニかゝる也、先手前絵店にて御わ

け、竹の子吸物有、土産画少求也、夫迄十丁余り行、四十三 隠光山明石寺奉納也、本尊千手觀世音ぼさつ、左に長き宮有り、右に入込大師堂有り、前御門有り、茶堂画店有り、夫迄八丁程下り、卯の町と言町有り、爰に休ミ夫迄暫く行、大江村茶やにて御わけ、すべて大官也、夫迄少行、東たゞ町此所宇和嶋御番所有り、入切手を納メ少行、同所村有り、麻畠多し、夫迄少行、戸坂村是迄山坂也、八丁登り又下り、六十丁余也、中ほどに能き茶堂有り、七ツ過漸坂を下り坂口にて宿借處、田植中ばにて宿なし、暮比坂口の家ニ宿借同行待合せ留る也、

道七里半 北たゞ村、喜七殿

御札壹枚、きちん風呂共十二文、米七十六文、蚊帳六文、

九日 雨天

早朝立、十八丁行、大洲の城下を通る、此入口能大師堂有り、其外道々大師堂、此町中ほどに川有り、一文、渡しを渡、先成町に休ミ夫迄縄手大官ニて少行、落宮村一里余行、新谷の城下を通る、此所入口茶やにて御わけ、干大根、とぶ、竹の子吸物有、夫迄少行、茶や有、暫行、黒ほち村在町也、夫迄少坂を越、内の子乃町と言有り、能き町也、是迄新谷迄武里往官也、此所茶やにて御わけ、とぶふ吸物、此所に初茄子求るなり、夫迄町はつれニ川を渡り坂を越、谷三入也、暫く行、雨はきりなる故に道ばた茶堂に休ミ、折ふし所の人参り道を習ひ、夫迄少行、村崎村川を渡り暫く行、いよき村ニ宿取留る、八ツ時、内の子迄ハ谷ばかり也、

道五里十八丁 井能キ村、仲助殿

きちん十文、米八十文、蚊帳五文、

同十日 曇

朝宿立、十七八丁行、大瀬村二人なり、此村至而長し、すべて谷合川添計を通る也、ゆへに人ミなすべてを大瀬が谷と言、淋しき所也、村はつれに地蔵堂有、爰にて御わけ、道々大師堂地蔵堂など多し、是迄一里半も有べし、夫迄一里計行、下モ田戸村又少行、中田戸村此所茶やに休ム、こんこ有、夫迄暫く行、上田戸村少行、道ばたに○せつたひ有り、唐きびのせつたひ味噌也、此主両津村豊助殿迄也、此所にて御わけ、夫迄一里余行、臼杵村、夫迄坂を越一里余り行、二名村此所に

て百姓家に茶をもらいおわけ、是迄内の子ち九里の間谷合計り也、暫く行大成坂

を越、熊の町、茶やに休ム、そは切有り、此所五丁行ば

四十四番△菅生山大寶寺也、

故に其日同所奉納也、本尊十一面觀世音菩薩、石だん高く二王門有り、御堂大にして寄麗成御普請也、右に段々宮も有、大師堂有り、茶堂も両所ニ有り、左りに釣り鐘堂有、此所ニて日暮かゝり二つき又元の熊の町に立戻り、同所に宿取留る也、

道七里半宿△熊野町、田中屋八右衛門殿

御札一枚、摺待一ヶ所 きらん風呂共十五文、米七十文

十一日 雨天

朝少行、山を越、はたの川村につく、是迄三十丁、此所酒屋に荷物預置、是ち六  
十丁岩家山打戻り也、少行、道ばた茶やに休ミ十四五丁行出茶やに休ム、此所ち  
右を参詣道、左を下向道とす、是ち廿五丁の御山也、右之道を行に樹木茂区立お  
よひ誠に深山也、先初メに行場たんく有り、何十丈と言ほども知れざる大岩有  
二ツに割れ其中少の間を通る、是を仙人せりわりの岩と言、此前に堂有り、坊主  
ら行場を教へ遣す也、先せりわりを登り又堂有、右にかねのくさり六七間登り、  
上に廿一のはしご有り、是を登り上なる社白山大權現奉拝也、わつかの宮の後を  
巡り又はしごを下り又右之方なる岩を登れハ高祖權現の社也、夫ぢ下り左りなる  
岩山をはい登る、是をかづらぜん上と言、是別山權現の社也、夫ぢ三四丁下り、

四十五番△海岸山岩家寺奉納也、本尊不動明王、入口二王門有、次二唐門有り、左  
に大師堂御堂の間くわいろふ也、本尊の右掛け作りにて上に仙人の堂有り、しや  
りつか有、十六のはしごを登り、是を拝む也、寺ハ岩の下に作りかけ、寄麗成事  
也、此所茶やにて御わけ、切こんや、にしめ、夫ぢ壱人前六錢宛出し奥の院參、た  
ひ松をともし御堂の下に案内につき這入なり、此内岩家にて大師御かぢの水有、  
夫ぢ帰り下向道を下り暫く行、茶やにて休む、下向道場よろし、夫ぢはたの川に  
帰り荷物受取、夫ぢ少行、大成山を越、是を千本峠と言、是を越、菅生村又少坂  
を越、本明神村道ばた家にて御わけ、夫ぢ少行、同村内に宿取留る七ツ時、

道五里半余り △東明神村貞八殿

御札壹枚、きらん十二文、米七十四文、ふとん十五文

同十二日 清天

未明ち起半道行、三坂峠と言有り、此所登十丁余り、誠に凡先上りにて格別の坂  
にてなし、峠の前茶やに休ミ、夫ぢ下り一里半余り至而急坂也、此所つきち落死  
たる馬の墓も有り、夫ぢ下り、久保野村廣き村也、此村店にて御わけ、切こんふ、

大根にしめ、夫ぢ廿丁行、上るり村、四十六番△医王山淨瑠璃寺奉納也、本尊藥師如

来、右に大師堂有り、左に釣り鐘堂有、茶堂有、夫ぢ又五丁行、四十七番△熊野山

八坂寺奉納也、本尊阿弥陀如來、右熊野權現にして、左大師堂也、石たん下に茶

堂有り、藤棚有り、夫ぢ少行、惠原村此所むかし右門三郎大師御執行の時口論の

仕掛け御鉢を八ツに割りしどがにより八人の子供八日の内に相果候由、其塚八ツ  
塚とて此村田の中に有、夫ぢ少行、高井村、四十八番△西林寺清瀧山奉納也、本尊  
十一面觀世音ぼさつ、御門有り、御堂の右に大師堂有、釣り鐘堂有、門に画店有  
り、爰にても土産の御絵を求め、此村家にて御わけ、是迄廿五丁也、夫ぢ又廿五  
丁行、鷹の子村、此所通り筋にて茶やなど多し、夫ぢ四十九番△西林山淨土寺奉納

なり、本尊しやか如來石だん高く御堂の右に大師堂有り、寺有り、夫ぢ十八丁行、

五十番△東山繁多寺奉納也、本尊藥師如來、奥御堂にして手前右に大師堂有り、池

有、觀喜天の宮有り、寄麗にして景色能き寺也、夫ぢ廿五丁行、東野村と言を通  
り少行、松原中に川有、そり橋有り、夫ぢ石手村五十一番△熊野山石手寺奉納也、  
前成茶やへ荷物預置おいづるを着御札納る也、正面十二社大權現、繪馬堂有、堂  
も段々多し、左御札所也、右からん有、大師堂有、此所打仕廻につき一切ぬき納  
メ又受、茶やに帰る也、右門三郎殿後ニはつ心し四国數度巡り可申候後に、仍而  
國主に産れ替れし由、其印石に書付にきり産れられしつき、其石此寺ニ有、故  
に石手寺と言由、夫ぢ茶やにて吸物どもこしらへさせ御わけ、夫ぢ七丁行、道後  
の町と言有り、湯町にてはんくわの地也、爰に宿取留る、七ツ時、湯二人也、

道六里余り△道後土佐や、虎次殿

御札六枚  
きらん廿五文、米七十六文、蚊帳八文

其夕御札仕廻の心祝いとて酒など賈祝ひ申也、明日ハ三ツヶ濱に出筈三て、筑後同行ハ三ツぢ別れ、上ミニ方の様ニ趣筈也、長々のこんせつわかれをおしミ、酒を

此嶋流れ十九里有りて村もあまた有り、故に坊州にて一郡也、

同行日待ツ、誠に（族）同せんのまじわりなるがゆへに

出日待ツ、誠に（族）同せんのまじわりなるがゆへに

扱もまたおなじ筑州なれハとて

前後ともなくなるゝ旅宿

と書、壱枚宛遣し申也、是迄札五十七日の間、同行中なさん、けだひなく御札を納メ候事、人力にあらず、誠に大師の御影にて、さかしき高山の登、恐ろしき谷奥にて夜を明し、道もなきが如き難所を遍巡り、数日の道中なれとも格別つかれわづらふ事もなく首尾能く御札納メ候事、今さら思ひまわせハ菅の如く、是

偏ニ大師御道引き給ふゆへ申なれハ難有き事也、旅中のありさまを見るに病に掛たる遍路おひたゞしく道々多きものハ遍路の墓也、罪深き者ハ御札納め得ずして

途中帰り、あるひハ病死し、盜人に逢ころされなどする事多し、なれども正路にて巡る遍路にハ亡目の眼をひらき、つんぼの耳をきゝ、足なへの立しなど其外諸病願人の心に仍而平念せずと言事なく、御影にたすかりし者供悦事いくばくと言數を知らず、是へんろの心の事也、

十三日 清天

宿にて朝飯仕廻、同所町にて土産品ども求め賑敷所也、夫ぢ少行、松山城下見物、廣き城下也、紙屋町にて大師の御木像を受、夫ぢ三ツの濱迄大官也、九ツ過ぎ同所につき土産物共求、下松屋にて此日正じん上ヶ筑後同行三人ハ丸龜の様ニ参り被申候也、然處幸イ柳井江船便有之ニ付、茅屋同行一同ニ八ツ半比方船に乗込、ごゝ嶋と言所にて汐時を待、暮比ぢ船を出し夜ばしりにて、朝坊周の国之内大嶋につく、

十四日 曇、昼ぢ大雨

夫ぢ出し暫く走る内、雨きびしく降り出し、此嶋の内九賀村と言所にかゝる也、あまり大くつにつき町に上り風呂二入、宿取此家至而しんせつなる人にて段々取持にあり、其夜ハ同家隠宅に留る、

宿 大嶋郡九賀村、十助殿

十五日 朝小雨、五ツ比ぢ晴る

同朝隠宅ぢ十助殿方に参り、朝飯とも仕廻處、殿々家内中取持有り、然處船出ス由申参り、又乗込暫く行、大畠の瀬戸をこし、九ツ時柳井に着く、此所茶や中喰、此町長し能き所也、爰にて茶づけせつたひ有り、はせや惣右衛門殿、夫ぢ立少行、

新三村暫く行、田ぶせ村、此所町也、夫ぢ少行、道ばた店に休ミ暫く行、三輪村町也、夫ぢ少行、小道山道を暫く通り光井村に着く事、暮比寺の右手に門構へ大

家二軒有り、爰に参り宿を借受留る、此家御ふち人なる由、

道四里半、船路三里半、ペ八里 光井村、市川太左衛門殿

此所にて地方取の御家人なるよし、家内深切なる人にて段々取持ニ逢也、間内至而廣し、

十六日 清天、後に曇

早朝光井村立少行、野原と言所有、夫ぢ暫行、嶋田村町也、中に川有り、是迄一里半、夫ぢ少行、道ばた廣に休ミ、夫ぢ朝内イと言所を通り、夫ぢ少行、道ばた茶やに休ミ、夫ぢ濱邊つたべ、井戸村坊濱有り、夫ぢ半道計行、下夕松入口船大工の方に立寄、夫ぢ暫く行、同所本町うどんやにて御わけ、とふふ吸物頼、夫ぢ此町至而長し廣き所也、半道行本通り大官に出る、夫ぢ暫く行、遠石の市茶やに休息ミ、やきもちなし、又一里行、徳山城下を通る、能き町也、夫ぢ壱里行、富田の宿く、此所茶やにて中喰、とふふ、夫ぢ少行、同所新町と言有り、夫ぢ平野町を通り少行、福川参り掛け宿有り、渡海のせつの神に立寄、又少行、矢地を通り、少の坂を越へた市宮の前なる茶やに宿借留る、七ツ半時、

道八里半 へた市、今村や木菅七殿

きぢん四十文、米六十四文

あまり宿の蚊の多きに破れ蚊家にて寝られぬまゝに茅屋の同行一所につき、かく申笑ふ也、

日々にかわる宿やのよしあしや  
貴蚊にくわれ夜さくつやぞき

十七日 雨天

朝へた市立、少坂を越、椿たをと言、夫ろ一里行、富海此所参りかけ宿に寄り休息、夫ろ坂を越、宇毛野此所茶やにて中喰、此道にて葺を取、吸物にたく也、是迄式里半余り、夫ろ砂原大官暫く行、今宿くたらを通り富市に着く、此所羅漢寺参詣、五百らかんの木像さいしきにして大そぶなる事也、外に諸佛菩薩の御堂有、寄麗成御寺也、夫ろ天満宮江参り四国首尾よく仕廻し御礼ニ参り、夫ろ同町うどんやにて休ミ、そは切頬ミ、夫ろ少行、川渡しを渡り暫く行、家三軒有、佐野村と言、夫ろ暫行、岩渕村在町也、夫ろ暫く行、大道入口茶やにて中喰、夫ろ少行、今宿くと言、又少行、ふてん寺村、夫ろ少行、須ま村在町也、夫ろ暫く行、小郡入口川有、富渡しを渡り、夫ろ町中ほどに宿取留る、七ツ過き、此日道にて同所医者殿と連になり、宿の事おしへられ能き宿也、

道八里 宿 小郡堺や、市藏殿

きちん六十文、米六十四文

十八日 大雨

小郡立、此所廣し至而能き町なり、夫ろ一里行、嘉川此所町也、茶やに休ミ、夫ろ道々大官なれハ家段々多し、一里半行、山中此所在町にて殊之外難儀成所也、同所家にて中喰、夫ろ同所之内、家道々多し、夫ろ少行、川十二文渡しを渡り、暫く行、宇龍野の茶屋にて休ミ、夫ろ暫く行、吉見村、夫ろ暫く行、少坂を越、船木に着く、此所てんやにて中喰、とふふ吸頬ミ、雨はけしくにつき此家に留る筈にて足を洗上り候處、亭主申分悪敷ニ付宿替、三四軒隣成家、下関ろ書附參居候間、此方ニ荷物をはこび爰に留る、八ツ時、風呂二行、土産のくじとも求、高留り二つき、暫く休ムなり、

道五里 船木、肥後や幸左衛門殿

きちん六十文、米六十四文、段々取持二合、外二茶仕置也、

十九日 大雨、昼ろ小雨

朝船木立少行、錢か原と言村有、又少行、坂を越、家有り、間の坂と言、暫く行、朝市此所町也、はづれに川有り、十文にて渡しを渡り少行、七日町茶やにて中喰、

竹の子にしめ有、夫ろはぶ浦へ一里余り有、故に爰にて船を借る積りにきわめ、幸イ此家亭主はぶに参り被申由ニ付、船之儀頼、茅屋同行跡におくれ居申ニ付、

伝言残しはぶ浦に趣也、山道にて殊之外難所也、なれども長符に出る人多し、此所に着き、船を借處、天氣悪く船難渋之模様につき船を止メ、夫ろ濱邊暫く行、又岡に上り、松家と言村を通る、此所酒屋にて中喰、夫ろ縄手暫く行、吉田川の下モ渡し有、五文ニテ爰を渡り少行、鞍間と言町有り、是ろ先砂地大官にて暫く行、見事成石橋有り、茶やも有、神田村と言、此橋上之方に頼なきよし、夫ろ暫く行、長符城下に着く、入口侍町至而長し、夫ろ町家能き城下也、此所に宿借留る、七ツ半過ぎ、

道六里余り 長符南ノ丁、むくのや和吉殿

きちん五十文、米六十四文

同廿日 雨天

早朝長符立、少の坂段々越、式里程行下の間に着く、五ツ時同所船宿に休ミ、夫ろにうりやに参り中喰、豆腐吸物、夫ろ暫く有りて船を出し、沖中にて白雨にあひ殊之外難儀也、八ツ時小倉に着く、先土産の品とも求め、てんやにて中喰、やつことふふ、夫ろあらふだ通り暫く行、筑前之内二軒茶やにて休ム、さとふもち有、夫ろおぐら通り少行、大くら通り暫く行、暮比黒崎につく、爰に留る、

道五里、船路三里、べ八里 宿 黒崎わたや七蔵殿

百二十文はたご

同廿一日 清天時々小雨

早朝黒崎立少行、道ばた茶やに休ミ、夫ろ少行、上の原夫より少行、高しゆく、夫ろ少行、石坂ニ休ミ、夫ろ同町通り、木屋の瀬川を渡り、又植木川を渡る、何れも十二文渡し也、夫より植木町を通り、暫「 」しはらく行、八い

心願成就、萬叶

\* 小字・薄字は、原本朱書き。なお、五月十七日以降は、原本小字墨書き。